

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	昭和大学	大学名	昭和大学
研究プロジェクト名	口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

疾患や加齢によって低下した摂食、発声、呼吸などの口腔機能の回復・維持は、心身の健康と QOL の向上を図るために重要な課題であり、その方策として次世代を見据えた口腔の衛生管理、疾患治療およびリハビリテーションシステムの開発が極めて重要である。一度崩壊した口腔機能を元通りに修復するのは、最新の医療を以てしても困難なことが多い。そこで我々は、相互に関連する基礎と臨床の研究者が連携することによって、口腔組織の機能とその破綻について解明し、次世代を見据えた新たな臨床技術の開発を目指す。すなわち、病理学研究者は加齢に伴う唾液腺萎縮の変化を解析し、それが口腔疾患や補綴装置の汚染に及ぼす影響について歯科補綴学研究者とともに解明する。細菌感染による口腔環境の増悪については、微生物学研究者が粘膜免疫機能について解析し、その結果に基づき、口腔衛生研究者が口腔ケアを検討する。また、歯科薬理学と医学部腫瘍内科学の研究者の連携により、顎骨壊死など薬物誘導性の口腔疾患の発症機序を解明する。生理学研究者は、神経による咀嚼制御機序を解析し、その結果に基づいて口腔リハビリテーション研究者が咀嚼・嚥下機能検査法の開発を試みる。生化学と血液内科学の研究者は、口腔粘膜炎症と全身性疾患との関係解明に臨む。解剖学研究者は、加齢にともなう顎口腔形態と歯の喪失について組織学的解析を実施し、歯科矯正学研究者とともに顎・口腔の応力とひずみの変化について検討する。このように、基礎と臨床の連携により集学的な研究を実施することで、口腔機能の維持・崩壊機序を解明し、新たな医療技術を開発する。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本プロジェクトは、(1) 口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズムを解明する基礎研究、(2) 口腔機能回復のための技術基盤構築を行う臨床研究の2つのユニットから構成されている。ユニット(1)では、①唾液腺組織において CD133 陽性細胞が幹細胞であること、またその形態形成にメラトニンが重要な因子であること、②口腔組織に存在する神経堤由来細胞に骨芽細胞への分化能があること、③常在性連鎖球菌が口腔組織の自然免疫制御の重要な因子であること、④骨吸収抑制剤を用いた研究で、破骨細胞の抑制が歯の萌出障害をもたらすこと、⑤脳脊髄液の環流モデルが生理的な顎・舌運動の機能評価に適していること、が明らかとなった。ユニット(2)では、①造血幹細胞移植における常在細菌叢の破綻が口腔粘膜障害の誘因となること、②口腔ケアキットを用いた口腔ケアが人工呼吸器肺炎(VAP)の予防に有効であること、③新規に開発されたジェルが要介護高齢者の口腔ケアに有効であること、④光重合型 MPC ポリマーが新規の義歯コーティング剤として有効(バイオフィルム形成阻害)であること、が明らかとなった。以上のように、本プロジェクトは本学口腔ケアセンターを中心に基礎・臨床研究とともに当初の計画通り順調に進捗している。

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

**平成 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 昭和大学 2 大学名 昭和大学

3 研究組織名 昭和大学口腔ケアセンター

4 プロジェクト所在地 東京都品川区旗の台1-5-8

5 研究プロジェクト名 口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
美島 健二	歯学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 60 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
美島 健二	歯学部・教授	口腔環境に変化を与える要因としての唾液腺加齢システムの解析	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
中村 雅典	歯学部・教授	加齢と歯の喪失に伴う口腔粘膜のバリア構造の変化と口腔環境の関係解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
桑田 啓貴	歯学部・教授	口腔内と上気道部の粘膜バリアによる口腔環境の恒常性維持機構の解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
井上 富雄	歯学部・教授	口腔環境の恒常性を司る下顎・舌・口唇・頬の協調機構の解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
上條 竜太郎	歯学部・教授	口腔粘膜炎症に伴う口腔環境恒常性破綻と全身性疾患の相互作用解明	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
高見 正道	歯学部・教授	硬組織代謝調節剤が口腔環境の恒常性と破綻に及ぼす影響の解析	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
弘中 祥司	歯学部・教授	効果的機能回復のための口腔ケアのギアチェンジ条件の最適化	口腔機能回復のための技術基盤構築
佐々木 康綱	医学部・教授	骨吸収抑制剤誘導性顎骨壊死における抜歯以外のリスクファクターの同定	口腔機能回復のための技術基盤構築
中牧 剛	医学部・教授	造血幹細胞移植時の口腔機能障害に対して行う口腔ケアの有用性の解析	口腔機能回復のための技術基盤構築

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

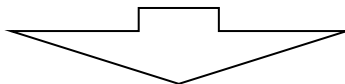
馬場 一美	歯学部・教授	口腔機能と健康を維持するための”汚れない”補綴装置の開発	口腔機能回復のための技術基盤構築
榎 宏太郎	歯学部・教授	高齢者の口腔機能回復のための超微弱力矯正システムの応用	口腔機能回復のための技術基盤構築
高橋 浩二	歯学部・教授	口腔機能回復のための新規嚥下機能検査法の開発	口腔機能回復のための技術基盤構築
(共同研究機関等)			
阪井 丘芳	大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座顎口腔機能治療学教室・教授	唾液腺発生・再生と口腔環境維持におけるホルモン作用機構の解析	口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明
角 保徳	国立長寿医療研究センター 歯科口腔先進医療開発センター 歯科口腔先端診療開発部 部長	要介護高齢者への安全な口腔ケア・口腔機能向上手法の開発	口腔機能回復のための技術基盤構築
岸本 裕充	兵庫医科大学歯科口腔外科学・主任教授	経口挿管患者における新しい口腔ケアシステムの開発	口腔機能回復のための技術基盤構築

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

疾患や加齢によって低下した摂食、発声、呼吸などの口腔機能の回復・維持は、心身の健康と QOL の向上を図るために火急の対応を要する課題であり、その方策として次世代を見据えた口腔の衛生管理、疾患治療およびリハビリテーションシステムの開発が極めて重要である。本プロジェクトでは、口腔関連分野の先鋭な専門家を加えることで、粘膜、唾液、歯、神経などの口腔環境の恒常性維持・破綻機序を詳細に解析し、得られたエビデンスに基づいて嚥下、顎骨壊死、補綴、矯正、口腔ケアなどを対象とした高度で革新的な医療技術を開発する。すなわち本プロジェクトは、口腔機能維持・回復のための研究拠点を確立し、国民の健康と QOL の向上を促進するとともに、わが国における将来の医療を担う優秀な人材を育成することを目的とする。研究計画としては疾患特性に合わせた口腔機能維持・管理・回復システムの実態と口腔内環境の問題点を症例より抽出し、どのようなアプローチで解決するか、臨床および基礎的視点から調査・研究フローを組み立て、口腔機能障害の症例を重症度や患者数などを指標として分類する。それらの発症機序を解明するための研究手法を構築し、次世代型口腔機能維持・管理・回復システムを考案するための科学的エビデンスを収集し、それに基づき口腔機能に関する臨床評価体制とエビデンスに基づいた新たな口腔機能回復技術を確立する。さらに開発した口腔機能回復技術を用いて口腔機能の臨床的評価を実施し、最終的にその有効性を従来技術と比較するとともに問題点を改善し、次世代型口腔機能維持・管理・回復システムを確立する。

(2)研究組織

本研究は、2つのグループにより遂行されている。すなわち、口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズムを解明する基礎研究グループと、次世代の新しい口腔ケアシステムを確立する臨床研究グループが組織されている。これらのグループの構成員は、本領域において卓越した業績をあげている本学口腔ケアセンターおよび医・歯学部の基礎・臨床研究者に加え、唾液腺発生・再生の専門家として大阪大学、周術期口腔ケアの専門家として兵庫医科大学、および老年歯科医療の専門家として国立長寿医療研究センターの研究者からなり、異分野の研究者が参画する異分野横断型のチーム編成となっている。

(3)研究施設・設備等

別添資料 1 参照

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<p><現在までの進捗状況及び達成度></p> <p>1. 口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズム解明</p> <p>1-1 口腔環境に変化を与える要因としての唾液腺加齢システムの解析(美島)</p> <p>6週齢のマウス顎下腺におけるCD133陽性細胞の割合は、血球系細胞を除いた細胞中3%で、これらの分画の細胞の殆どはEpCAM陽性の上皮系細胞であった。また、これらの細胞は介在部ないし線条部導管に分布していた。さらに、CD133陽性細胞はCD133陰性細胞よりも有意にスフェアー形成能が高く、幹細胞の性格を有する可能性が示唆された。次に、マウス唾液腺損傷モデルへの細胞移植により腺組織再構築能の有無について検討した結果、CD133陽性細胞移植マウスの損傷唾液腺内で移植細胞による腺房細胞をはじめとした腺組織の再生像が認められた。これより、CD133陽性細胞は唾液腺幹細胞の濃縮された細胞集団であることが明らかとなった。さらに、CD133陽性細胞の幹細胞性を制御する因子を同定する目的で、RNA seqを用い遺伝子発現プロファイルを作成した結果、CD133陽性細胞では陰性細胞と比較してSox9を含めた複数の転写因子の発現していることが明らかとなった。加えて、CD133陰性分画の細胞にSox9を強制発現すると、有意にスフェアー形成能が上昇することが明らかとなった。</p> <p>1-2 唾液腺発生・再生と口腔環境維持におけるホルモン作用機構の解析(阪井)</p> <p>ホルモン受容体を介した唾液腺分枝形態形成機構を解析するために、胎生13日目マウス唾液腺の器官培養系にエストロゲン、プロゲステロンおよびメラトニンをそれぞれ添加し、各ホルモンの分枝形態形成への関与を検証した。興味深いことに*メラトニンは胎生期唾液腺の分枝形態形成を抑制する作用を有していた(Obana-Koshino et al. 2015)。メラトニンは松果体から分泌され、血流を介して全身に行き渡り、唾液中からも検出されると考えられているが、本研究によって初めて、胎生期の唾液腺から強く分泌されていることが明らかになった。特に分枝形態形成の初期である胎生13日目の唾液腺がメラトニンを強く発現していた。さらに胎生期初期から唾液腺そのものもメラトニン受容体を有しており、オートクライン的に臓器形成に影響を与えていることが示唆された。それらの調整作用はアポトーシスや細胞増殖には大きな影響を与えず、上皮の細胞接着に変化を与えながら、緩やかに臓器形成を調節していることが明らかとなった。以前に性腺への発達に対する影響を示唆する報告をされているが、本結果は別の機構で外分泌腺の形成に関与することが示された。iPS細胞を用いた唾液腺再生では奇形腫の形成が危惧されているが*(Ono et al. 2015)、肥大化や腫瘍化の抑制を含めて、ホルモンの有効活用は新たな展開が期待される。</p> <p>1-3 加齢と歯の喪失に伴う口腔粘膜のバリア構造の変化と口腔環境の関係解明(中村)</p> <p>人体解剖学実習にご提供いただいたご遺体から採取した口腔粘膜組織を用いて、安定した結果を得るための免疫組織化学染色法を確立して行った。この間、人体解剖学実習におけるご遺体の固定法についての種々の変更・開発が国内外で行われてきたこともあり、その流れに沿った固定法と本研究結果への影響について研究期間の大部分を費やすこととなった。これまでの結果、データ取得のための安定したご遺体固定法と口腔粘膜組織の免疫組織化学染色法を確立することが出来た。データ数は未だ少なく、統計的解析まで行うことは出来ていないが、口腔粘膜各部位で、粘膜固有層に局在する抗原提示細胞(HLA-DR, S-100陽性細胞)数に相違があることが示されてきた。また、性差や有歯顎・無歯顎における相違については十分はデータ数の獲得には至っていない。</p> <p>1-4 口腔環境の恒常性を司る下顎・舌・口唇・頬の協調機構の解明(井上)</p> <p>口腔環境維持のための下顎・舌・口唇・頬の協調機構を解析するため、心臓移植時に行われる体外循環法を動物に適用した実験モデルの確立を行った。この実験モデルは、酸素化した人工の脳脊髄液を下行大動脈よりポンプで送り込み、各組織に酸素を直接届けることを特徴とする。そのため、循環・呼吸中枢が存在する脳幹への実験操作により、動物の状態が悪化して、実験が継続出来なくなる恐れが軽減される。*横隔神経の吸息活動を指標に調べたところ、この方法で充分な量の酸素が中枢神経系に送られていた。また、人工脳脊髄液の二酸化炭素分圧を上げ、標本をアシドーシス状態にすると、上気道を形成する舌根や喉頭の筋を支配する神経の活動が、横隔神経の活動に先行して起こるようになることもわかった(Tachikawa et al. 2016)。この現象は、生体内の二酸化炭素を効率良く排出するために起こる現象と考えられ、作成した実験モデルが、生体での機能を高く保持していることを示唆している。この実験モデルを用いて、硬口蓋を電気刺激したところ、顎舌骨筋神経と舌下神経に同期してリズム活動が見られた。これにより、顎・舌のリズム運動とその協調に係わる神経機構を調べるためのモデルの確立に成功した。</p> <p>1-5 口腔内と上気道部の粘膜バリアによる口腔環境の恒常性維持機構の解明(桑田)</p> <p>口腔粘膜環境における恒常性維持必須の因子として常在細菌叢の存在が重要と考えられている。健常者における細菌叢構成細菌の一つとして、Mitisレンサ球菌は、小児期において乳歯萌出以前より口腔粘膜への定着開始が認められる。齧蝕原性Mutansレンサ球菌と負の相関が認められるなど、疫学的な調査から口腔健全性の維持に有益であることが示された。Mitisレンサ球菌の特徴として、過酸化水素産生能が知られている。粘膜組織に存在している自然免疫細胞(マクロファージ等)は、血管を巡回している通常の免疫細胞とは異なり、常在細菌に常時接触していることから、普段は過剰な免疫応答が起きないよう活性化が厳密に抑制されている。我々は、Mitisレンサ球菌の産生する過酸化水素がマクロファージに作用し、細胞骨格リモデリングを抑制することで、自然免疫受容体シグナルに対して抑制的に働くことを見出した。このように、*口腔内の恒常性維持には、常在性レンサ球菌の産生物による自然免疫細胞活性化制御が重要なファクターであることが示唆された(Matsushima et al. 2017, Okahashi et al. 2016)。</p> <p>1-6 口腔粘膜炎に伴う口腔環境恒常性破綻と全身性疾患の相互作用解明(上條)</p> <p>胎生期の神経管癒合部で生じる神経堤細胞は、上皮-間葉転換を伴いながら神経堤由来細胞(NCDC)として胚内を遊走し、各定着先で未分化な状態で潜伏する。NCDCは再生医療の有用な細胞源であり、我々は口腔粘膜炎における組織修復に関与する可能性について検討した。NCDCが特異的にGFPを発現するP0-Cre-/Flxed-EGFPマウスを用いて、*成体マウスの顎下腺からNCDCを単離し細胞表面分子の遺伝子発現プロファイルを同定した(Takahashi et al. 2014)。さらに*NCDCが成体マウスの舌や歯肉などに存在し骨芽細胞に分化することを明らかにした(Ono et al. 2015)。現在、炎症で産生が亢進する一酸化窒素(NO)由来の新規細胞内シグナル分子8-NO₂-cGMPのNCDCにおける生成および細胞内シグナル伝達の変化について解析中である。</p> <p>1-7 硬組織代謝調節剤が口腔環境の恒常性と破綻に及ぼす影響の解析(高見)</p> <p>骨破壊モデルの作製と薬剤の局所投与方法条件を最適化、具体的には、骨破壊因子である菌体成分LPSをマウスに投与し、骨破壊の程度をμCTを用いて定量化することができた。また、コラーゲンゲルを基材として用いることで、薬剤を局所に滞留させることに成功した。一方、テリパラチドによる骨形成促進剤の投与量・投与間隔の検討においては、その効果を得ることができなかった。そのため、テリパラチドの代わりに骨吸収抑制剤ビスホスホネートの1つであるゾレドロネートおよび抗RANKL抗体を用いた硬組織破壊抑制実験を幼若マウスを用いて実施した。その結果、ゾレドロネートは初回投与のみで強力な骨吸収抑制を示すとともに、その後の成長まで抑制した。また、</p>

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

抗 RANKL 抗体を投与したところ、投与間隔が1週間以内であれば強い骨吸収抑制効果を発揮することが明らかになった。投与量と投与間隔を変化させ各組織がどのような影響を受けたか検討したところ、興味深いことにゾレドロネートを投与した幼若マウスの歯は萌出が阻害されていた。すなわち、当初使用する予定の薬物であったテリパラチドをゾレドロネートに変更したものの、歯の萌出阻害という新しい解析結果を得ることができた。

2. 口腔機能回復のための技術基盤構築

2-1 効果的機能回復のための口腔ケアのギアチェンジ条件の最適化(弘中)

造血幹細胞移植(HSCT)とその前処置によって70~90%の患者に口腔粘膜障害(OM)が発症する。そのうち骨髄抑制および免疫抑制による口腔粘膜細胞の高度な損傷により引き起こされる二次的なOMは、口腔ケアによって制御することができる。そこで、HSCT前後のOM重症度、口腔内衛生状態の評価と口腔内細菌の採取、制定を行い、どのような変化が見られるかを縦断的に検討した。重度OMを発症した患者は3thから4thで増加し、5thで減少した。一患者あたり同定された細菌種の総数は、1stから5thに渡って徐々に減少した。HSCT前にはほとんどの患者からStreptococcus spが同定されたがHSCT後に減少し、コアグラゼ陰性ブドウ球菌(CNS)が同定される割合が増加した。Enterococcus spの同定とHSCT後のCandida spの増加は、OMと関連していた。OMを発症した患者のAlb値は、HSCT後の回復が悪く、予後についても悪かった* (学会発表1)投稿中)。一部の患者の口腔内細菌叢は、HSCT後に菌交代現象を生じ、特に、Enterococcus spおよびCandida spは、OM発症に大きく関与する因子であることが示唆された。また、OMは栄養状態の改善を妨げ、HSCTの予後に影響を与えることからOM発症を抑制するために、これらの細菌感染を防ぎ、より積極的な口腔衛生管理および指導を行う必要があると考えられた。

2-2 要介護高齢者への安全な口腔ケア・口腔機能向上手法の開発(角)

口腔機能が低下した要介護高齢者に対する口腔ケア時に使用するジェルが必要かつ適正な物性を、試作品を用いて市販品の保湿剤と比較・検討し、そのジェルでブラークの除去効果および咽頭への流入しにくさについて評価・検討を行った。口腔ケア用ジェルに必要な種々の物性を検討し試作ジェルを作成し、*嚥下機能と口腔ケアを十分に理解した医療者がVAS法を用いて評価した際に、口腔ケア用ジェルに必要な物性の項目においてVAS値が安定して高評価を得た(守谷ら2016)。そのジェルを用いた、*ブラッシング時のジェルの使用は、洗浄水の使用よりもブラークの除去効果が高いことが認められた(守谷ら2016)。咽頭への流入のしにくさは、ブラッシングの*ジェル使用時が水使用時に比較して有意に吸引回数が少なかった(守谷ら2016)。以上の結果より、本研究において口腔ケア用ジェルが新規に開発され、製品化に至った。製品化の前後では、物性の客観的評価として一般的に多く使用されている市販品の保湿剤を含めた各種ジェルの流動性、広がりやすさ、粘度と回転数の関係、pHの測定、浸透圧比の測定を行い、評価しつつある。いずれも市販品よりも本研究により開発されたジェルが高評価や安全性を示しつつある。

2-3 骨吸収抑制剤誘導性顎骨壊死における抜歯以外のリスクファクターの同定(佐々木)

がん薬物療法前に口腔内合併症と治療の必要性の基礎的データを収集し、がん薬物療法施行時に発症した骨吸収抑制剤誘導性顎骨壊死をはじめとして有害事象の頻度、種類、重篤度の評価と治療前のスクリーニング結果との相関を評価することを目的とし、予定症例数300例に対して、現在まで14例の評価が終了している。

2-4 造血幹細胞移植時の口腔機能障害に対して行う口腔ケアの有用性の解析(中牧)

造血幹細胞移植について治療成績を改善するための問題点を明確にするためにその現状を自家移植と同種移植について後方視的に検討した。再発悪性リンパ腫では、自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法が有用とされる。しかし強い骨髄抑制に伴う治療毒性は治療予後を左右する。当教室の解析から*移植前のCRPは移植成績に影響する有意な予後因子であることが明らかとなった(Ariizumi et al. 2015)。CRPが高値となる病態の背景として口腔内を含めた患者のHematopoietic cell transplantation-specific comorbidity indexの重要性を明らかにした。同種移植の解析ではGVHD予防のための免疫抑制薬(MTX)の用量調節(減量)など投与法が、*治療予後、非再発臓器毒性に影響することを明らかにした(Saito et al. 2016)。MTXは粘膜障害の強い薬物であり、その減量は口腔内病変をより軽減できることにもつながる成果である。同種移植に伴う著しい免疫抑制状態は、口腔内細菌叢に影響を与え、その病態は移植患者の深在性感染として重要である。また口内炎の併存は移植患者の経口摂取にも影響し栄養状態を介し治療予後に影響する。VITEK-MSを用い当科での同種移植19症例で口腔内細菌叢の経時的推移を前方視的に解析し、*腸球菌と真菌(candida)の増加が口腔の炎症性病変と関連することを明らかにした(Osakabe et al. 投稿中)。

2-5 経口挿管患者における新しい口腔ケアシステムの開発(岸本)

周術期口腔機能管理の対象になる口腔に関連した合併症のうち、人工呼吸器関連肺炎(VAP)の予防とビスフォスフォネート(BP)関連顎骨壊死(BRONJ)の2つを対象を絞って研究を進めた。まず、VAP予防に関して、がんや心臓外科の予定手術では、手術「前」からの口腔管理が普及し、予備調査でVAPを含めた術後肺炎の予防が可能となりつつあることが判明した。そこで、事前に歯科の介入が難しい対象として、当院救命救急センターに収容され、気管挿管患者を受ける患者に限定し、2種類の口腔ケア方法でVAP発症率の差を評価した。その結果、*従来からの口腔ケア方法に比較して、口腔・咽頭を洗浄せず、吸引を重視した口腔ケアキットを用いた群の方が有意にVAPの発症が少ないことを明らかにした(門井ら、2016年;投稿準備中)。一方、BRONJについては、*患者数は10倍以上に増加していることがわかった(首藤ら、2015年)。患者数増加の背景として、BPを長期で使用する患者の増加があるが、無策に抜歯の制限をしたことも背景にあると考えられる。

2-6 口腔機能と健康を維持するための”汚れない”補綴装置の開発(馬場)

デンチャーブラークを抑制する方法の開発を目指し、初年度に義歯床用加熱重合レジンに対して、DLC(Diamond like carbon)によるデンチャーブラーク付着およびバイオフィーム形成の抑制に関する検討を試みたが、耐摩耗性(剥離強度)および操作性に問題があることが判明した。コーティング技術に関して、耐食性・化学的安定性・操作性をも考慮した結果、MPC(2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine)を用いて詳細に検討することとした。加熱重合アクリリックレジンに対してグラフト重合法によりMPCを適用し、刷掃試験とS. mutansバイオフィーム形成試験を行った。*X線分光分析法(XPS)、接触角度測定、蛍光顕微鏡観察、タンパク吸着特性試験の結果、MPCの有用性が示唆された(Takahashi et al. 2014)。また、*臨床的に簡便と考えられるDipping法と、よりコーティングが容易な光重合型MPCポリマー(PMBPAz)についての検討を行い、補綴装置(全部床義歯)への適用に成功した(Ikeya et al. 2016, 池谷ら2016)。

2-7 高齢者の口腔機能回復のための超微弱力矯正システムの応用(楨)

口唇圧を客観的に評価するために、牽引速度を一定に設定したモーター式電動スライダーを作製し、定速で牽引を行い、口唇からボタンが外れた時点の最大牽引力を以下の条件で測定した。1)ボタン直径:直径25mmのボタンで計測を行った、2)牽引方向:ボタンから測定器までの距離を20cmとし、FH平面と床が平行になるように頭部を位置づけ、牽引方向は水平になるようにした、3)牽引速度:45mm/sで計測を行った。上記の方法にて、63名(男性26名、女性37名)の計測を行った。口輪筋肉最大牽引力の計測、口輪筋電図の記録、側面頭頸X線規格写真の分析

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

を行った。*その結果、最大牽引力とオトガイのくぼみの大きさに関して有意な正の相関関係が認められた。また、オトガイのくぼみと下顎前歯歯軸傾斜角に有意な正の相関関係が認められた (古谷亮子 2015)。

2-8 口腔機能回復のための新規嚥下機能検査法の開発 (高橋)

ゴールドスタンダードな嚥下機能検査法である嚥下造影検査法ならびに嚥下内視鏡検査法では患者の足底を接地した状態で検査することが推奨されている。しかし、足底の接地状態と嚥下機能の関連について検討した研究はわれわれが渉猟した範囲ではない。そこで本研究は足底の接地条件が嚥下関連筋の筋活動に与える影響を検討するために行った。健康成人 22 名 (男性: 12 名、女性 10 名) とし、足底を接地させて膝関節角度 90 度、135 度、180 度を保持した姿勢、および足底を接地しない姿勢の 4 つの条件下で、最大舌圧 (TP)、最大口唇閉鎖力 (LF)、唾液嚥下時の舌骨上筋群の筋活動時間 (Duration) と活動量 (Area) を測定し、それぞれの関連性について解析した。その結果、TP、LF では各姿勢間で有意差は認められなかった。また足底接地の有無間で Duration と Area について有意差は認められなかった。しかし、足底接地の 4 条件の比較では、膝関節角度 90 度、180 度、足底接地なし、角度 135 度の順に Duration は延長し、Area は増加する傾向を確認した。

<特に優れた研究成果>

1-1 唾液腺で初めて CD133 陽性細胞が幹細胞マーカーとして応用可能であることを明らかにした点や CD133 は細胞膜に局在するため、本因子を指標に唾液腺幹細胞の単離が容易に行えるようになった点が上げられる。

1-2 メラトニンはホルモンとして松果体から分泌され、血流を介して全身に行き渡り、唾液中からも検出されることが示されてきた。本研究から個別の臓器からも分泌すること、胎生期にも分泌されていることが明らかになった。

1-3 人体を用いた口腔粘膜部位における免疫担当細胞の局在差や有歯顎・無歯顎における相違に関する研究報告は皆無であった。本研究におけるこれまでのデータで部位による相違が初めて示唆されてきた。

1-4 下顎・舌・口唇・頬の協調運動は、循環・呼吸中枢に近い脳幹部で調整されているため、その部位への実験操作は実験動物の状態を悪化させ実験継続が困難であったが、脳幹への操作が容易な実験モデルを確立できた。

1-5 Mitis レンサ球菌から産生された過酸化水素を含む培養上清がマクロファージの活性化を抑制することを、マイクロアレイ解析により明らかにした。また免疫細胞活性化に必須の NF- κ B などの抑制が重要であると考えられた。

1-6 神経堤由来細胞 (NCDC) を成体マウスの顎下腺から単離し、細胞表面分子の遺伝子発現プロファイルを同定した。また、NCDC が舌や歯肉など様々な口腔粘膜組織にも高密度に分布していることを明らかにした。

1-7 骨吸収抑制剤を成長途中のマウスに投与すると、著しい成長抑制と歯の萌出不全がおこる。このことは、ビスホスホネートを小児などに投与すると成長や歯の生育に有害であることを示唆する。一方、抗 RANKL 抗体はそのような作用を持たず、骨密度のみを上昇させた。これより、成長過程におけるビスホスホネートの危険性を見出した。

2-1 OM を発症すると激しい疼痛のため経口摂取困難、脱水をきたし低栄養となる。また、OM の潰瘍面から全身への細菌感染が報告されている。過去の研究から OM の発症が生命予後と有意に相関していた (論文投稿中 文献 1))。

2-2 現在、多くの口腔用保湿剤が市販されているが、口腔ケア時の使用を目的として開発されたジェルは少なく、本研究において、ケア時に使用する際に適した物性を兼ね備えたジェルを開発することができた。

2-3 患者自身が全く口腔内の異常を認識していないにもかかわらず、およそ 1/3 の症例で歯科医師より歯科治療の必要性が指摘され、実際に治療が開始されていることが明らかとなった。

2-4 同種移植の支持療法としての抗菌薬の予防投与は現在一般的に行われていて、それを前提とした口腔内細菌叢の変化を明らかにできたことは、今後、支持療法を構築する上で重要である。

2-5 わが国における「BRONJ」に対するポジションペーパー (PP) が出されたにもかかわらず、BRONJ の発症は減少せず、むしろ患者数は 10 倍以上に増加していることを全国に先駆けて明らかにできた (首藤ら 2015 年)。

2-6 抗血栓作用やタンパク付着抑制能を有し、従来医用材料に用いられてきた MPC を応用し、光重合型 MPC ポリマー (PMBPaz) として、より簡便に歯科材料にバイオフィーム形成抑制作用を付与することを可能とした。

2-7 オトガイのくぼみが深いほど下顎前歯は唇側傾斜するとともにボタンプルによる最大牽引力が大きい。

2-8 患者の足底を接地した状態で嚥下機能を検査することが推奨されているが、足底の接地状態と嚥下機能の関連について検討した研究は現在までなかった。本研究では膝関節角度 90 度、180 度、足底接地なし、角度 135 度の順に唾液嚥下時の舌骨上筋群の筋活動時間は延長し、唾液嚥下時の舌骨上筋群の筋活動量は増加する傾向を確認した。

<問題点とその克服方法>

1-1 老齢マウス (72 週齢) の作出に時間がかかる。可及的に多数のマウスを飼育し、比較検討を進める。

1-2 現在のところ、問題点はない。効率的に研究を進めていきたい。

1-3 固定法と方法論の確立に多くの時間を費やした結果、安定した方法論を得ることができた。献体数を増やして解析を進める必要がある。

1-4 脳幹部を、膜電位感受性色素を用いて染色し、咀嚼リズムの形成回路の存在部位を同定しようと試みたが、人工脳脊髄液の体循環による標本の揺れで、現象をうまく分離できなかった。今後は、脳幹の切断実験など別の方法も適用してみる必要がある。

1-5 マクロファージ活性化抑制の分子メカニズムとして、アクチン繊維などの細胞骨格分子の酸化が重要と考えられた。顕微鏡的に、細胞内でのこれらの分子の酸化度を定量的に観察し、具体的な実験方法の検討が必要である。

1-6 マウスの口腔粘膜炎の誘発は現在抗がん剤か放射線照射が主であるが、細菌プロテアーゼや炎症性サイトカインの投与方法を工夫することで炎症を誘発する方法を検討している。

1-7 プレドネロンが成長や歯の萌出を阻害するメカニズムが不明である。薬物を投与したマウスの骨および歯の組織切片を作製し、破骨細胞や骨芽細胞などの硬組織関連細胞の状況を解析するとともに、マウスの体内にチップを埋め込み、コンピューターで体温変化や行動の変化を時系列的に解析する必要がある。

2-1 わが国の造血幹細胞移植患者は、他の臓器がん比べて数は多くないのが現状で、1 年で本学でも 30 件程度である。他の医療機関や本学附属病院に協力してもらい、患者数を増加させたい。

2-2 ジェルの咽頭への流入のしにくさを評価する先行研究がなく、嚥下機能が低下した患者に対して行うことは倫理的問題があり、評価方法に苦悩したが、健康者への咽頭貯留の程度を測ることで流入のリスクとして安全に評価することができた。

2-3 可能な限り多くの新患がん患者の評価を行うため、看護師、事務と協力し、簡便な紹介システムを構築するとともに、紹介した歯科医師からのフィードバックを確認する必要がある。

2-4 口腔内細菌叢について同種移植解析症例数はまだ十分とは言えず、残された研究期間でさらに症例を重ねることで問題点をより明確にできると期待される。

2-5 骨粗鬆症患者での BRONJ の発症率は、2010 年の PP の推定値では 0.01~0.02% と低頻度のため、介入研究が難しい。そこで、対照 (休薬) 群は設定せず、非休薬下の抜歯でも BRONJ が多発しないことを証明していく。

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2-6 口腔内という温度変化および機能運動を生じる環境下では、歯科材料表面にコーティングした MPC の耐摩耗性・安定性を担保するのが困難であった。一般歯科診療で用いる光重合器およびその重合法を検討する。
 2-7 ボタンプレス計測装置が大きく複雑であるため、実用化が困難である。より簡便に評価する計測系を考案する。
 2-8 今回の被検者である健常者数は 22 名と少なく、また年齢層も低い傾向であった。今後は健常被検者数を増やしていくと 70 歳以上の被検者を増やす予定である。さらに健常者との差異の有無を検討するため、嚥下障害患者を対象に加える予定である。研究手法としては被検者の体幹の位置の規定ならびに記録が不十分であったため、冠状方向、矢状方向において被検者の体幹の位置の規定ならびに記録を正確に行う。

<研究成果の副次的効果（実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。）>

1-1 超高齢社会を背景に益々唾液分泌障害に起因する疾患が増加することが想定され、本研究成果により老化による唾液分泌障害のメカニズムが解明されると、唾液腺の機能障害を抑制する薬剤の開発につながる可能性がある。
 1-2 現在のところ、実用化や特許申請に至る副次的な効果はないが、研究成果の活用を目指すように進めたい。
 1-3 本研究は人体を用いた研究であることから、極めて臨床に提供できる貴重な研究であると考えられる。性差あるいは有歯顎・無歯顎における相違が明確になれば、これからの歯科医療の戦略は大きく変わることは明らかである。
 1-4 嚥下・吸啜・呼吸などのリズムの誘発も出来ることから、脳幹に中枢がある咀嚼以外の運動における下顎・舌・唇・頬の協調運動や、運動間の相互調節機構などについても調べることが出来る。
 1-5 口腔内の健常性維持に有益な口腔細菌を見つけることで、高齢者や有病者などで口腔内環境改善を目的とした、有益な口腔細菌カクテルの開発が可能となる。今後は、在宅治療を含めた臨床応用への実用化を検討する。
 1-6 成体マウスの口腔粘膜組織から単離した神経堤由来細胞 (NCDC) を骨芽細胞に分化することを明らかにした。
 1-7 本研究に大学院生などの若手研究者を携わらせることによって、彼らの能力を遺憾なく発揮させることができた。すなわち、将来の科学者の育成に本研究は副次的効果を発揮した。
 2-1 本研究成果の副次的効果は医科歯科連携が進行したことである。医師または歯科医師のみの分業では、本研究の実施は遂行不可であり、看護師の協力も得て医療連携が進行した。本レジメンが実用化につながる可能性は高い。
 2-2 本研究で開発された口腔ケア用ジェルが「お口を洗うジェル」として製品化し、臨床の現場で広がりつつある。
 2-3 これまでがん患者の口腔内状態を前向きに調査した研究は本邦では皆無である。スクリーニングの結果は、今後の関連する研究を実施するに当たっての基礎的データとなることが期待される。
 2-5 抜歯を控える傾向があることに加え、休薬についても議論が多いが、非休薬下の抜歯でも BRONJ が多発しないことを証明できれば、きわめてインパクトがある。
 2-6 本研究で開発した PMBPAz によるコーティング法を補綴装置に適用することにより、本邦の超高齢社会において、口腔清掃不良に起因する誤嚥性肺炎の発症リスクを低下させることが期待できる。
 2-7 口唇閉鎖時には口輪筋ならびにオトガイ筋による下唇の押し上げが起こっていることより、ボタンプレスは他の口唇圧計測方法と比べて、オトガイ筋も含め評価している可能性があることが示唆された。
 2-8 本研究で被検者の膝関節の角度ならびに足底接地と嚥下関連筋活動の関連が明らかになれば、安全に嚥下が行える足底の接地方法が解明され、嚥下障害患者の日常の経口摂取がより安全に施行されるようになると思われる。さらに嚥下障害患者にとって多少の違和感を伴う嚥下調整食や嚥下姿勢の適用を制限することができる。

<今後の研究方針>

1-1 老齢マウスと若齢マウスの唾液腺における幹細胞の存在頻度の比較と機能の評価を行うと共に、幹細胞性の制御因子としての Sox9 やその発現調節因子の発現を比較検討する。
 1-2 メラトニンをはじめとするホルモンの唾液腺における役割や作用、作用機序についてさらなる研究を進め、計画通りに細胞内伝達経路明らかにしていく方針である。
 1-3 有歯顎・無歯顎のご遺体数と男女数を出来る限り調整しながら、これまで行ってきたご遺体の固定法と免疫組織化学染色法を用いて、ご遺体数を増やし、データの取得を行う。
 1-4 咀嚼リズムの形成回路のどの部位からどのような出力が、三叉神経運動核、顔面神経核、舌下神経核などの運動ニューロンに送られているかを調べ、咀嚼時の下顎・舌・唇・頬の協調運動のメカニズムを明らかにする。
 1-5 蛍光顕微鏡を用いて Mitis レンサ球菌が産生する過酸化水素がどの程度マクロファージ細胞の細胞質中に浸透し、細胞内のタンパク質や脂質、核酸などの成分がどの程度酸化されるのかなど、生物学的影響について検討する。
 1-6 細菌プロテアーゼや炎症性サイトカインで誘導される口腔粘膜炎症モデル動物を確立し、炎症反応の進展と組織修復に伴う NCDC の遺伝子発現およびタンパク質発現の変化を分子レベルで明らかにする。
 1-7 プレドネロンがいかなるメカニズムによって成長や歯の萌出を阻害するのか、組織学的・生化学的・薬理的な解析を実施する。また、アレンドロネートなど、プレドネロン以外のビスホスホネートを用い、成長抑制や歯の萌出阻害がビスホスホネートに共通する作用なのか明らかにする。これの研究によって、ビスホスホネートに新たな有害作用があることを論文や学会を通じて発信していく。
 2-1 今後も対象疾患の患者数を増やすことに注視し、医科歯科医療連携の進行に伴い、新たながん治療（造血幹細胞移植）のレジメンの一つに本研究のプロトコルが使用できるように普及させたいと考えている。
 2-2 開発した「お口を洗うジェル」の更なる物性の評価を行う。加えて、開発したジェルを用いた「水を使わない口腔ケア」を当院の病棟看護師に普及し、看護師の口腔ケアに対する認識などに与える影響を評価する予定である。
 2-3 本研究は、登録および結果の解析までおよそ 2 年間を予定している。順調に症例を集積すべく腫瘍内科スタッフ、歯科口腔外科および病院事務と協力の上研究を継続する。
 2-4 現在、栄養士、昭和大学保健医療学部、理学療法士の協力を得て、同種移植患者の移植前後の栄養状態・運動機能解析を行っている。口腔内病変・口腔ケアとこれらの知見との関連をさらに検討する。
 2-5 日本集中治療医学会と日本クリティカルケア看護学会の合同で、気管挿管患者の口腔ケア手順を策定中で、研究分担者は合同委員会に所属している。最新の口腔ケア方法（口腔管理の一部）による VAP 予防効果を検証したい。
 2-6 本研究で開発した PMBPAz によるコーティング法について、患者に装着されている歯科補綴装置に適用し、コーティング群と非コーティング群での比較をして、その臨床的評価を行っていく予定である。
 2-7 頬、舌および口唇などの口腔周囲筋群は咬合、歯列弓に作用を及ぼし口腔顎顔面の形態や機能などと複雑に関係しているため、今後は口唇圧だけでなく頬圧、舌圧も評価できるような新しい計測系を確立する。空気圧を利用した新しい計測方法を考案し、口唇筋圧（口唇圧・頬圧・舌圧）と歯列弓形態の関連について明らかにする。
 2-8 被検者の体幹の位置の規定ならびに記録が不十分であったため、環状方向、矢状方向において被検者の体幹の位置の規定ならびに記録を正確に行う。また健常被検者数を増やしていくと 70 歳以上の被検者を増やす予定である。さ

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

らに健常者との差異の有無を検討するため、嚥下障害患者を対象に加える予定である。

<今後期待される研究成果>

- 1-1 当該研究により、若齢マウスと比較して老齢マウスの唾液腺幹細胞の機能低下の有無が明らかとなり、唾液腺老化の原因が、幹細胞自身によるものか、あるいは周囲微小環境の変化に起因するものかどうか明らかとなる。
- 1-3 人体を用いた研究データは医療に対して極めて貴重な情報を提供するものである。性差あるいは咬合状態の相違が口腔粘膜組織の免疫学的特異性に影響する可能性を示すことが期待される。
- 1-5 口腔の健全性を維持する口腔細菌細菌叢カクテルを開発することで、健常者の口腔健全性の維持の強化や小児のう蝕予防、高齢者や有病者の口腔環境改善などが可能となる。
- 1-4 咀嚼中枢やその入出力の制御機構、また咀嚼時の下顎・舌・口唇・頬の協調機構への嚥下・呼吸の影響を明らかにすることによって、口腔環境維持のために適切な咀嚼・嚥下機能検査法の開発の基礎データが得られる。
- 1-6 口腔粘膜炎における病態変化を分子レベルで解明し、口腔粘膜炎モデル動物を用いて血中の炎症マーカーおよびサイトカインプロファイルの変化を解析することで口腔粘膜炎が全身状態に及ぼす影響を明らかにする。
- 1-7 ビスホスホネートが破骨細胞の機能だけでなく、生体内の様々な細胞や組織に影響を与えることを明らかにすることができる。また、種々のビスホスホネートの作用を比較検討することで、成長に影響を与えにくいものを選抜したり、抗 RANKL 抗体と比較することで、新しい骨吸収抑制剤の概念を提唱できることが期待される。
- 1-2 抗酸化作用を有するホルモンとして注目されているメラトニンの新しい作用とそのメカニズム解析が進み、臨床応用への方向性を示せるように努力していきたい。
- 2-2 本研究で開発した「お口を洗うジェル」を用いた「水を使わない口腔ケア」は、要介護高齢者の口腔ケア方法として誤嚥性肺炎や他の疾病の予防や治療に貢献し、低栄養を防ぎ、早期退院の達成につながることを期待される。
- 2-3 本研究を継続するとともにがん薬物療法に伴う口腔内合併症を含めた有害事象の発現にスクリーニングで判明した口腔内の状態がどの程度関与するかが明確になると期待している。また、用いる抗悪性腫瘍薬の種類と口腔内合併症の状態が明確となることを期待されるとともに、わが国のがん医療における医科歯科連携が一層推進されることも期待される。
- 2-4 60 歳を超える高齢患者が移植治療の中心となっている。実臨床での口腔内病変・口腔ケアの移植成績への影響を総合的に解析し、包括的な移植治療の構築への貢献が期待される。
- 2-5 海外の口腔ケアによる VAP 予防研究は、看護師単独で、グルコン酸クロルヘキシジン (CHG) などの消毒薬を併用したものが多く、歯垢の性質を熟知した歯科医師が口腔管理に加わる意義を、わが国から発信する。
- 2-6 各種補綴装置に特有の細菌群を特定し、さらに PMPAz によるコーティング法を応用していくことで、歯科補綴装置に付着しやすい細菌への抵抗性を有するコーティング法の開発が期待される。
- 2-7 口唇圧、頬圧、舌圧を定量的に評価し、口腔筋圧と歯列弓形態や顎顔面形態との関連について明らかにする。
- 2-8 本研究により安全に嚥下が行える足底の接地方法が解明され、嚥下障害患者の日常の経口摂取がより安全に施行されるようになる。すなわち嚥下障害患者にとって多少の違和感を伴う嚥下調整食や嚥下姿勢の適用を制限することができる可能性が考えられる。さらに食事介助者や食事調理者の負担軽減に繋がることも期待される。

<自己評価の実施結果及び対応状況>

別添資料 2 参照

<外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況>

別添資料 2 参照

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| (1) <u>口腔機能</u> | (2) <u>唾液</u> | (3) <u>骨吸収</u> |
| (4) <u>高齢者</u> | (5) <u>口腔ケア</u> | (6) <u>硬組織</u> |
| (7) <u>口腔環境</u> | (8) <u>歯科医療</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

《プロジェクト1》

1-1

- Bin B, Bhin J, Seo J, Kim SY, Lee E, Park K, Choi DH, Takagishi T, Hara T, Hwang D, Koseki H, Asada Y, Shimoda S, Mishima K, Fukada T : Requirement of zinc transporter SLC39A7/ZIP7 for dermal development to fine-tune endoplasmic reticulum function by regulating protein disulfide isomerase. *J Invest Dermatol*, (in press) (査読有)
- Takebe Y, Tatehara S, Fukushima T, Tokuyama-Toda R, Yasuhara R, Mishima K, Satomura K : Novel Cryopreservation Method for the Effective Collection of Dental Pulp Stem Cells. *Tissue Eng Part C Methods*, 2017 (in press) (査読有)
- Funato S, Yasuhara R, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Suzawa T, Chikazu D, Mishima K, Baba K, Kamijo R : Extracellular matrix loss in chondrocytes after exposure to interleukin-1 β in NADPH oxidase-dependent manner. *Cell Tissue Res*, 368 : 135-144, 2017 (査読有)
- Hoashi Y, Okamoto S, Abe Y, Matsumoto T, Tanaka J, Yoshida Y, Imaizumi K, Mishima K, Akamatsu W, Okano H, Baba K : Generation of neural cells using iPSCs from sleep bruxism patients with 5-HT2A polymorphism. *J Prosthodont Res*,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

S1883-1958 : 30106-2, 2016 (査読有)

5. Inoue H, Kishimoto A, Nakayama RU, Hasaka A, Takahashi A, Ryo A, Muramatsu T, Ide F, Mishima K, Saito I : Resveratrol improves salivary dysfunction in a non-obese diabetic (NOD) mouse model of Sjögren's syndrome. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 59 : 107-112, 2016 (査読有)
6. Ohashi W, Kimura S, Iwanaga T, Furusawa Y, Irié T, Izumi H, Watanabe T, Hijikata A, Hara T, Ohara O, Koseki H, Sato T, Robine S, Mori H, Hattori Y, Watarai H, Mishima K, Ohno H, Hase K, Fukada T : Zinc transporter SLC39A7/ZIP7 promotes intestinal epithelial self-renewal by resolving ER stress. *PLoS Genetics*, 12 : e1006349, 2016(査読有)
7. Saito Y, Yamada A, Suzuki D, Tanaka J, Nagahama R, Kurosawa T, Maki K, Mishima K, Shirota T, Kamijo R : Association of aging with gene expression profiling in mouse submandibular glands. *Genom Data*, 5:115-9, 2015. (査読有)
8. Nagahama R, Yamada A, Tanaka J, Aizawa R, Suzuki D, Kassai H, Yamamoto M, Mishima K, Aiba A, Maki K, Kamijo R : Rho GTPase protein Cdc42 is critical for postnatal cartilage development. *Biochem Biophys Res Commun*, 470:813-817, 2016(査読有)
9. Yasuhara R, Irié T, Suzuki K, Sawada T, Miwa N, Sasaki A, Tsunoda Y, Nakamura S, Mishima K : The β -catenin signaling pathway induces aggressive potential in breast cancer by up-regulating the chemokine CCL5. *Exp Cell Res*, 338:22-31, 2015(査読有)
10. Ono M, Suzawa T, Takami M, Yamamoto G, Hosono T, Yamada A, Suzuki D, Yoshimura K, Watahiki J, Hayashi R, Arata S, Mishima K, Nishida K, Osumi N, Maki K, Kamijo R : Localization and osteoblastic differentiation potential of neural crest-derived cells in oral tissues of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*, 464 : 1209-14, 2015(査読有)
11. Ichikawa Y, Watahiki J, Nampo T, Nose K, Yamamoto G, Irie T, Mishima K, Maki K : Differences in the developmental origins of the periosteum may influence bone healing. *J Periodontal Res*, 50 : 468-78, 2015(査読有)
12. Tanaka J, Irie T, Yamamoto G, Yasuhara R, Isobe T, Hokazono C, Tachikawa T, Kohno Y, Mishima K. ANGPTL4 regulates the metastatic potential of oral squamous cell carcinoma. *J Oral Pathol Med*, 44 : 126-33, 2015(査読有)
13. Okada S, Irie T, Tanaka J, Yasuhara R, Yamamoto G, Isobe T, Hokazono C, Tachikawa T, Kohno Y, Mishima K. Potential role of hematopoietic pre-B-cell leukemia transcription factor-interacting protein in oral carcinogenesis. *J Oral Pathol Med*, 44 : 115-25, 2015 (査読有)
14. Saito Y, Yamada A, Suzuki D, Tanaka J, Nagahama R, Kurosawa T, Maki K, Mishima K, Shirota T, Kamijo R. Association of aging with gene expression profiling in mouse submandibular glands. *Genomics Data*, 5: 115–119, 2015(査読有)
15. Matsunaga A, Takami M, Irié T, Mishima K, Inagaki K, Kamijo R. Microscopic study on resorption of β -tricalcium phosphate materials by osteoclasts. *Cytotechnology*, 67:727-32, 2015(査読有)
16. Takahashi A, Inoue H, Mishima K, Ide F, Nakayama R, Hasaka, A, Ryo K, Ito Y, Sakurai T, Hasegawa Y, Saito I : Evaluation of the effects of quercetin on damaged salivary secretion. *PLoSOne*, 10:e0116008, 2015(査読有)
17. Hojyo S, Miyai T, Fujishiro H, Kawamura M, Yasuda T, Hijikata A, Bin BH, Irié T, Tanaka J, Atsumi T, Murakami M, Nakayama M, Ohara O, Himeno S, Yoshida H, Koseki H, Ikawa T, Mishima K, Fukada T : Zinc transporter SLC39A10/ZIP10 controls humoral immunity by modulating B-cell receptor signal strength. *Proc Natl Acad Sci U S A*, 111:11786-91, 2014(査読有)
18. Funato S, Matsunaga A, Oh K, Miyamoto Y, Yoshimura K, Tanaka J, Suzuki D, Uyama R, Suzuki H, Mishima K, Nakamura M, Namiki O, Baba K, Inagaki K, Kamijo R : Effects of antibody to receptor activator of nuclear factor κ -B ligand on inflammation and cartilage degradation in collagen antibody-induced arthritis in mice. *J Negat Results Biomed*, 13:18, 2014(査読有)
19. Miyai T, Hojyo S, Ikawa T, Kawamura M, Irié T, Ogura H, Hijikata A, Bin BH, Yasuda T, Kitamura H, Nakayama M, Ohara O, Yoshida H, Koseki H, Mishima K, Fukada T : Zinc transporter SLC39A10/ZIP10 facilitates antiapoptotic signaling during early B-cell development. *Proc Natl Acad Sci U S A*, 111:11780-5, 2014(査読有)
20. Takahashi M, Suzawa T, Yamada A, Yamaguchi T, Mishima K, Osumi N, Maki K, Kamijo R : Identification of gene expression profile of neural crest-derived cells isolated from submandibular glands of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*. 446 : 481-486, 2014 (査読有)
21. Yajima-Himuro S, Oshima M, Yamamoto G, Ogawa M, Furuya M, Tanaka J, Nishii K, Mishima K, Tachikawa T, Tsuji T, Yamamoto M : The junctional epithelium originates from the odontogenic epithelium of an erupted tooth. *Sci Rep*, 4: 4867, 2014 (査読有)

1-2

1. Okuno K, Nohara K, Takai E, Sakai T, Fleetham JA, Najib TA, Lowe AA, Ryan CF, Almeida FR. Sleep Stage Coordination Respiration and Swallowing: A Preliminary Study. *Dysphagia* 31(4):579-586, 2016 (査読有)
2. Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska BT, Lowe AA, Ryan CF, Almeida FR. Endoscopy evaluation to predict oral appliance outcomes in obstructive sleep apnea. *European Respiratory Journal*. 47(5):1410-1419, 2016 (査読有)
3. 阪井丘芳 : 唾液と口腔機能の関わり. *日本静脈経腸栄養学会雑誌*, 1-6, 2016 (査読有)
4. 日景朱美、野原幹司、杉山千尋、田中信和、高井英月子、上田菜美、深津ひかり、阪井丘芳 : 協調運動障害が口蓋手術後構音障害の発現に及ぼす影響. *日本口蓋裂学会雑誌*, 41(1):1-7, 2016 (査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

5. 奥野健太郎、佐々生康弘、小野瞳、野原幹司、高井英月子、加藤紀子、阪井丘芳：CPAP 治療圧を用いた閉塞性睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置の治療効果予測。 *睡眠口腔医学* 2(2), 109-114, 2016 (査読有)
 6. 奥野健太郎、野原幹司、尾花綾、佐々生康弘、加藤紀子、阪井丘芳：CPAP と口腔内装置の同時装着によって CPAP 治療圧の減少とコンプライアンスが改善した重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群の 1 症例。 *睡眠口腔医学* 2(2), 115-120, 2016 (査読有)
 7. Uchida H, Nakamura TJ, Takasu NN, Todo T, Sakai T, Nakamura W. Cryptochrome-dependent circadian periods in the arcuate nucleus. *Neurosci Lett.* 610:123-128, 2015 (査読有)
 8. Taketa H, Sathi GA, Farahat M, Rahman KA, Sakai T, Hirano Y, Kuboki T, Torii Y, Matsumoto T. Peptide-modified Substrate for Modulating Gland Tissue Growth and Morphology In Vitro. *Sci Rep.* 5:11468, 2015 (査読有)
 9. Sasao Y, Nohara K, Okuno K, Nakamura Y, Sakai T. Videoendoscopic diagnosis for predicting the response to oral appliance therapy in severe obstructive sleep apnea. *Sleep Breath.* 19(1):419-420, 2015 (査読有)
 10. Matsuno K, Nohara K, Fukatsu H, Tanaka N, Fujii N, Sasao Y, Sakai T: Videoendoscopic evaluation of food bolus preparation: A comparison between normal adult dentates and older adult dentates. *Geriatr Gerontol Int.* 17(2):226-231, 2015 (査読有)
 11. Islam MN, Itoh S, Yanagita T, Sumiyoshi K, Hayano S, Kuremoto K, Kurosaka H, Honjo T, Kawanabe N, Kamioka H, Sakai T, Ishimaru N, Taniuchi I, Yamashiro T. Runx/Cbfb signaling regulates postnatal development of granular convoluted tubule in the mouse submandibular gland. *Dev Dyn.* 244(3), 488-496, 2015 (査読有)
 12. Fukatsu H, Nohara K, Kotani Y, Tanaka N, Matsuno K, Sakai T. Endoscopic evaluation of food bolus formation and its relationship with the number of chewing cycles. *J Oral Rehabil.* 42(8):580-587, 2015 (査読有)
 13. *Ono H, Obana A, Usami Y, Sakai M, Nohara K, Egusa H, Sakai T, Regenerating Salivary Glands in the Microenvironment of Induced Pluripotent Stem Cells, *BioMed Research International* 2015, 2015, Article ID 293570, doi: 10.1155/2015/293570 (査読有)
 14. *Obana-Koshino A, Ono H, Miura J, Sakai M, Uchida H, Nakamura W, Nohara K, Maruyama Y, Hattori A, Sakai T. Melatonin inhibits embryonic salivary gland branching morphogenesis by regulating both epithelial cell adhesion and morphology. *PLoS One.* 10(4), e0119960, 2015 (査読有)
 15. 若杉葉子、野原幹司、奥野健太郎、深津ひかり、上田菜美、戸原 玄、阪井丘芳：嚥下内視鏡検査における誤嚥の有無と体内の炎症反応についての検討。 *日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌*19(1):11-16、2015 (査読有)
 16. 奥野健太郎、佐々生康宏、小谷泰子、野原幹司、阪井丘芳：閉塞性睡眠時無呼吸症候群の生理と臨床。 *アンチ・エイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌*11(2):207-213、2015 (査読有)
 17. 奥野健太郎、佐々生康弘、小野 瞳、野原幹司、高井英月子、加藤紀子、阪井丘芳：CPAP治療圧を用いた閉塞性睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置の治療効果予測。 *睡眠口腔医学*2(2):115-120、2015 (査読有)
 18. 奥野健太郎、野原幹司、尾花綾、佐々生康弘、加藤紀子、阪井丘芳：CPAPと口腔内装置の同時装着によって CPAP治療圧の減少とコンプライアンスが改善した重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群の 1 症例。 *睡眠口腔医学*、148-153、2015 (査読有)
 19. Inada Y, Uchida H, Umemura Y, Nakamura W, Sakai T, Koike N, Yagita K. Cell and tissue-autonomous development of the circadian clock in mouse embryos. *FEBS Lett.* 588(3):459-465, 2014 (査読有)
 20. Okuno K, Nohara K, Tanaka N, Sasao Y, Sakai T. The efficacy of a lingual augmentation prosthesis for swallowing after a glossectomy: a clinical report. *J Prosthet Dent.* 111(4):342-345, 2014 (査読有)
 21. 畦西克己、吉村美紀、北元憲利、阪井丘芳、市販ゲル化剤を用いたゼリー食のテクスチャー特性と官能評価、 *日本食生活学会誌*、VOL.25、No.3、2014 (査読有)
- 1-3
1. Otsuka H, Yagi H, Endo Y, Soeta S, Nonaka N, Nakamura M: Nitrogen-containing bisphosphonate induces a newly discovered hematopoietic structure in the omentum of an anemic mouse model by stimulating G-CSF production. *Cell Tissue Res* 367:297-309, 2017. (査読有)
 2. Yamaguchi T, Hosomichi K, Yano K, Kim YI, Nakaoka H, Kimura R, Otsuka H, Nonaka N, Haga S, Takahashi M, Shirota T, Kikkawa Y, Yamada A, Kamijo R, Park SB, Nakamura M, Maki K, Inoue I: Comprehensive genetic exploration of selective tooth agenesis of mandibular incisors by exome sequencing. *Hum Genome Var.* 4:17005, 2017. (査読有)
 3. Yu Z, Saito H, Otsuka H, Shikama Y, Funayama H, Sakai M, Murai S, Nakamura M, Yokochi T, Takada H, Sugawara S, Endo Y: Pulmonary platelet accumulation induced by catecholamines: Its involvement in lipopolysaccharide-induced anaphylaxis-like shock. *Int Immunopharmacol.* 43:40-52, 2017. (査読有)
 4. Otsuka H, Takito J, Endo Y, Yagi H, Soeta S, Nonaka N, Nakamura M: The expression of embryonic globin mRNA in a severely anemic mouse model induced by treatment with nitrogen-containing bisphosphonate. *BMC Hematol* 16 (4):1-12, 2016. (査読有)
 5. Takio J, Kimura J, Kajima K, Uozumi N, Watanabe M, Yokosuka A, Mimaki Y, Nakamura M, Ohizumi Y: Nerve growth factor enhances the CRE-dependent transcriptional activity activated by nobiletin in PC-12 cells. *Canad J Physiol Pharmacol* 94:728-733, 2016. (査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

6. Arai H, Otsuka H, Takito J, Yagi H, Inoue S, Yanagisawa N, Nonaka N, Endo Y, Nakamura M: Effect of minodronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, on collagen-induced arthritis in mice. *Cell Immunol Immunotherapeut* 1:1-12, 2016. (査読有)
 7. Matoba Y, Nonaka N, Takagi Y, Imamura E, Narukawa M, Nakamachi T, Shioda S, Banks WA, Nakamura M: Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide enhances saliva secretion via direct binding to PACAP receptors of major salivary glands in mice. *Anat Rec* 299:1293-1299. (査読有)
 8. Hirayama B, Anada T, Shiwaku Y, Miyatake N, Tsuchiya K, Nakamura M, Takahashi T, Suzuki O: Immune cell response and subsequent bone formation induced by implanted octacalcium phosphate in a rat tibia defect. *RSC Adv* 6:57475-57484, 2016. (査読有)
 9. Tadaki M, Anada T, Shiwaku Y, Nakamura T, Nakamura M, Kojima M, Fukumoto S, Suzuki O: A 3D culture model study monitoring differentiation of dental epithelial cells into ameloblast-like cells. *RSC Adv* 6: 62109-62118, 2016. (査読有)
 10. Takito J, Otsuka H, Yanagisawa N, Arai H, Shiga M, Inoue M, Nonaka N, Nakamura M. Regulation of Osteoclast Multinucleation by the Actin Cytoskeleton Signaling Network. *J Cell Physiol.* 230:395-405, 2015. (査読有)
 11. Kubono Y, Mayahara M, Otsuka H, Kataoka R, Takagi Y, Asari J, Nonaka N, Inoue M, Nakamura M. Analysis of periapical alveolar bone resorption after the removal of interdental wire ligation. *Ped Dent J* 25:1-7 2015. (査読有)
 12. Wang X, Suzawa T, Miyauchi T, Zhao B, Yasuhara R, Anada T, Nakamura M, Suzuki O, Kamijo R. Synthetic octacalcium phosphate-enhanced reparative dentine formation via induction of odontoblast differentiation. *J Tissue Eng Regen Med* 9:1310-1320, 2015. (査読有)
 13. Kawano M, Nakamura M, Ono M, Nishiya T, Nakamura S, Takeda Y, Dobashi A, Takahashi A, Endo M, Ito A, Ueda K, Sato N, Higuchi S, Kondo T, Hashimoto S, Watanabe M, Watanabe M, Takahashi T, Sasaki K, Nakamura M, Sasazuki T, Narushima T, Suzuki R, Ogasawara K: NKG2D+ IFN- γ + CD8+ T cells are responsible for palladium allergy. *PLoS One* 9: e86810, 2014. (査読有)
- 1-4
1. Matsuda K, Nakamura S, Nonaka M, Mochizuki A, Nakayama K, Iijima T, Yokoyama A, Funahashi M, Inoue T. Premotoneuronal inputs to early developing trigeminal motoneurons. *J Oral Biosci*, in press (査読有)
 2. *Tachikawa S, Nakayama K, Nakamura S, Mochizuki A, Iijima T, Inoue T. Coordinated Respiratory Motor Activity in Nerves Innervating the Upper Airway Muscles in Rats. *PLoS One*, 11(11): e0166436, 2016 (査読有)
 3. Nagata S, Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, Yamamoto M, Inoue T. Postnatal changes in glutamatergic inputs of jaw-closing motoneuron dendrites. *Brain Res Bull.* 127: 47-55, 2016 (査読有)
 4. Ikawa Y, Mochizuki A, Katayama K, Kato T, Ikeda M, Abe Y, Nakamura S, Nakayama K, Wakabayashi N, Baba K, Inoue T. Effects of citalopram on jaw-closing muscle activity during sleep and wakefulness in mice. *Neurosci Res*, 13:48-55, 2016 (査読有)
 5. Katayama K, Mochizuki A, Kato T, Ikeda M, Nogawa Y, Nakamura S, Nakayama K, Wakabayashi N, Baba K, Inoue T. Dark/light transition and vigilance states modulate jaw-closing muscle activity level in mice. *Neurosci Res*, 101:24-31, 2015 (査読有)
 6. Gamba C, Nakayama K, Nakamura S, Mochizuki A, Inoue M, Inoue T. Involvement of histaminergic inputs in the jaw-closing reflex arc. *J Neurophysiol*, 113(10):3720-35, 2015 (査読有)
 7. Maruyama N, Shibata Y, Mochizuki A, Yamada A, Maki K, Inoue T, Kamijo R, Miyazaki T. Bone micro-fragility caused by the mimetic aging processes in α -klotho deficient mice: In situ nanoindentation assessment of dilatational bands. *Biomaterials*, 47:62-71, 2015 (査読有)
 8. Nakamura S, Nakayama K, Mochizuki A, Sato F, Haque T, Yoshida A, Inoue T. Electrophysiological and morphological properties of rat supratrigeminal premotor neurons targeting the trigeminal motor nucleus. *J Neurophysiol*, 111 (9): 1770-1782, 2014 (査読有)
- 1-5
1. Kadena M, Kumagai Y, Vandenbon A, Matsushima H, Fukamachi H, Maruta N, Kataoka H, Arimoto T, Morisaki H, Funatsu T, Kuwata H. : Microarray and gene co-expression analysis reveals that melatonin attenuates immune responses and modulates actin rearrangement in macrophages. *Biochem Biophys Res Commun*. Epub 2017 Feb 13. 485(2):414-420. (査読有)
 2. * Matsushima H, Kumagai Y, Vandenbon A, Kataoka H, Kadena M, Fukamachi H, Arimoto T, Morisaki H, Fujiwara N, Okahashi N, Kuwata H. : Microarray analysis of macrophage response to infection with *Streptococcus oralis* reveals the immunosuppressive effect of hydrogen peroxide. : *Biochem Biophys Res Commun*. Epub 2017 Feb 13. ;485(2):461-467. (査読有)
 3. * Okahashi N, Nakata M, Kuwata H, Kawabata S. : *Streptococcus oralis* Induces Lysosomal Impairment of Macrophages via Bacterial Hydrogen Peroxide. *Infect Immun*. 2016 Jun 23;84(7):2042-50. (査読有)
 4. Potential effect of cationic liposomes on interactions with oral bacterial cells and biofilms. Sugano M, Morisaki H, Negishi Y, Endo-Takahashi Y, Kuwata H, Miyazaki T, Yamamoto M. *J Liposome Res*. 2016;26(2):156-62. (査読有)
- 1-6

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

1. Funato S, Yasuhara R, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Suzawa T, Chikazu D, Mishima K, Baba K, Kamijo R. Extracellular matrix loss in chondrocytes after exposure to interleukin-1 β in NADPH oxidase-dependent manner. *Cell Tissue Res*, 368: 135-144, 2017(査読有)
2. Saito E, Suzuki D, Kurotaki D, Mochizuki A, Manome Y, Suzawa T, Toyoshima Y, Ichikawa T, Funatsu T, Inoue T, Takami M, Tamura T, Inagaki K, Kamijo R. Deletion of Irf8 by *Lyz2-cre/loxP* accelerates osteoclast differentiation in vitro. *Cytotechnology*, in press(査読有)
3. Miyamoto Y, Akaike T, Kawabata S, Akuta T, Taruki C, Yoshitake J, Hamada S, Ota F, Igarashi H, Yoshimura K, Kamijo R, Maeda H Degradation of bradykinin by a metalloendopeptidase from *Streptococcus pyogenes* *J Oral Biosci* in press(査読有)
4. Hiranuma K, Yamada A, Kurosawa T, Aizawa R, Suzuki D, Saito Y, Nagahama R, Ikehata M, Tsukasaki M, Morimura N, Chikazu D, Maki K, Shirota T, Takami M, Yamamoto M, Iijima T, Kamijo R. Expression of nephronectin is enhanced by $\alpha,25$ -dihydroxyvitamin D3. *FEBS Open Bio.*, 6: 914-918, 2016(査読有)
5. Konno A, Nishimura A, Nakayama S, Mochizuki A, Yamada A, Kamijo R, Inoue T, Iijima T. Continuous monitoring of caspase-3 activation induced by propofol in developing mouse brain. *Int. J. Dev. Neurosci.*, 51: 42-49, 2016(査読有)
6. Kurosawa T, Yamada A, Suzuki D, Morimura N, Sasagane Y, Itabe H, Kamijo R. Nephronectin expression is up-regulated by BMP-2. *Biol. Pharm. Bull.*, 39: 1211-1215, 2016(査読有)
7. Saito A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Chikazu D, Yamamoto M, Kamijo R. Enhanced and suppressed mineralization by acetoacetate and β -hydroxybutyrate in osteoblast cultures. *Biochem Biophys Res Commun.* 473 537-544, 2016(査読有)
8. Oshima-Nakayama M, Yamada A, Kurosawa T, Aizawa R, Suzuki D, Saito Y, Kassai H, Sato Y, Yamamoto M, Shirota T, Aiba A, Maki K, Kamijo R. Cdc42 is crucial for facial and palatal formation during craniofacial development. *Bone Reports*, 5:1-6, 2016(査読有)
9. Nagahama R, Yamada A, Tanaka J, Aizawa R, Suzuki D, Kassai H, Yamamoto M, Mishima K, Aiba A, Maki K, Kamijo R. Rho GTPase protein Cdc42 is critical for postnatal cartilage development. *Biochem Biophys Res Commun*, 470: 813-817, 2016(査読有)
10. Suzawa T, Yoshida H, Itose M, Takimoto R, Saito E, Suzuki D, Inagaki K, Shirota T, Maki K, Kamijo R. Neural crest-derived cells in the oral and maxillofacial regions of adult mice: isolation and application for regenerative medicine. *Showa Univ J Med Sci*, 28(3):209-217, 2016(査読有)
11. Yamada A, Kamijo R. Nephronectin: an extracellular matrix protein with diverse in vivo functions. *J.Dent & Oral Disord.*, 2(1), 2016
12. 吉村健太郎、須澤徹夫、鈴木 大、上條竜太郎. カルシウム代謝から見る口腔インプラント *日本口腔インプラント学会誌* 第29巻 第1号 4-11(査読有)
13. 鈴木 大、馬目瑤子、斎藤愛美、上條竜太郎. 口腔におけるカルシウム制御とアンチエイジング (Importance of Calcium Metabolism for Oral Health and Anti-Aging Strategies) *日本抗加齢医学会雑誌 (Antiaging Medicine)* Vol.12(2),41-46, 2016(査読有)
14. Wang X, Suzawa T, Miyauchi T, Zhao B, Yasuhara R, Anada T, Nakamura M, Suzuki O, Kamijo R. Synthetic Octacalcium Phosphate Enhanced Reparative Dentin Formation via Induction of Odontoblast Differentiation. *J Tissue Eng Regen Med*, 9: 1310-1320, 2015(査読有)
15. Yu J, Murakami M, Aoki T, Jiang B, Jin Z, Koizumi T, Kusano M, Kamijo R, Miyamoto Y, Enami Y, Watanabe M, Otsuka, K. Oxygenated Static Preservation of Donation after Cardiac Death Liver Grafts Improves Hepatocyte Viability and Function. *Eur. Surg. Res.*, 56:1-18, 2015(査読有)
16. Suzuki H, Mochizuki A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Inoue T, Chikazu D, Takami M, Kamijo R: Bropiramine inhibits osteoclast differentiation through production of interferon- β . *Biochem Biophys Res Commun*, 467:146-151, 2015(査読有)
17. *Ono M, Suzawa T, Takami M, Yamamoto G, Hosono T, Yamada A, Suzuki D, Yoshimura K, Watahiki J, Hayashi R, Arata S, Mishima K, Nishida K, Osumi N, Maki K, Kamijo R. Localization and osteoblastic differentiation potential of neural crest-derived cells in oral tissues of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*, 464: 1209-1214, 2015(査読有)
18. Saito Y, Yamada A, Suzuki D, Tanaka J, Nagahama R, Kurosawa T, Maki K, Mishima K, Shirota T, Kamijo R. Association of aging with gene expression profiling in mouse submandibular glands. *Genomics Data*, 5: 115-119, 2015(査読有)
19. Wurihan, Yamada A, Suzuki D, Shibata Y, Kamijo R, Miyazaki T. Enhanced in vitro biological activity generated by surface characteristics of anodically oxidized titanium — the contribution of the oxidation effect. *European Cells & Materials*, 29: 290-302, 2015(査読有)
20. Kurosawa T, Yamada A, Takami M, Suzuki D, Saito Y, Hiranuma K, Enomoto T, Morimura N, Yamamoto M, Iijima T, Shirota T, Itabe H, Kamijo R: Expression of Nephronectin is inhibited by Oncostatin M via both JAK/STAT and MAPK pathways. *FEBS Open Bio*, 5: 303-307, 2015(査読有)
21. Matsunaga A, Takami M, Irie T, Mishima K, Inagaki K, Kamijo R: Microscopic study on resorption of beta-tricalcium phosphate materials by osteoclasts. *Cytotechnology*, 67: 727-732, 2015(査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

22. Maruyama N, Shibata Y, Mochizuki A, Yamada A, Maki K, Inoue T, Kamijo R, Miyazaki T. Bone micro-fragility caused by the mimetic aging processes in a-Klothodeficient mice: in situ nanoindentation assessment of dilatational bands. *Biomaterials*, 47:62-71, 2015(査読有)
 23. Suzuki W, Yamada A, Aizawa R, Suzuki D, Kassai H, Harada T, Nakayama M, Nagahama R, Maki K, Takeda S, Yamamoto M, Aiba A, Baba K, Kamijo R: Cdc42 is critical for cartilage development during endochondral ossification. *Endocrinol.* 156 : 314-322, 2015(査読有)
 24. Miyamoto S, Miyamoto Y, Shibata Y, Yoshimura K, Izumida E, Suzuki H, Miyazaki T, Maki K, Kamijo R: In-situ quasi-static and dynamic nanoindentation assessment of calcified nodules: Implication of glucocorticoids responsible for osteoblast calcification. *Acta Biomater* 12:216-226, 2015(査読有)
 25. Ikumi N, Suzawa T, Yoshimura K, Kamijo R: Bone Response to Static Compressive Stress at Bone-Implant Interface: The Pilot Study of Critical Static Compressive stress. *Int J Oral Maxillofac Implants*, 30: 827-833, 2015(査読有)
 26. 高橋正皓、小野美樹、須澤徹夫、吉田寛、宇山理紗、榎宏太郎、上條竜太郎 : 口腔顎顔面領域に存在する神経堤由来細胞の成体における分布と細胞分化能 - 新しい骨再生療法の提案 - *口腔組織培養学会誌*, 24(2): 1-8, 2015(査読有)
 27. 宮本洋一、上條竜太郎 : 骨代謝と H2S・RSS シグナル *細胞工学*, 34(4): 379-383, 2015(査読有)
 28. Funato S, Matsunaga A, Oh K, Miyamoto Y, Yoshimura K, Tanaka J, Suzuki D, Uyama R, Suzuki H, Mishima K, Nakamura M, Namiki O, Baba K, Inagaki K, Kamijo R: Effects of antibody to receptor activator of nuclear factor κ -B ligand on inflammation and cartilage degradation in collagen antibody-induced arthritis in mice. *J Neg Results BioMed* 13:18, 2014(査読有)
 29. Akiyama T, Miyamoto Y, Yoshimura K, Yamada A, Takami M, Suzawa T, Hoshino M, Imamura T, Akiyama C, Yasuhara R, Mishima K, Maruyama T, Kohda C, Tanaka K, Potempa J, Yasuda H, Baba K, Kamijo R. Porphyromonas gingivalis-derived lysine gingipain enhances osteoclast differentiation induced by tumor necrosis factor- α and interleukin-1 β but suppresses that by interleukin-17A. Importance of proteolytic degradation of osteoprotegerin by lysine gingipain. *J Biol Chem* 289:15621-15630, 2014(査読有)
 30. *Takahashi M, Suzawa T, Yamada A, Yamaguchi T, Mishima K, Osumi N, Maki K, Kamijo R. Identification of gene expression profile of neural crest-derived cells isolated from submandibular glands of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*, 446:481-486, 2014(査読有)
 31. Jang IK, Tanaka R, Wurihan, Suzuki D, Shibata Y, Fujisawa N, Tanimoto Y, Ogura K, Kamijo R, Miyazaki T: Nanomechanical properties and molecular structures of in vitro mineralized tissues on anodically-oxidized titanium surfaces. *Nanomedicine* 10(3):629-637, 2014(査読有)
 32. Yamada A, Aiba A, Kamijo R: Rho family small G proteins: lessons from tissue-specific gene knockout studies. *J Oral Biosci* 56(1):23-29, 2014(査読有)
- 1-7
1. Enomoto T, Takami M, Yamamoto M, Kamijo R : LPS administration increases CD11b+ c-Fms+ CD14+ cell population that possesses osteoclast differentiation potential in mice. *Cytotechnology*. 2017 Apr 20. doi: 10.1007/s10616-017-0094-3. (査読有)
 2. *Urano-Morisawa E, Takami M, Suzawa T, Matsumoto A, Osumi N, Baba K, Kamijo R : Induction of osteoblastic differentiation of neural crest-derived stem cells from hair follicles. *PLoS One*. 2017 Apr 6;12(4):e0174940. doi: 10.1371/journal.pone.0174940. eCollection 2017. (査読有)
 3. 高見正道, 岡松伸明, 稲垣克記, 坂井信裕, 唐川亜希子『特集 : 分子標的薬「標的別分子標的薬 7」抗 RANKL 抗体』*腎臓内科・泌尿器科 (科学評論社)* 2016年7月号 (査読無)
 4. Morita M, Yoshida S, Iwasaki R, Yasui T, Sato Y, Kobayashi T, Watanabe R, Oike T, Miyamoto K, Takami M, Ozato K, Deng C, Aburatani H, Tanaka S, Yoshimura A, Toyama Y, Matsumoto M, Nakamura M, Kawana H, Nakagawa T, Miyamoto T: Smad4 is required to inhibit osteoclastogenesis and maintain bone mass. *Sci Rep*. 2016 Oct 12;6:35221. doi: 10.1038/srep35221. (査読有)
 5. Yu J, Yun H, Shin B, Kim Y, Park ES, Choi S, Yu J, Amarasekara DS, Kim S, Inoue J, Walsh MC, Choi Y, Takami M, Rho J: Interaction of Tumor Necrosis Factor Receptor-associated Factor 6 (TRAF6) and Vav3 in the Receptor Activator of Nuclear Factor κ B (RANK) Signaling Complex Enhances Osteoclastogenesis. *J Biol Chem*. 2016 Sep 23;291(39):20643-60. doi: 10.1074/jbc.M116.728303. Epub 2016 Aug 9. PMID: 27507811 (査読有)
 6. Saito E, Suzuki D, Kurotaki D, Mochizuki A, Manome Y, Suzawa T, Toyoshima Y, Ichikawa T, Funatsu T, Inoue T, Takami M, Tamura T, Inagaki K, and Kamijo R. Down-regulation of Irf8 by Lyz2-cre/loxP accelerates osteoclast differentiation in vitro. *Cytotechnology*, 2016 Aug 8. [Epub ahead of print] (査読有)
 7. Tsumura, H, Ito, M, Takami M, Arai, M, Li, X.-K, Hamatani, T, Igarashi, A, Takada, S, Miyado, K, Umezawa, A, Ito, Y: Conditional deletion of CD98hc inhibits osteoclast development. *Biochem. Biophys. Rep.* Volume 5, p203-210, 2016. (査読有)
 8. Suzuki H, Mochizuki A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Kaneko K, Inoue T, Chikazu D, Takami M, Kamijo R: Bropiramine inhibits osteoclast differentiation through production of interferon- β . *Biochem Biophys Res Commun*. 2015 Sep 21. pii: S0006-291X(15)30609-4. doi: 10.1016/j.bbrc.2015.09.092. [Epub ahead of print] (査読有)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

9. Ono M, Suzawa T, Takami M, Yamamoto G, Hosono T, Yamada A, Suzuki D, Yoshimura K, Watahiki J, Hayashi R, Arata S, Mishima K, Nishida K, Osumi N, Maki K, Kamijo R: Localization and osteoblastic differentiation potential of neural crest-derived cells in oral tissues of adult mice. *Biochem Biophys Res Commun*. 2015 Sep 4;464(4):1209-14. doi: 10.1016/j.bbrc.2015.07.106. Epub 2015 Jul 29. (査読有)
10. Kurosawa T, Yamada A, Takami M, Suzuki D, Saito Y, Hiranuma K, Enomoto T, Morimura N, Yamamoto M, Iijima T, Shirota T, Itabe H, Kamijo R: Expression of nephronectin is inhibited by oncostatin M via both JAK/STAT and MAPK pathways. *FEBS Open Bio*. 2015 Apr 8;5:303-7. doi: 10.1016/j.fob.2015.04.001. eCollection 2015. PMID: 25905035 (査読有)
11. Matsunaga A, Takami M, Irié T, Mishima K, Inagaki K, Kamijo R: Microscopic study on resorption of β -tricalcium phosphate materials by osteoclasts. *Cytotechnology*. 2015 Aug;67(4):727-32. doi: 10.1007/s10616-015-9854-0. Epub 2015 Feb 12. (査読有)
12. 坂井信裕, 唐川亜希子, 高見正道: デノスマブの開発と基礎 *月刊リウマチ科*, 52(6):642-647. 2014 (査読無)
13. Shin B, Yu J, Park ES, Choi S, Yu J, Hwang JM, Yun H, Chung YH, Hong KS, Choi JS, Takami M, Rho J : Secretion of a truncated osteopetrosis-associated transmembrane protein 1 (Ostm1) mutant inhibits osteoclastogenesis through downregulation of the B lymphocyte-induced maturation protein 1 (Blimp1) - nuclear factor of activated T cells c1 (NFATc1) axis. *J. Biol. Chem.* published online October 30, 2014. (査読有)

《プロジェクト2》

2-1

1. Morita Y, Ishikawa K, Nakano M, Wakabayashi H, Yamauchi K, Abe F, Ooka T, Hironaka S. Effects of lactoferrin and lactoperoxidase-containing food on the oral hygiene status of older individuals: A randomized, double blinded, placebo-controlled clinical trial. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 May 6. doi: 10.1111/ggi.12776. [Epub ahead of print] (査読有)
2. Nakano M, Shin K, Wakabayashi H, Yamauchi K, Abe F, Hironaka S. Inactivating effects of the lactoperoxidase system on bacterial lyases involved in oral malodour production. *J Med Microbiol*. 2015 Oct;64(10):1244-52. doi: 10.1099/jmm.0.000150. Epub 2015 Aug 3. (査読有)
3. Endo Y, Ooka T, Hironaka S, Sugiyama T, Matsushashi K, Abe Y, Tatsuno M, Mukai Y, Inoue M: Oral pathogens in children with respiratory disease. *Pediatric Dental Journal*, Volume 24, Issue 3, December 2014, Pages 159-16 (査読有)

2-2

1. *守谷恵未, 松山 美和, 犬飼順子, 道脇幸博, 岩渕 博史, 小笠原 正, 松尾 浩一郎, 角 保徳: 口腔ケア時の誤嚥予防の試み—口腔ケア用ジェルの新規開発—. *老年歯学*. 53巻4号:347-333, 2016 (査読有)
2. *宮原 康太, 小笠原 正, 篠塚 功一, 岩崎 仁史, 松村 康平, 岡田 芳幸, はい島 弘之, 藤田 恵未, 角 保徳: ジェルタイプの保湿剤を用いた介助歯磨き後の唾液中細菌数の増減, *障害者歯科* (0913-1663)37 巻 1号:16-21, 2016

2-4

1. Takuto Mori, Yasunobu Nagata, Hideki Makishima, Masashi Sanada, Yusuke Shiozawa, Ayana Kon, Tetsuichi Yoshizato, Aiko Sato-Otsubo, Keisuke Kataoka, Yuichi Shiraiishi, Kenichi Chiba, Hiroko Tanaka, Ken Ishiyama, Shuichi Miyawaki, Hiraku Mori, tsuyoshi nakamaki, Rika Kihara, Hitoshi Kiyoi, H. Phillip Koeffler, Lee-Yung Shih, Satoru Miyano, Tomoki Naoe, Claudia Haferlach, Wolfgang Kern, Torsten Haferlach, Seishi Ogawa, and Kenichi Yoshida : Somatic PHF6 mutations in 1760 cases with various myeloid neoplasms. *Leukemia*. 2016 Nov;30(11):2270-2273.
2. *Saito B, Hattori N, Yamamoto K, Arai N, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Yanagisawa K, Nakamaki T. : Umbilical cord blood transplantation for adults using tacrolimus with two-day very-short-term methotrexate for graft-versus-host disease prophylaxis. *Leuk Res*. 2016 Jun 16;47:161-165.
3. Hattori N, Yamamoto K, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Arai N, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Yanagisawa K, Saito B, Nakamaki T. : Early relapse of severe chronic active Epstein-Barr virus infection with posterior reversible encephalopathy syndrome after reduced intensity stem cell transplantation with umbilical cord blood. *Leuk Lymphoma*. 2016 Feb 15:1-4.
4. Tazawa Sakiko, Shiozawa Eisuke, Homma Mayumi, Arai Nana, Kabasawa Nobuyuki, Kawaguchi Yukiko, Fujiwara Shun, Okino Kazumaro, Kobayashi Kae, Yamochi Toshiko, Tate Genshu, Nakamaki Tsuyoshi, Takimoto Masafumi : CD200 Expression on Plasma Cell Myeloma Cells is Associated with the Efficacies of Bortezomib, Lenalidomide and Thalidomide. *J Clin Exp Hematop*. 55巻3号 Page121-126 (2015.12)
5. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraiishi Y, Shimamura T, Yasunaga J, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S. : Integrated molecular analysis of adult T cell leukemia/lymphoma. *Nat Genet*. 2015 Nov;47(11):1304-15.
6. Uto Yui, Fujiwara Shun, Arai Nana, Kawaguchi Yukiko, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Ariizumi Hirotsugu,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

Hattori Norimichi, Saito Bungo, Yanagisawa Kouji, Harada Hiroshi, Mori Hiraku, Shiozawa Eisuke, Nakamaki Tsuyoshi : Age and Bone Marrow Cellularity are Associated with Response to Eltrombopag in Japanese Adult Immune Thrombocytopenia Patients. *臨床病理* 63巻5号 Page548-556 (2015.05)

7. Sun QY, Ding LW, Xiao JF, Chien W, Lim SL, Hattori N, Goodglick L, Chia D, Mah V, Alavi M, Kim SR, Doan NB, Said JW, Loh XY, Xu L, Liu LZ, Yang H, Hayano T, Shi S, Xie D, Lin DC, Koeffler HP. : SETDB1 accelerates tumorigenesis by regulating the WNT signalling pathway. *J Pathol.* 2015 Mar;235(4):559-70.
8. Ding LW, Sun QY, Lin DC, Chien W, Hattori N, Dong XM, Gery S, Garg M, Doan NB, Said JW, Xiao JF, Yang H, Liu LZ, Meng X, Huang RY, Tang K, Koeffler HP. LNK (SH2B3): paradoxical effects in ovarian cancer. *Oncogene.* 2015 Mar 12;34(11):1463-74
9. *Ariizumi H, Saito B, Uto Y, Hattori N, Nakashima H, Yanagisawa K, Harada H, Mori H, Nakamaki T : Predictive role of levels of soluble interleukin-2 receptor and C-reactive protein in selecting autologous PBSC transplantation for lymphoma. *Bone Marrow Transplant.* 2015 Feb;50(2):301-3.
10. 塚本 裕之, 服部 憲路, 藤原 峻, 川口 有紀子, 荒井 奈々, 宇藤 唯, 蒲澤 宣幸, 柳沢 孝次, 齋藤 文護, 原田 浩史, 森 啓, 中牧 剛 : Eltrombopag不応性の無巨核球性血小板減少症に対しRomiplostimが奏功した1例. *老年者造血器疾患研究会誌*23巻 Page38-42. 2014.12
11. Sun H, Hattori N, Chien W, Sun Q, Sudo M, E-Ling GL, Ding L, Lim SL, Shacham S, Kauffman M, Nakamaki T, Koeffler HP. : KPT-330 has antitumour activity against non-small cell lung cancer. *Br J Cancer.* 2014 Jul 15;111(2):281-91.

2-5

1. Hasegawa Y, Tachibana Y, Ono T, Kishimoto H: Flavour-enhanced cortisol release during gum chewing. *PLoS One.* 12(4): e0173475. doi: 10.1371/journal.pone.0173475. eCollection 2017 (査読有)
2. Zushi Y, Takaoka K, Tamaoka J, Ueta M, Noguchi K, Kishimoto H: Treatment with teriparatide for advanced bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw around dental implants: a case report. *Int J Implant Dent.* 3(1):11. doi: 10.1186/s40729-017-0074-6. Epub 2017 Mar 30 (査読有)
3. Hasegawa Y, Kakimoto N, Tomita S, Fujiwara M, Ishikura R, Kishimoto H, Honda K: Evaluation of the role of splint therapy in the treatment of temporomandibular joint pain on the basis of MRI evidence of altered disc position. *J Craniomaxillofac Surg.* 45(4), 455-460. doi: 10.1016/j.jcms.2017.01.011. Epub 2017 Jan 25 (査読有)
4. Hasegawa Y, Sugahara K, Fukuoka T, Saito S, Sakuramoto A, Horii N, Sano S, Hasegawa K, Nakao Y, Nanto T, Kadoi K, Moridera K, Noguchi K, Domen K, Kishimoto H: Change in tongue pressure in patients with head and neck cancer after surgical resection. *Odontology.* 2017 Feb 14. doi: 10.1007/s10266-016-0291-0 (査読有)
5. 中村祐己, 岸本裕充: チーム医療による周術期の口腔機能管理の実践. *Modern Physician*, 37(9) (掲載予定), 2017 (査読無)
6. 岸本裕充: 口腔の病原体と口腔環境のアセスメント —感染対策としての日常のモニタリングポイント. *感染対策ICTジャーナル*, 12(2) (掲載予定), 2017 (査読無)
7. 岸本裕充: 高齢者肺炎予防・治療のためのオーラルマネジメント 口腔衛生だけでなく, 咀嚼・嚥下機能を高める. *medicina*, 54(1), 102-105, 2017. (査読無)
8. 岸本裕充: 周術期オーラルマネジメントの実践. *日本口腔外科学会雑誌*, 63(1), 9-14, 2017 (査読無)
9. 野口一馬, 川邊睦記, 山根木康嗣, 高岡一樹, 岸本裕充: 全身および口腔内に多発したカポジ肉腫の1例. *日本口腔腫瘍学会誌*, 29: 15-21, 2017 (査読有)
10. 岸本裕充, 小島 藍: 術前からの口腔ケア・オーラルマネジメントはとても重要. *継続看護時代の外来看護*, 22(1), 69-76, 2017 (査読無)
11. Hasegawa Y, Sugahara K, Sano S, Sakuramoto A, Kishimoto H, Oku Y: Enhanced salivary secretion by interferential current stimulation in patients with dry mouth: a pilot study. *Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol.* 121(5), 481-489. doi: 10.1016/j.oooo.2016.01.017. Epub 2016 Feb 13 (査読有)
12. Yasuda E, Honda K, Hasegawa Y, Matsumura E, Fujiwara M, Hasegawa M, Kishimoto H: Prevalence of temporomandibular disorders among junior high school students who play wind instruments. *Int J Occup Med Environ Health*, 29(1), 69-76, 2016 doi: 10.13075/ijomeh.1896.00524 (査読有)
13. 菅原由美子, 神部芳則, 笹野高嗣, 草間幹夫, 森 良之, 北川善政, 高橋 哲, 杉山芳樹, 福田雅幸, 川又 均, 柴田敏之, 植野高章, 岸本裕充, 飯田征二, 中村典史, 杉浦 剛: 口腔扁平苔癬に対するCepharanthineの臨床効果に関する後方視的多施設共同研究. *日本口腔内科学会雑誌*, 22(2), 59-67, 2016 (査読有)
14. 芝辻豪士, 首藤敦史, 野口一馬, 岸本裕充, 足立了平: 歯性感染症の治療により治癒した肉芽腫性口唇炎の1例. *日本口腔感染症学会雑誌*, 23(2), 59-63, 2016 (査読有)
15. 岸本裕充: 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死への適切な対応を ポジションペーパーの改訂. *日本歯科評論*, 76(12), 14-15, 2016 (査読無)
16. 野口一馬, 岸本裕充, 中野芳朗: ヘッジホッグシグナルと口腔疾患. *口腔組織培養学会誌*, 25(2), 1-7, 2016 (査読有)
17. 岸本裕充, 坂本春生, 金子明寛: 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン 歯科口腔外科領域. *日本口腔感染症学会雑誌*, 23(1), 2-4, 2016 (査読無)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

18. 岸本裕充：術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン． *日本歯科評論*, 76(6), 14-15, 2016 (査読無)
19. 川邊睦記, 岸本裕充：予防抗菌薬の使い方を再考しよう！術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン． *歯界展望*, 127(5), 830-832, 2016 (査読無)
20. 竹末芳生, 岸本裕充, 久保正二, 坂本春生, 鈴木 崇, 高橋佳子, 橋本昌樹, 保富宗城, 松下和彦, 三嶋廣繁, 山田浩司, 山本新吾, 柚木靖弘, 真弓俊彦, 岡 正朗, 北川雄光, 小西敏郎, 福島亮治, 尾原秀明, 小林美奈子, 武田 茂；日本化学療法学会, 日本外科感染症学会術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会：術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン． *日本外科感染症学会雑誌*, 13(2), 79-158, 2016. *日本化学療法学会雑誌*, 64(2), 153-232, 2016 (査読有)
21. 岸本裕充, 長谷川陽子, 高岡一樹, 野口一馬：食べられる口をCREATEするためのオーラルマネジメント． *日本静脈経腸栄養学会雑誌*, 31, 687-692, 2016 (査読無)
22. 岸本裕充：がん患者のオーラルマネジメントで看護師ができること・すべきこと． *がん看護*, 21, 311-313, 2016 (査読無)
23. 岸本裕充, 松尾浩一郎：オーラルマネジメントCREATEの各構成要素におけるポイント． *がん看護*, 21, 314-319, 2016 (査読無)
24. 岸本裕充：がん看護における「周術期口腔機能管理料」の活用． *がん看護*, 21, 320-321, 2016 (査読無)
25. 岸本裕充：ICUでの口腔ケアを見直そう VAP予防のために． *日本口腔ケア学会雑誌*, 10(1), 12-15, 2016 (査読無)
26. 岸本裕充：周術期口腔機能管理による合併症予防のポイント． *日本口腔ケア学会雑誌*, 10(1), 56-58, 2016 (査読無)
27. 川邊睦記, 岸本裕充：有病高齢者のチェアサイドエッセンス 悪性腫瘍(周術期のオーラルマネジメント)． *DENTAL DIAMOND*, 41(5), 258-259, 2016 (査読無)
28. 岸本裕充：インプラント治療に役立つ口腔外科領域の話題 ～薬剤関連顎骨壊死も含めて～． *Osaka Academy of Oral Implantology*, 30, 14-23, 2016 (査読無)
29. Takaoka K, Yamamura M, Nishioka T, Abe T, Tamaoka J, Segawa E, Shinohara M, Ueda H, Kishimoto H, Urade M: Establishment of an Animal Model of Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaws in Spontaneously Diabetic Torii Rats. *PLoS One*. 2015 Dec 14;10(12):e0144355. doi: 10.1371/journal.pone.0144355. eCollection 2015 (査読有)
30. Takaoka K, Segawa E, Yamamura M, Zushi Y, Urade M, Kishimoto H: Dental implant treatment in a young woman after marginal mandibulectomy for treatment of mandibular gingival carcinoma: a case report. *Int J Implant Dent*. 1(1):20. Epub 2015 Aug 4.
31. Zushi Y, Noguchi K, Moridera K, Takaoka K, Kishimoto H: Osteonecrosis of the jaw in an AIDS patient: a case report. *AIDS Res Ther*. 12:13. doi: 10.1186/s12981-015-0049-8. eCollection 2015 (査読有)
32. Yoshikawa K, Noguchi K, Nakano Y, Yamamura M, Takaoka K, Hashimoto-Tamaoki T, Kishimoto H: The Hippo pathway transcriptional co-activator, YAP, confers resistance to cisplatin in human oral squamous cell carcinoma. *Int J Oncol*. 46(6):2364-2370. doi: 10.3892/ijo.2015.2948. Epub 2015 Apr 1 (査読有)
33. Yamanegi K, Kawabe M, Futani H, Nishiura H, Yamada N, Kato-Kogoe N, Kishimoto H, Yoshiya S, Nakasho K: Sodium valproate, a histone deacetylase inhibitor, modulates the vascular endothelial growth inhibitor-mediated cell death in human osteosarcoma and vascular endothelial cells. *Int J Oncol*. 46(5):1994-2002. doi: 10.3892/ijo.2015.2924. Epub 2015 Mar 12 (査読有)
34. 櫻本亜弓, 櫻本祐子, 岸本裕充：「食べられるお口」を保って防ごう！誤嚥性肺炎の最新知識． *歯科衛生士*, 39(9), 45-56, 2015 (査読無)
35. *首藤敦史, 岸本裕充：顎骨壊死とその対策． *Journal of osteoporotic medicine*, 14(2), 121-126, 2015 (査読無)
36. 首藤敦史, 岸本裕充, 野口一馬, 大西正信, 石田佳毅, 小林正樹, 藤原成祥, 李 進彰, 安田真也, 末松基生, 北村龍二, 河合峰雄, 網野かよ子, 薬師寺 登, 赤澤 登, 柳澤高道, 谷垣信吾, 古土井春吾, 古森孝英, 足立了平：兵庫県病院歯科における薬剤関連顎骨壊死の多施設共同調査報告． *日本口腔感染症学会雑誌*, 22(1), 5-11, 2015 (査読有)
37. 山村倫世, 佐野沙織, 首藤敦史, 岸本裕充：お薬手帳を読める歯科衛生士になる!! *DHstyle*, 9(5) 77-86, 2015 (査読無)
38. 首藤敦史, 岸本裕充：薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)における最新の動向と対策． *The Quintessence*, 34(5), 80-90, 2015 (査読無)
39. 岸本裕充：ICUで経口気管挿管中の患者に対する口腔ケア． *人工呼吸*, 32(1), 37-43, 2015 (査読無)
40. 安田恵理子, 本田公亮, 松村栄子, 藤原正誠, 長谷川陽子, 長谷川誠実, 岸本裕充：吹奏楽部中学生における管楽器演奏と顎関節症との関連について． *ひょうごの公衆衛生*, 30, 46-47, 2015 (査読無)
41. 門井謙典, 岸本裕充：災害拠点病院における歯科の併設状況． *神奈川歯学*, 50(特別号), 75-78, 2015 (査読有)
42. 門井謙典, 中久木康一, 湊田慎也, 東 雅啓, 大久保孝一郎, 岸本裕充, 槻木恵一：横須賀・湘南地域における大規模災害に対する要介護高齢者施設の歯科保健医療体制整備に向けた調査研究． *神奈川歯学*, 50(特別号), 79-89, 2015 (査読有)
43. 岸本裕充, 山村倫世：急性期からのオーラルマネジメント（口腔ケア） 嚥下における咬合の重要性も含め

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- て. *総合リハビリテーション*, 43(2), 115-120, 2015 (査読無)
44. 岸本裕充: 長期人工呼吸管理へのかかわり 歯科衛生士の役割. *Clinical Engineering*, 26(2), 134-136, 2015 (査読無)
45. Kawabe M, Ohyama H, Kato-Kogoe N, Yamada N, Yamanegi K, Nishiura H, Hirano H, Kishimoto H, Nakasho K: Expression of interleukin-34 and colony stimulating factor-1 in the stimulated periodontal ligament cells with tumor necrosis factor- α . *Med Mol Morphol*. 48(3):169-176. doi: 10.1007/s00795-014-0094-8. Epub 2014 Dec 30 (査読有)
46. 岸本裕充: 手術後合併症を低減するための周術期のオーラルマネジメント. *歯科薬物療法*, 33(3), 143-148, 2014 (査読無)
47. 岸本裕充, 門井謙典: 周術期口腔機能管理で術後肺炎を防ぐ! ~「細菌カウンタ」と「デンタルアイS」の活用~. *Dental Friends*, 12:4-6, 2014 (査読無)
48. 岸本裕充, 吉川恭平: 人工呼吸に付随する管理 口腔ケア. *救急・集中治療*, 26(9-10), 1314-1319, 2014 (査読無)
49. 藤原正識, 森寺邦康, 岸本裕充: 開業医も医科歯科連携の一員! 「周術期口腔機能管理」に歯科衛生士は不可欠! *歯科衛生士*, 38(8), 94-103, 2014 (査読無)
50. 岸本裕充: 口腔ケア・オーラルマネジメントによるバイオフィルム対策. *日本外科感染症学会雑誌*, 11(6), 649-658, 2014 (査読無)
51. 岸本裕充: 口腔のケア ケアの要は「歯垢の除去」だけでなく「汚染物の回収」. *Intensivist*, 6(2), 171-179, 2014 (査読無)
52. 岸本裕充: インプラント治療における医療安全管理: 高齢者に対する薬剤の投与を中心に. *日本口腔インプラント学会雑誌*, 27(4), 499-505, 2014 (査読有)
53. 岸本裕充: がん医療における口腔ケア・オーラルマネジメント. *New Diet Therapy*, 30(1), 27-29, 2014 (査読無)
54. 吉川恭平, 野ロー馬, 山村倫世, 高岡一樹, 森寺邦康, 岸本裕充: 上下顎犬歯・小白歯部に左右対称性に8歯の埋伏過剰歯が出現した1例. *日本口腔外科学会雑誌*, 60(6), 68-72, 2014 (査読有)
55. 木崎久美子, 岸本裕充, 木村政義, 富加見教男, 西 信一: 呼吸サポートチーム対象患者における口腔症状の年次推移. *人工呼吸*, 31(1), 60-64, 2014 (査読有)
56. 首藤敦史, 岸本裕充: 薬剤誘発性顎骨骨髄炎の注意点と対処法. *medicina*, 51(8), 1556-1561, 2014 (査読無)
57. 岸本裕充: がん医療におけるオーラルマネジメント 合併症を予防し, 治療成績・QOLの向上を目指す. *兵庫医科大学医学雑誌*, 39(1), 25-29, 2014 (査読無)
- 2-6
1. *Ikeya K, Fukunishi M, Iwasa F, Inoue Y, Ishihara K, Baba K :2-Methacryloyloxyethyl Phosphorylcholine Polymer Treatment of Complete Dentures to Inhibit Denture Plaque Deposition. *J Vis Exp*. 26:(118). 2016 (査読有)
2. Urano S, Hotta Y, Miyazaki T, Baba K : Bending properties of Ce-TZP/A nanocomposite clasps for removable partial dentures. *Int J Prosthodont*. 28(2):191-7. 2015 (査読有)
3. 横山紗和子, 吉田裕哉, 原真央子, 福西美弥, 佐藤大輔, 樋口大輔, 尾関雅彦, 馬場一美: 新たな OHIP 解析方法を用いた即時荷重インプラントオーバーデンチャーのアウトカム評価. *日本口腔インプラント学会誌* 28:508-514, 2015(査読有)
4. Fueki K, Ohkubo C, Yatabe M, Arakawa I, Arita M, Ino S, Kanamori T, Kawai Y, Kawara M, Komiyama O, Suzuki T, Nagata K, Hosoki M, Masumi S, Yamauchi M, Aita H, Ono T, Kondo H, Tamaki K, Matsuka Y, Tsukasaki H, Fujisawa M, Baba K, Koyano K, Yatani H :Clinical application of removable partial dentures using thermoplastic resin. Part II: Material properties and clinical features of non-metal clasp dentures.*J Prosthodont Res*. 58(2):71-84. 2014
5. Fueki K, Ohkubo C, Yatabe M, Arakawa I, Arita M, Ino S, Kanamori T, Kawai Y, Kawara M, Komiyama O, Suzuki T, Nagata K, Hosoki M, Masumi S, Yamauchi M, Aita H, Ono T, Kondo H, Tamaki K, Matsuka Y, Tsukasaki H, Fujisawa M, Baba K, Koyano K, Yatani H :Clinical application of removable partial dentures using thermoplastic resin-part I: definition and indication of non-metal clasp dentures.*J Prosthodont Res*. 58(1):3-10. 2014
6. *Takahashi N, Iwasa F, Inoue Y, Morisaki H, Ishihara K, Baba K :Evaluation of the durability and antiadhesive action of 2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine grafting on an acrylic resin denture base material.*J Prosthet Dent*. 112(2):194-203. 2014(査読有)
- 2-7
1. Maki K, Futaki K, Tanabe S, Takahashi M, Ichikawa Y, Yamaguchi T. A New Self-Ligating Bracket with Multiple Slots. *Int J Dent*, 2016:4348325, 2016
2. *古谷亮子, 木村仁, 山口徹太郎, 伊能教夫, 榎宏太郎 : 電動スライダーによるボタンプル計測と顎顔面形態との関係 *東京矯歯誌* 25:34-38, 2015
- 2-8
1. 宇山理沙, 藤谷順子, 大越ひろ, 栢下淳, 前田広土, 小城明子, 高橋浩二, 藤島一郎: とろみ液の官能評価による分類一粘度およびLine Spread Test値の範囲設定一. *日摂食嚥下リハ会誌*, 18 : 13-21, 2014 (査読有)
2. 武原 格, 山本弘子, 高橋浩二, 弘中祥司, 勝又明敏, 二藤隆春, 小山珠美, 藤原百合, 藤島一郎, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会: 訓練のまとめ (2014版) . *日摂食嚥下リハ会誌*, 18 : 55-89, 2014 (査読無)
3. 二藤隆春, 勝又明敏, 小山珠美, 高橋浩二, 武原 格, 弘中祥司, 藤原百合, 山本弘子, 日本摂食嚥下リハビ

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

リテーション学会医療検討委員会：嚥下造影の検査法（詳細版）日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会2014年度版．日摂食嚥下リハ会誌，18：166-186，2014（査読無）

<図書>

《プロジェクト1》

1-1

1. 美島健二：唾液その基礎から最前線まで：ザ・クインテッセンス, 33(4)：56-65, 2014

1-2

1. 阪井丘芳：【構音障害】、今日の治療指針 2016 年度版、1567、医学書院

1-3

1. 分担執筆 ネットター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第2版 前田健康（編）医歯薬出版 2014.
2. 分担執筆 歯科小手術スキルアップ 今村栄作、山田浩之（編）日本歯科評論 2014.
3. 近藤信太郎・中村雅典・松野昌展 著 歯の解剖学 わかば出版 2014.
4. 近藤信太郎・中村雅典・松野昌展 著 歯の解剖学<第2版> わかば出版 2016.
5. 磯川桂太郎・稲井哲一朗・中村雅典・山本仁・渡邊弘樹 著 組織学・口腔組織学<第4版> わかば出版 2014.
6. 磯川桂太郎・下田信治・山本仁（編）カラーアトラス口腔組織発生学<第4版> わかば出版 2016.

1-4

1. 井上富雄, 中村史朗(分担執筆):筋電図法の基礎; 新 よくわかる顎口腔機能(日本顎口腔機能学会編), 医歯薬出版, 東京, 2-5 頁, 2017
2. 井上富雄, 中村史朗(分担執筆):咀嚼の意義と効用; 新 よくわかる顎口腔機能(日本顎口腔機能学会編), 医歯薬出版, 東京, 123-125 頁, 2017
3. 井上富雄(分担執筆):咀嚼と脳; 新 よくわかる顎口腔機能(日本顎口腔機能学会編), 医歯薬出版, 東京, 129-134 頁, 2017
4. 井上富雄:動物を用いた咀嚼運動研究法;顎口腔機能の検査・分析 -基礎と実践-, 日本顎口腔機能学会, 鳴門市, 30-43 頁, 2015
5. 井上富雄:咀嚼の神経機構, BRAIN and NERVE, 67(2) 141-156, 医学書院 2015
6. 井上富雄(分担執筆):歯周組織の生理学;ザ・ペリオドントロジー第2版(和泉雄一, 木下淳博, 沼部幸博, 山本松男編), 永末書店, 東京, 9-13 頁, 2014
7. 井上富雄(分担執筆):19 章咀嚼;基礎歯科生理学 第6版(森本俊文他編), 医歯薬出版, 東京, 328-345 頁, 2014

1-6

1. 上條竜太郎. リサーチマインド教育. 日本歯科医学教育学会誌別冊 歯科医学教育白書 (2016. 日本歯科医学教育学会 p49-54)

1-7

1. 高見正道 (共著)『ファーマナビゲーター 抗 RANKL 抗体編』 Chapter 1 RANKL/RANK/OPG の構造・機能相関 (メディカルレビュー社) 2016 年
2. 高見正道 (共著)『骨疾患キーワード事典』 第2部 骨軟骨の機能と制御, 4章 破骨細胞の分化と機能, 3. TRAF6, 11. IRF8 (羊土社) 2015 年

《プロジェクト2》

2-2

1. 守谷恵未, 角保徳:口腔ケア時の誤嚥予防を考慮した「水を使わない口腔ケア」, 医歯薬出版 臨床栄養 130(2) 224-226. 2017 角保徳 周術期の対応 松井恭平, 森崎市治郎, 白鳥たかみ, 他編 歯科衛生士のための歯科臨床概論 2017 医歯薬出版
2. 角保徳『私の工具箱「お口を洗うジェル」』 ザ・クインテッセンス 35(7):126, 2016
3. 守谷恵未, 山田広子, 岩田実緒, 大野友久, 角保徳 歯科医師, 歯科衛生士による周術期の口腔管理 臨床麻酔 40(3):485-492, 2016
4. 藤田恵未, 岩田実緒, 角保徳:「私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編⑥<最終回> 歯科衛生士のチームアプローチ」デンタルハイジーン 35(10):1112-1115, 2015
5. 角保徳:超高齢社会の到来と歯科医療—歯科衛生士の役割の変化— 日本歯科衛生学会雑誌 10(1):25-33, 2015
6. 角保徳:「お口を洗うジェル」で水を使わない口腔ケア 日本歯科評論 75(9):81-84, 2015
7. 平識善大, 藤田恵未, 角保徳:私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編⑤ 周術期口腔機能管理~その2 化学療法症例 デンタルハイジーン 35(9):1006-1009, 2015
8. 平識善大, 山田広子, 角保徳:私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編④ 周術期口腔機能管理~その1 全身麻酔下手術症例 デンタルハイジーン 35(8):886-889, 2015
9. 藤田恵未, 平識善大, 角保徳:私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編③ 認知症の患者さんに対する口腔ケア デンタルハイジーン 35(7):774-777, 2015

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

10. 山田広子, 近藤菜穂子, 角 保徳: 私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編② 口腔乾燥に対する専門的口腔ケア デンタルハイジーン 35(6):652-655, 2015
 11. 近藤菜穂子, 山田広子, 角 保徳: 私たちが担う! 「専門的口腔ケア」アドバンス編① 口腔カンジダ症における専門的口腔ケア デンタルハイジーン 35(5):528-531, 2015
 12. 角 保徳: 日本摂食嚥下リハビリテーション学会編集 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 e ラーニング対応 第4分野 摂食嚥下リハビリテーションの介入 I 口腔ケア・間接訓練 Ver. 2. 34 口腔ケアの定義・期待される効果 p.2-7, 2015 医歯薬出版株式会社
 13. 角 保徳: 高齢者歯科医療の確立を—超高齢社会におけるわが国の歯科医療発展への方策— 歯界展望 125(1):9-15, 2015
 14. 西田泰大, 嶋田敏江, 角 保徳: 続・私たちが担う「専門的口腔ケア」実際編⑥<最終回> 在宅や施設での歯科衛生士の役割と専門的口腔ケアの注意点 デンタルハイジーン 34(12):1338-1341, 2014
 15. 藤田恵未, 平識善大, 角 保徳: 続・私たちが担う「専門的口腔ケア」実際編⑤ 義歯に対しての歯科衛生士の取り組み デンタルハイジーン 34(11):1232-1235, 2014
 16. 藤田恵未, 近藤菜穂子, 角 保徳: 続・私たちが担う「専門的口腔ケア」実際編④ ベッドサイドでもスクレーピングはできる! ~歯科衛生士だからできること~ デンタルハイジーン 34(10):1102-1105, 2014
 17. 平識善大, 近藤菜穂子, 角 保徳: 続・私たちが担う「専門的口腔ケア」実際編③ 水を使わない専門的口腔ケアの実践 デンタルハイジーン 34(9):990-993, 2014
 18. 松田 亮, 平識善大, 角 保徳: 続・私たちが担う「専門的口腔ケア」実際編② 専門的口腔ケアをするならこれがないと始まらない! デンタルハイジーン 34(8):874-877, 2014
 19. 近藤菜穂子, 藤田恵未, 角 保徳: 続・私たちが担う「専門的口腔ケア」実際編① 水を使わないで口腔ケアをする! ? デンタルハイジーン 34(7):762-765, 2014
 20. 角 保徳, 平識善大, 藤田恵未: 要介護高齢者の命を支える口腔ケア 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 86(6):444-449, 2014
- 2-4
1. 中牧 剛: 白血病の現状と展望-その分子標的治療時代- 急性骨髄性白血病の現状と展望: Cefiro. Autumn 2016 No.24 5-12
 2. 中牧 剛: 医薬品による重篤副作用への対処法と救済制度】薬剤による血液障害 無顆粒球症と血小板減少症を中心として: 昭和医学会雑誌 75巻4号 Page407-413(2015.08)
 3. 中牧 剛, 前田 崇: 【鉄代謝制御機構と鉄過剰症】鉄代謝異常をきたす遺伝性疾患: 血液内科.70巻3号 Page321-330(2015.03)
 4. 中牧 剛: 私のこの一枚 Microgranular APL と白血病幹細胞: 血液フロンティア. 24巻11号 Page1581-1586(2014.10)
 5. 中牧 剛: 中枢神経系の悪性リンパ腫: 治療 update. BRAIN and NERVE. 66巻8号 P969-979(2014.08)
 6. 中牧 剛: 特集 貧血-成因・診断・治療- 鉄欠乏性貧血と症候性貧血: Cefiro, Spring 2014 No.19 P7-13
- 2-5
1. 岸本裕充: 誤嚥性肺炎. 新訂版 知りたいことがわかる高齢者歯科医療—歯科医療につながる医学知識—(小谷順一郎, 砂田勝久 編), 永末書店, 2017年, pp50-53.
 2. 岸本裕充: 気管支喘息. 新訂版 知りたいことがわかる高齢者歯科医療—歯科医療につながる医学知識—(小谷順一郎, 砂田勝久 編), 永末書店, 2017年, pp54-57.
 3. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ). 新訂版 知りたいことがわかる高齢者歯科医療—歯科医療につながる医学知識—(小谷順一郎, 砂田勝久 編), 永末書店, 2017年, pp76-79.
 4. 岸本裕充: 唾液腺炎, 唾液分泌障害. 言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 第2版, 医学書院, 2016年, pp175-177
 5. 岸本裕充: 口腔乾燥症. 口の中がわかる ビジュアル歯科口腔科学読本, クインテッセンス出版, 2017年, pp150-151
 6. 岸本裕充: 舌痛症. 口の中がわかる ビジュアル歯科口腔科学読本, クインテッセンス出版, 2017年, pp164-165
 7. 岸本裕充: 歯科疾患が原因・誘因とされる全身疾患. 口の中がわかる ビジュアル歯科口腔科学読本, クインテッセンス出版, 2017年, pp 170-171
 8. 岸本裕充: 有熱患者の口腔ケア. 改訂版 口腔ケア基礎知識 (日本口腔ケア学会 編), 永末書店, 2017年, pp197-200
 9. 岸本裕充: 口腔カンジダ症. 患者を支える がん患者の口腔ケア (日本口腔ケア学会 学術委員会 編), 医学書院, 2017年, pp81-87
 10. 岸本裕充: 終末期の口腔ケア・オーラルマネジメント—口腔ケアだけでなく, 的確な評価, 歯科治療も重要. スーパー総合医 緩和医療・終末期ケア (長尾和宏 編), 中山書店, 2017年, pp217-221
 11. 岸本裕充: 多職種連携における歯科衛生士の役割. 歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル—高齢者編(日本歯科衛生士会 監修), 医歯薬出版, 2016年, pp162-165
 12. 岸本裕充: 認知症患者の口腔ケアのポイントは? 神経内科 Clinical Questions & Pearls 認知症 (高尾昌樹 編), 中外医学社, 2016年, pp303-308

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

13. 岸本裕充：MRONJ（薬剤関連顎骨壊死）の概要と、わが国の現状. 薬剤・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 MRONJ・BRONJ 最新 米国口腔顎顔面外科学会と本邦の予防・診断・治療の指針（柴原孝彦，岸本裕充，矢郷 香，野村武史 著），クインテッセンス出版，2016年，pp9-14
 14. 岸本裕充：MRONJに関する論点とは？ 薬剤・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 MRONJ・BRONJ 最新 米国口腔顎顔面外科学会と本邦の予防・診断・治療の指針（柴原孝彦，岸本裕充，矢郷 香，野村武史 著），クインテッセンス出版，2016年，pp43-55
 15. 首藤敦史，岸本裕充：薬剤関連顎骨壊死(MRONJ). 薬'17/'18 歯科 疾患名から治療薬と処方例がすぐわかる本（朝波惣一郎，王 宝禮，矢郷 香 編），クインテッセンス出版，2016年，pp54-55
 16. 岸本裕充：心臓手術を受ける患者への口腔ケア（周術期のオーラルマネジメント）のポイントとは. 多職種協働チーム先制医療での口腔ケア FAQ50（鴨井久一，菊谷 武 監修），一世出版，2016年，pp122-123
 17. 岸本裕充：がん化学療法時の患者の口腔ケアのポイントを教えてください. 多職種協働チーム先制医療での口腔ケア FAQ50（鴨井久一，菊谷 武 監修），一世出版，2016年，pp122-123
 18. 岸本裕充，長谷川陽子：亜急性期とはどのような症状・病態ですか？ 亜急性期での対応は急性期と違いがありますか？ 続5 疾病の口腔ケア プロフェッショナルな実践のための Q&A55，医歯薬出版，2016年，pp102-104
 19. 岸本裕充：患者の選択，注意を要する全身疾患・薬剤. 本音を教えてください！ GP が知りたいインプラント外科 Q&A67，医歯薬出版，2015年，pp1-27
 20. 岸本裕充：投薬. 本音を教えてください！ GP が知りたいインプラント外科 Q&A67，医歯薬出版，2015年，pp 67-79
 21. 浦出雅裕，岸本裕充：歯科におけるインфекションコントロールの現状と課題. 一般臨床家 口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル'15，クインテッセンス出版，2015年，pp 98-104
 22. 岸本裕充，浦出雅裕：インフェクションコントロールの実際. 一般臨床家 口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル'15，クインテッセンス出版，2015年，pp105-114
 23. 川邊睦記，岸本裕充：慢性合併症・併存疾患 歯周病. 糖尿病に強くなる！療養指導のエキスパートを目指して，医学書院，2015年，pp187-189
 24. 門井謙典，岸本裕充：急性期病院（災害拠点病院を含む）における災害時の口腔ケアの工夫. 災害時の歯科保健医療対策，一世出版，2015年，pp146-149
 25. 首藤敦史，岸本裕充：抗がん剤治療中の口腔管理 -歯科口腔外科の役割-. 抗がん剤の副作用と支持療法 より適切な抗がん剤の安全使用をめざして，日本臨牀社，2015年，pp673-677
 26. 岸本裕充：急性期から慢性期への連携. 健康寿命の延伸をめざした口腔機能への気づきと支援 ライフステージごとの機能を守り育てる，医歯薬出版，2014年，pp191-194
 27. 岸本裕充：舌苔を「全部一気に取るうとしない」，インジン“だけ”では口腔ケアを「十分にできない」，気管チューブ挿管患者の口腔ケア時に「必ずしもカブ圧を上げなくてもよい」. 今はこうする！看護ケア，照林社，2014年，pp29-31
 28. 高岡一樹，岸本裕充：高齢者のインプラント治療に必要な術前診査について. 65歳以上の患者へのインプラント治療・管理ガイド -要介護になっても対応できるために，ヒョーロン，2014年，pp23-36
 29. 野口一馬，岸本裕充：高齢者のインプラント治療前に知っておきたい，咀嚼障害につながる疾患「がん」. 65歳以上の患者へのインプラント治療・管理ガイド -要介護になっても対応できるために，ヒョーロン，2014年，pp66-72
- 2-6
1. 馬場一美 :1 序論 A 部分的な歯の欠損 B 部分的な歯の欠損の治療 C 部分的な歯の欠損の治療の意義 D パーシャルデンチャーの特徴 E パーシャルデンチャーの有害作用 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 1-12,2016
 2. 馬場一美 :2 歯の欠損に由来する顎口腔系の変化 C 歯の欠損による一次性障害 D 歯の欠損による二次性障害 E 歯の欠損による三次性障害 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 21-29,2016
 3. 馬場一美 :9 診察，検査，診断とインフォームドコンセント A 診察および検査 B 診断 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 99-109,2016
 4. 馬場一美 :15 人工歯配列と蠟義歯 A パーシャルデンチャーの人工歯配列と咬合 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 175,2016
 5. 馬場一美 :その他の義歯 A オーバーデンチャー スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 215,2016
 6. 馬場一美，近藤尚知，千葉豊和 :インプラント，デンチャーのデジタルデンティストリー:補綴臨床 50(1)7-18, 2017
 7. 田中晋平，馬場一美 :無歯顎患者におけるデジタル・デンティストリー-ボーンアンカーブリッジとインプラント・オーバーデンチャー症例から-:日本補綴歯科学会誌 8(4)414-419,2016
 8. 西山弘崇，安部友佳，馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 デンチャーが原因の粘膜疾患って? : DHstyle 10(10)132-133,2016
 9. 西山弘崇，安部友佳，馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 パーシャルデンチャーの違和感や話しにくさは、どのくらいで慣れる? : DHstyle 10(10) 126-127,2016
 10. 福西美弥，安部友佳，馬場一美 :【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メイン

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

テナンス・訪問歯科診療 パーシャルデンチャーが痛い、噛めないと言われたらどうするの? : DHstyle 10(10)124-125,2016

11. 福西美弥, 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 義歯安定剤はどう選んで使うの? そもそも使ってよいの? :DHstyle 10(10)122-123,2016
12. 池谷賢二, 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 パーシャルデンチャー用義歯洗浄剤は歯科専売と市販でどう違うの?: DHstyle 10(10)118-119,2016
13. 池谷賢二, 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第3章)メインテナンス・訪問歯科診療 自宅でのパーシャルデンチャーのケア方法って?: DHstyle 10(10)116-117,2016
14. 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第1章)パーシャルデンチャー パーシャルデンチャーはインプラントと併用できるの?: DHstyle 10(10)32-33,2016
15. 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第1章)パーシャルデンチャー 保険と自費のパーシャルデンチャー、どこが違うの?: DHstyle 10(10)30-31,2016
16. 安部友佳, 馬場一美 : 【いまこそ知りたい そろそろ知りたい デンチャーQ&A】(第1章)パーシャルデンチャー パーシャルデンチャーを入りにくいのはどんな口腔内?: DHstyle 10(10)28-29,2016
17. 田中晋平, 西山弘崇, 馬場一美 : 【エキスパートたちが教える パーシャルデンチャーの Pitfall と回避策 35 これをおさえればインプラントに勝つパーシャルデンチャーができる!】(第III部)新材料によるパーシャルデンチャーの作り方 ジルコニアフレームワークの応用 : 日本歯科評論 別冊 2016 144-148,2016
18. 安部友佳, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】 実践編 インプラントオーバーデンチャーの修理 マグネット :補綴臨床 別冊 Denture Repair 118-124,2015.05
19. 塚崎弘明, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】 実践編 義歯床の修理 直接法 :補綴臨床 別冊 Denture Repair 60-65,2015
20. 安部友佳, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】 総論・理論編 再製となるケース :補綴臨床 別冊 Denture Repair 52-57,2015
21. 安部友佳, 馬場一美 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】 総論・理論編 義歯破折の原因と対策 患者サイドの条件 : 補綴臨床 別冊 Denture Repair 26-33,2015
22. 馬場一美, 村田比呂司 : 【なぜ壊れ、どう直すのか DENTURE REPAIR 部分床義歯・全部床義歯・インプラントオーバーデンチャー】 総論・理論編 義歯破折の原因と対策 補綴設計・力学的要因の見地から :補綴臨床 別冊 Denture Repair 5-11,2015

2-7

1. 榎宏太郎(分担執筆):呼吸と顎顔面形態形成のバイオメカニクス,中島榮一郎監著『新矯正歯科治療論 次世代を切り拓くためのメソッド』,東京,2015,クインテッセンス出版(株),p79-85

2-8

1. 高橋浩二(分担執筆):摂食嚥下障害のリハビリテーション. 野間康弘・瀬戸皖一監修. 標準口腔外科学第4版. 東京, 2015, 医学書院, pp 527-532
2. Takahashi K.: Chapter 16 Management of Speech Disorders Following Treatment for Oral Cancer. Oral Cancer Diagnosis and Therapy edited by Tadaaki Kirita and Ken Omura Springer Japan 2015 pp361-372
3. Takahashi K.: Chapter 17 Management of Dysphagia Following Treatment for Oral Cancer. Oral Cancer Diagnosis and Therapy edited by Tadaaki Kirita and Ken Omura Springer Japan 2015 pp373-402

<学会発表>

《プロジェクト1》

1-1

1. 田中準一, 大庭 伸介, 馬淵 洋, 安原理佳, 入江太郎, 福島美和子, 河野葉子, 美島健二 :唾液腺発生における Sox9 の機能解析 Sox9 regulates development of salivary glands. (第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年12月)
2. 田中準一, 馬淵 洋, 安原理佳, 入江太郎, 福島美和子, 河野葉子, 美島健二 : Sox9 を介したマウス唾液腺組織幹細胞の機能解析 Sox9 is involved in the ability to self-renew of stem-like cells in murine salivary gland. (第105回日本病理学会総会, 仙台, 2016年5月)
3. Tanaka J, Mabuchi Y, Yasuhara R, Irie T, Fukushima M, Fukada T, Yohko K, Mishima K : Characterization of tissue-specific stem cells from murine salivary gland. (第63回 国際歯科研究学会(IADR)日本部会総会(JADR)・学術大会, 福岡, 2015年10月)
4. 田中準一, 馬淵 洋, 安原理佳, 入江太郎, 福島美和子, 河野葉子, 美島健二 : マウス唾液腺における幹細胞の同定とその機能解析. (第104回日本病理学会, 名古屋, 2015年4月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

5. 田中準一, 馬淵 洋, 安原理佳, 入江太朗, 福島美和子, 河野葉子, 美島健二 : マウス唾液腺における幹細胞の同定とその characterization. (第 14 回日本再生医療学会, 横浜, 2015 年 3 月)
 6. 美島健二 ; 老化制御を目指した再生医療の最前線 (第 1 6 回抗加齢歯科医学研究会主催講習会, 東京, 2014 年 4 月)
- 1-2
1. Ono H, Ikai K, Matsushita T, Sakai M, Sakai T: Pilocarpine benefit in stem cell therapy ; regeneration for human and mouse salivary glands,(Gordon Research Conference, Garveston, February 19-24, 2017)
 2. Sakai T: Grobal gene expression analysis for the treatment of cleft palate,(International Cleft Congress2017, Chennai, India, February 8-11, 2017)
 3. Ono H, Safeye E S, Kurosaka H, Sakai T, Yamashiro T: The role of Runx1 in salivary gland development, (International Symposium Oral and Craniofacial Development and Diseases 2016, Osaka, December 12, 2016)
 4. 井階一樹、小野 瞳、松下 巧、酒井 学、野原幹司、阪井丘芳 : 胎仔唾液腺における筋上皮細胞の発生とその役割、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2016 年 12 月)
 5. 松下 巧、阪井丘芳、吉田博昭、森田章介、檜枝洋記 : マウス顎下腺発生過程における転写因子 Grhl2 とその標的遺伝子の発現、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2016 年 12 月)
 6. 松下 巧、吉田博昭、田中準一、美島健二、阪井丘芳、森田章介 : 顎下腺形成には転写因子 Grhl2 によるプロテアーゼ阻害因子 SPINT1 の発現、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2016 年 12 月)
 7. 松野頌平、野原幹司、宮本昌子、相 へりか、阪井丘芳 : 経鼻内視鏡を用いた唾液誤嚥評価法の開発、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2016 年 12 月)
 8. 中川恵子、野原幹司、杉山千尋、阪井丘芳 : 嚥下訓練の経過から眼咽頭型筋ジストロフィー (OPMD) の発症が明らか、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2016 年 12 月)
 9. 光森桂子、田中信和、野原幹司、相 へりか、阪井丘芳 : 在宅療養における重症心身障害児者の摂食嚥下障害の調査～当部外来受診者の実態から～、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2016 年 12 月)
 10. 金子信子、野原幹司、田中信和、奥野健太郎、光山 誠、阪井丘芳 : 施設入所高齢者における夜間安静時の嚥下頻度調査、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2016 年 12 月)
 11. 徳田誠司、奥野健太郎、立花直子、若杉葉子、深津ひかり、大城 健、中川恵子、阪井丘芳 : 舌扁桃肥大による睡眠時無呼吸症候群患者に対し扁桃摘出術前に口腔内装置を適用した症例、(第 28 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会、大阪 2016 年 12 月)
 12. Sugiyama C, Nozaki K, Nohara K, Hishikawa A, Ichiyama H, Tanaka N, Takai E, Sakai T: Speech outcome of consecutive patients with UCLP, (The 11th congress of the Asian Pacific Craniofacial Association Nara, December 1-3, 2016)
 13. 徳田誠司、奥野健太郎、立花直子、若杉葉子、深津ひかり、大城健、中川恵子、阪井丘芳 : 眠気の原因として多因子の関与が疑われた軽度 OSAS に対し診断的治療として OA を適応した症例、(第 15 回日本睡眠歯科学会・学術集会、東京、2016 年 11 月)
 14. 松下 巧、吉田博昭、田中準一、美島健二、阪井丘芳、森田章介 : 顎下腺形成には転写因子 Grhl2 によるプロテアーゼ阻害因子 SPINT1 の発現調節が関与する、(第 61 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術大会、千葉、2016 年 11 月)
 15. Kaneko N, Nohara K, Sakai T: A Survey of The Administration of Drugs that May Influence The Eating and Swallowing Functions of The Elderly in Need of Nursing Care, (The 6th ESSD Congress, Milan, October 14-15, 2016)
 16. Tanaka N, Nohara K, Oshiro K, Watanabe K, Sakai T: The Relationship Between Swallowing Frequency and Function in The Elderly, (The 6th ESSD Congress, Milan, October 14-15, 2016)
 17. Nohara K, Matsuno K, Sakai T: Development of The Videoendoscopic Evaluation of Saliva Aspiration, (The 6th ESSD Congress, Milan, October 14-15, 2016)
 18. 阪井丘芳 : 幹細胞をターゲットとした唾液腺再生治療の開発、(第 58 回歯科基礎医学会学術シンポジウム、札幌 2016 年 8 月)
 19. 小野瞳、Sarper Safiye、山城隆、阪井丘芳 : 唾液腺の形態形成における性差と Runx1 の制御機構について、(第 58 回歯科基礎医学会学術大会、札幌、2016 年 8 月)
 20. 小野瞳、井階一樹、阪井丘芳 : 口腔乾燥治療薬の継続服用による有効性の検討、(第 58 回歯科基礎医学会学術大会、札幌、2016 年 8 月)
 21. 井階一樹、小野瞳、阪井丘芳 : 唾液腺形態形成における筋上皮細胞の役割について、(第 58 回歯科基礎医学会学術大会、札幌、2016 年 8 月)
 22. 奥野健太郎、野原幹司、高井英月子、阪井丘芳 : 各睡眠段階における嚥下と呼吸の調節機構の変化、(日本睡眠学会第 441 回定期学術集会、東京、2016 年 7 月)
 23. 阪井丘芳 : どうして唾液がでなくなるのか?～ドライマウスと摂食嚥下障害に対する口腔管理の基礎知識～、(第 7 回高知口腔ケアフォーラム、高知、2016 年 7 月)
 24. Kaneko N, Nohara K, Sakai T, Yamaguchi T: Severity Classification of People with Dysphagic in the Nursing Home, (20th International Symposium on Dental Hygiene, Switzerland, June 23-25, 2016)
 25. 相 へりか、野原幹司、深津ひかり、田中信和、阪井丘芳 : 増粘剤の使用が粘液線毛輸送に及ぼす影響、(日

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

本老年歯科医学会第27回総会・学術集会、徳島、2016年6月)

26. 常峰容子、野原幹司、深津ひかり、阪井丘芳：口腔腫瘍術後の外来患者に対する認知症スクリーニング監査の試み、(日本老年歯科医学会第27回総会・学術集会、徳島、2016年6月)
27. 野崎一徳、杉山千尋、畠中耕平、中川真智子、佐藤耕一、苅安 誠、野原幹司、玉川裕夫、山城隆、阪井丘芳、古郷幹彦：Fluid Dynamics of Articulation Considering Velopharyngeal Function 鼻咽腔閉鎖機能を考慮した構音野流体解析、(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会、大阪、2016年5月)
28. 杉山千尋、野原幹司、菱川礼子、高井英月子、田中信和、阪井丘芳：口蓋裂言語の聴覚判定における評価者間一致度の研究—経験による差の検討—、(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会、大阪、2016年5月)
29. 高井英月子、野原幹司、杉山千尋、田井寿和、阪井丘芳：口蓋形成術後15年経過した先天性軟口蓋片側形成不全症例の鼻咽腔閉鎖機能について、(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会、大阪、2016年5月)
30. 田井寿和、野原幹司、高井英月子、阪井丘芳：大阪大学歯学部附属病院顎口腔機能治療部における口蓋裂初診患者の臨床統計、(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会、大阪、2016年5月)
31. 高木律男、飯田征二、今井智子、小林眞司、阪井丘芳、須佐見隆史、須田直人、宮脇副司、中村典史、内山健志、吉増秀實、西尾順太郎、川上重彦、後藤昌昭、鈴木茂彦：本学会学術調査委員会による2014年(第2回)口蓋裂・口唇裂チーム医療体制実態調査、(第40回日本口蓋裂学会総会・学術集会、大阪、2016年5月)
32. 平岡慎一郎、薄木崇介、畦西克己、稲月撰、上田紘子、大濱透、阪井丘芳、古郷幹彦：口腔癌術後患者二対するペプタメンAFTMを用いた栄養両方の検討、(第31回日本静脈経腸栄養学会、福岡、2016年2月)
33. Sakai T: Exploration of Mechanisms of Salivary Gland and Palatal Development using Databases, (Symposium on tooth Development and Regeneration, Hong Kong, February 12, 2016)
34. 阪井丘芳：口腔機能障害—ドライマウスから摂食・嚥下臨床への展開、第3回食品ユニバーサルデザイン研究会、大阪2016年2月)
35. Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska B, Lowe AA, Almeida F. Endoscopy Prediction of Oral Appliance Outcome in Obstructive Sleep Apnea. (The University of British Columbia Dentistry Research Day, Vancouver, Canada, January 26, 2016)
36. Tanaka N, Nohara K, Ueda A, Ushio M, Doi S, Nakazawa M, Fujiwara M, Sakai T: Comparison of chest computed tomography findings of severe motor and intellectual disability patients between aspirators and non-aspirators, (The 5th ESSD Congress, Barcelona, Spain, October 1-3, 2015)
37. Nohara K, Ai E, Fukatsu N, Tanaka N, Okuno K, Sakai T: Effects of application of thickening agent on mucociliary transport time, (The 5th ESSD Congress, Barcelona, Spain, October 1-3, 2015)
38. Kaneko N, Nohara K, Tanaka N, Okuno K. Sakai T: Swallowing frequency in elderly of during resting at night, (The 5th ESSD Congress, Barcelona, Spain, October 1-3, 2015)
39. Almeida FR, Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska B T, Lowe AA: Nasoendoscopic diagnosis for prediction of oral appliance treatment outcome in moderate and severe obstructive sleep apnea. (The 7th Congress of the Canadian Sleep Society, S Toronto, Ontario, Canada.,September 25-27, 2015)
40. Ono H, Obana A, Usami Y, Sakai M, Miura J, Egusa H, Sakai T: Models of salivary gland differentiation using induced pluripotent stem (iPS) cells, (47th Meeting of Continental European Division of the International Association for Dental Research, Antalya, Turkey,September 15, 2015)
41. Okuno K, Sasao Y, Nohara K, Sakai T, Pliska B T, Lowe AA, Almeida FR: Quantitative evaluation of upper airway using nasoendoscopy for prediction of oral appliance treatment outcome in moderate and severe obstructive sleep apnea. (24th annual meeting of the American Academy of Dental Sleep Medicine Seattle, Washington USA, June 4-6, 2015)
42. Okuno k, Nohara k, Sakai T, Lowe AA, Almeida FR: The change in coordination of swallowing and respiration in sleep stages. (American Thoracic Society 2015 International Conference, Denver, Colorado USA.,May 15-20, 2015)
43. Ueda N, Nohara K, Tanaka N, Kaneko N, Uchida Y, Sakai T: Influence of the bolus volume on hyoid movements in healthy younger and older women. (The 23th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Chicago II, USA, March 12-14, 2015)
44. Uchida Y, Nohara K, Ueda N, Kaneko N, Tanaka N, Mitsuyama M, Sakai T: Factors associated with the incidence of aspiration pneumonia in nursing home residents. (The 23th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Chicago II, USA, March 12-14, 2015)
45. Tanaka N, Nohara K, Ueda A, Ushio M, Fujiwara M, Handa S, Nakazawa Y, Sakai T: Comparison of chest computed tomography findings in cerebral palsy patients between aspirators and nonaspirators. (The 23th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Chicago II,USA, March 12-14, 2015)
46. Ono H, Obana A, Sakai T: Models of salivary gland differentiation using induced pluripotent stem (iPS) cells,)Salivary Glands & Exocrine Biology, Gordon Research Conference, USA, February 15-20, 2015)
47. Okuno k, Nohara k, Sakai T, Lowe AA, Almeida FR: The change in coordination of swallowing and respiration in sleep stages. (American Thoracic Society 2015 International Conference, Denver, Colorado USA.,May 15-20, 2015)
48. Obana A, Ono H, Sakai T: Melatonin inhibits embryonic salivary gland branching morphogenesis by regulating epithelial cell adhesion and morphology, (Japan-Korea Seminar, Osaka, February 23, 2015)
49. 阪井丘芳：唾液腺の機能を理解したわかりやすい口腔ケア、(第15回日本抗加齢医学会総会、福岡、2015年5

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

月)
50. 阪井丘芳：睡眠時の口腔乾燥について、日本睡眠学会第40回定期学術集会、栃木、2015年7月)
51. 阪井丘芳：若さを保つための口腔ケア～唾液と口腔機能～、(Tadalafil 東京フォーラム2015、日本新薬株式会社主催、東京、2015年6月)
52. 阪井丘芳：口腔機能獲得のための唾液腺と口蓋の遺伝子プロファイルの構築、(第15回日本抗加齢医学会総会、福岡、2015年5月)
53. 阪井丘芳：健康に食べるための唾液と唾液腺の基礎知識、第10回日本口腔ケア協会学術大会、兵庫2016年1月)
54. 阪井丘芳：遺伝子データベースを応用した器官形成機構の解明、(ライオン学術賞受賞講演、札幌、2016年8月)
55. 阪井丘芳：シェーグレン症候群に伴うドライマウスについて、(sis エリア連携ミーティング キッセイ薬品工業株式会社主催、大阪、2015年6月)
56. 阪井丘芳：「唾液の機能とドライマウスに対する口腔ケア」、Handai-Asahi 中之島塾、大阪、2015年11月)
57. 阪井丘芳：「効果的な口腔ケアを行うための唾液と唾液腺の基礎知識」、日本口腔看護研究会第2回島根地区セミナー、島根2015年7月)
58. 阪井丘芳： 宿題報告 再生をめざした唾液腺形成機構の解析～新たな制御因子を求めて～、(第69回NPO法人日本口腔科学会学術集会、大阪、2015年5月)
59. 高井英月子、野原幹司、阪井丘芳、当部で鼻咽腔閉鎖不全が明らかとなった言語障害を呈する非口蓋裂術後症例の主訴および受診経緯について、(第31回日本障害者歯科学会総会および学術大会、仙台、2014.11.14-16)
60. 野原幹司、相 へりか、深津ひかり、田中信和、阪井丘芳：増粘剤の濃度の違いが粘液線毛輸送に及ぼす影響、(第25回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、千葉、2015年10月)
61. 平岡慎一郎、畦西克己、稲月撰、上田紘子、阪井丘芳、古郷幹彦、口腔癌における術前栄養学的評価と長期予後について、(第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会、神戸、2015.2.12-13)
62. 内田悠理香、野原幹司、田中信和、金子信子、光山誠、阪井丘芳：施設入所高齢者における誤嚥性肺炎発症の寒冷要因の検討 (第26回日本老年歯科医学会総会・学術大会、横浜、2015年6月)
63. 内田仁司、斎藤一郎、阪井丘芳：唾液分泌の日内変動における機能分子の解析、(第15回日本抗加齢医学会総会、福岡、2015年5月)
64. 田中信和、野原幹司、高井英月子、深津ひかり、上田菜美、尾花綾、阪井丘芳：口唇口蓋裂患者の睡眠時無呼吸症候群に対する他科連携による取り組み、(第39回日本口蓋裂学会総会・学術集会、東京、2015年5月)
65. 相 へりか、野原幹司、深津ひかり、田中信和、阪井丘芳：増粘剤の使用が粘液線毛輸送機能に及ぼす影響、(第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、京都、2015年9月)
66. 杉山千尋、野原幹司、日景朱美、菱川礼子、高井英月子、田中信和、阪井丘芳：口蓋裂言語の聴覚判定における評価者内信頼性についてービデオ聴取による検討 第2報ー、第39回日本口蓋裂学会総会・学術集会、東京、2015年5月)
67. 常峰蓉子、上田菜美、野原幹司、阪井丘芳：口腔腫瘍術後患者の慢性期における嚥下障害について～嚥下スクリーニング質問紙EAT-10による調査～、(第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、京都、2015年9月)
68. 松野頌平、田井寿和、宮本昌子、阪井丘芳：唾液誤嚥評価法の開発に向けて～唾液嚥下でのPAS(A penetration-aspiration scale)を評価するための試み～、(第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、京都、2015年9月)
69. 松下 巧、吉田博昭、阪井丘芳、森田章介：転写因子Grh12はマウス胎仔顎下腺の分子形態形成に関与する、(第60回日本口腔外科学会総会・学術大会、名古屋、2015年10月)
70. 小野 瞳、尾花 綾、宇佐美 悠、酒井 学、井階一樹、三浦治郎、江草 宏、阪井丘芳：iPS細胞由来の再生因子を用いた唾液腺再生の検討、(第27回日本口腔科学会近畿地方部会、大阪、2015年11月)
71. 小野 瞳、尾花 綾、宇佐美 悠、酒井 学、江草 宏、大川博子、阪井丘芳：唾液腺再生を目指したips細胞の応用、(第14回NPO法人日本再生医療学会学術集会、横浜、2015.3.19-21)
72. 小野 瞳、尾花 綾、宇佐美 悠、酒井 学、三浦治郎、江草 宏、阪井 丘芳：iPS細胞を応用した唾液腺再生モデル、(第69回日本口腔科学会学術集会、大阪、2015年5月)
73. 佐々生康弘、奥野健太郎、野原幹司、中村祐己、阪井丘芳：内視鏡による Oral Appliance 治療の適否の診断、(第40回日本睡眠学会定期学術集会、栃木、2015年7月)
74. 高井英月子、野原幹司、阪井丘芳：VFによる発音時の軟口蓋の速さ解析—口蓋裂症例について— (第39回日本口蓋裂学会総会・学術集会、東京、2015年5月)
75. 金子信子、野原幹司、田中信和、奥野健太郎、光山誠、阪井丘芳：施設入所高齢者の夜間就寝中における嚥下頻度 (第26回日本老年歯科医学会総会・学術大会、横浜、2015年6月)
76. 金子信子、野原幹司、田中信和、奥野健太郎、光山 誠、阪井丘芳：施設入所高齢者と健常成人の夜間就寝中における嚥下頻度の比較検討、(第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、京都、2015年9月)
77. Sakai T: Exploration of functional regulators in branching morphogenesis of salivary gland for future regenerative medicine, (Symposium, The 55th congress of the KOREAN association of oral and maxillofacial surgeons, KOREA,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

April 25, 2014)

78. 阪井丘芳、口腔機能障害 ―摂食・嚥下臨床への展開―、障害を持つ人々に寄り添う歯科医療を目指して、関西障害者歯科臨床研究会第6回研究集会、大阪、2014.6.29
 79. 阪井丘芳、口腔機能障害に対する臨床と研究―唾液の機能を理解したアンチエイジングと口腔ケア―、超域イノベーション講座、サンスター株式会社（大阪）、2014.7.10
 80. 阪井丘芳、再生をめざした唾液腺形成機構の解析 ～iPS細胞の応用～、平成26年度生理学研究所研究会「唾液腺形態形成研究会～機能解析から器官再生へ～」、自然科学研究機構総合バイオサイエンスセンター、2014.8.4
 81. 阪井丘芳、加齢や歯周病等の疾患に伴う口腔機能の変化（特に咀嚼機能、摂食嚥下機能を中心に）と、それに伴う高齢者の健康への影響について、第35回全国歯科保健大会、大阪、2014.11.8
 82. Nohara K, Kaneko N, Uchida Y, Tanaka N, Sakai T: Relationship between airway clearance function and aspiration pneumonia in geriatric nursing home residents. (The 4th ESSD Congress, Brussels, Belgium, October 23-25, 2014)
 83. Sugiyama C, Nohara K, Hikage A, Hishikawa A, Takai E, Kogo M, Sakai T: An investing of relationship between articulation and motor coordination in individuals with UCLP. (71th Annual American Cleft Palate–Craniofacial Meeting, Indianapolis, USA, March 24-29, 2014)
 84. 小野瞳、尾花綾、宇佐美悠、江草宏、大川博子、山城隆、野原幹司、阪井丘芳、iPS細胞を用いた唾液腺再生への試み、(第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会-口腔科学の新世紀-、東京、2014.5.7-9)
 85. 岡野綾、古郷幹彦、阪井丘芳、杉山千尋、磯村恵美子、青海哲也、大槻浩一、廣石幸恵、富永仰、川島郁子、近藤剛、安齋ゆう子、石橋美樹、富永律子：口蓋裂児への会に対する患者家族アンケート調査からの知見、(第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会-口腔科学の新世紀-、東京、2014.5.7-9)
 86. 杉山千尋、野原幹司、日景朱美、菱川礼子、高井英月子、阪井丘芳：口蓋裂言語の聴覚判定における評価者間の一致率について―ビデオ聴取による検討―、(第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会、札幌、2014.5.29-30)
 87. 高井英月子、野原幹司、上田菜美、日景朱美、杉山千尋、阪井丘芳：鼻咽腔閉鎖不全を呈していた構音障害症例における本院受診前の診断および受診経緯について、(第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会、札幌、2014.5.29-30)
 88. 上田菜美、野原幹司、高井英月子、杉山千尋、日景朱美、大槻浩一、古郷幹彦、阪井丘芳：完全両側性唇顎口蓋裂患者における上顎形態と口蓋化構音について、(第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会、札幌、2014.5.29-30)
 89. 日景朱美、杉山千尋、野原幹司、菱川礼子、尾花綾、阪井丘芳：協調運動障害が口蓋裂術後構音障害の発言に及ぼす影響 第3報 ―構音障害の有無による協調運動能力の特徴―、(第38回日本口蓋裂学会総会・学術集会、札幌、2014.5.29-30)
 90. 上田菜美、野原幹司、金子信子、尾花綾、内田悠理香、光山誠、阪井丘芳、肺炎既往の有無による肺炎球菌の陽性率の比較、(第25回日本老年歯科医学会学術大会、福岡、2014.6.13-14)
 91. 深津ひかり、野原幹司、阪井丘芳、内視鏡を用いた粘膜線毛輸送機能の評価法の確立、(第25回日本老年歯科医学会学術大会、福岡、2014.6.13-14)
 92. 金子信子、野原幹司、阪井丘芳、施設入所高齢者における摂食・嚥下機能に影響を及ぼす服薬についての調査報告、(第25回日本老年歯科医学会学術大会、福岡、2014.6.13-14)
 93. 谷川千尋、野崎一徳、玉川裕夫、留和香子、磯貝由佳子、社浩太郎、上松節子、阪井丘芳、古郷幹彦、山城隆、口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療のための矯正歯科治療情報基盤システムの構築、(第56回近畿東海矯正歯科学会学術大会、名古屋、2014.6.29)
 94. 深津ひかり、野原幹司、阪井丘芳、内視鏡を用いた粘膜線毛輸送機能の評価法の確立～サッカリンテストとの比較～、(第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、東京、2014.9.6)
 95. 中村祐己、佐々生康宏、奥野健太郎、野原幹司、阪井丘芳、下顎前方移動ともなう上気道の形態変化 ～健常者における内視鏡的評価、日本睡眠歯科学会 第13回総会・学術集会、東京、2014.11.8-9
 96. 尾花綾、田中信和、野原幹司、阪井丘芳、摂食障害児の予後に影響を与える因子の研究、(第31回日本障害者歯科学会総会および学術大会、仙台、2014.11.14-16)
 97. 藤田真奈美、深津ひかり、上田菜美、野原幹司、高井英月子、田中信和、阪井丘芳、嚥下障害を有する患者および介助者における口腔ケアに関するアンケート調査、第31回日本障害者歯科学会総会および学術大会、仙台、2014.11.14-16
- 1-3
1. 大塚裕忠、中村雅典、重症貧血マウスモデルの大網組織における造血関連因子の解析。(第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、長崎、2017年3月)
 2. 井上知、大塚裕忠、瀧戸次郎、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：幹端における骨損傷の修復過程は骨幹部と異なる。(第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、長崎、2017年3月)
 3. 井上知、中村雅典：長骨骨幹端における骨修復機構の解析。(第25回日本柔道整復接骨医学会学術大会、仙台、2016年11月)
 4. Nonaka N, Nakamura M: The functional analysis of the pillar cells in granular ducts of mouse submandibular glands. (第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、長崎、2017年3月)
 5. 野中直子、中村雅典：マウス顎下腺の顆粒性導管に存在するピラー細胞の機能的解析。(第58回歯科基礎医学

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

会学術大会、札幌、2016年8月)

6. 井上知、大塚裕忠、瀧戸次郎、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：長骨骨幹部および骨幹端における骨修復機構の比較。(第330回昭和大学学術大会、東京、2016年6月)
7. 川島翼、瀧戸二郎、島田幸恵、佐藤昌史、中村雅典：マウスのエナメル芽細胞における細胞接着分子 Nectin-2の機能解析。(第54回日本小児歯科学会、東京、2016年5月)
8. Nonaka N, Nakamura M: Japanese herbal medicine, Juzentaihoto, suppress the lymphocyte infiltration in the aging mouse salivary glands. (Experimental Biology 2016, San Diego, 2016年4月)
9. 大塚裕忠、中村雅典。窒素含有型ビスホスホネートを用いた重症貧血マウスモデルにおける新規造血構造誘導機構の解析。(第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、福島、2016年3月)
10. 井上知、大塚裕忠、瀧戸次郎、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：長骨骨幹部および骨幹端における骨修復機構の比較。(第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、福島、2016年3月)
11. 瀧戸二郎、中村雅典：破骨細胞に見られるアクチン超構造体の静的構造(第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、福島、2016年3月)
12. 新井宏、大塚裕忠、瀧戸次郎、井上知、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：ミノドロネート投与によるコラーゲン誘導型関節炎モデルへの影響。(第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、福島、2016年3月)
13. 野中直子、中村雅典：十全大補湯による加齢マウス唾液腺におけるリンパ球浸潤抑制効果。(第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、福島、2016年3月)
14. Arai H, Otsuka H, Takito J, Inoue S, Yanagisawa N, Nonaka N, Nakamura M: Effect of Minodronate on collagen-induced arthritis model mice. (APICA, Singapore, 2016年3月)
15. 新井宏、大塚裕忠、瀧戸次郎、井上知、柳澤伸彰、野中直子、中村雅典：コラーゲン誘導型関節炎モデルマウスにおける窒素含有型ビスホスホネート製剤の影響。(第62回昭和大学学術大会、東京、2015年12月)
16. 川島翼、瀧戸二郎、佐藤昌史、井上美津子、宮崎 隆、中村雅典：細胞接着分子 Nectin のマウスエナメル芽細胞における局在とその機能解析。(第62回昭和大学学術大会、東京、2015年12月)
17. Takito J, Nakamura M: The anatomy of the zipper-like structure. (63rd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Fukuoka, October, 2015)
18. Nonaka N, Nakamura M: Change of PACAP receptor expressing cells during the development of granular duct in male mouse submandibular glands. (Experimental Biology 2017, ボストン、2015年3月)
19. 大塚裕忠、中村雅典。重症貧血誘導時における腹腔内脂肪関連性リンパ組織及び血リンパ節様構造に関する研究。(第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会。神戸、2015年3月)
20. Inoue S, Arai H Otsuka H, Nakamura M: . The Effect of Minodronate on Murine Hematopoiesis. (第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会。神戸、2015年3月)
21. Nonaka N, Shioda S, Nakamura M: Dynamic change of PACAP receptor with the development of granular ducts in male mouse submandibular glands. (第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会。神戸、2015年3月)
22. Arai H, Otsuka,H, Takito J, Inoue S, Nonaka N, Nakamura M: Effect of Nitrogen-containing bisphosphonates on collagen-induced arthritis model mice. (第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会。神戸、2015年3月)
23. 瀧戸二郎、川島翼、中村雅典：エンドサイトーシスと細胞融合に関与するアクチン再構築系の分離。(第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会合同大会。神戸、2015年3月)
24. 大塚裕忠、中村雅典：Simultaneous detection of embryonic and adult hemoglobin in adult mice. (第62回国際歯科研究学会日本部会総会・学術集会、大阪、2014年12月)
25. 野中直子、中村雅典：雄性マウス顎下腺における顆粒性導管の出現と PACAP レセプターの局在変化について。(第56回歯科基礎医学学会学術大会・総会、福岡、2014年9月)
26. 大塚裕忠、中村雅典。重症貧血マウスに誘導された血リンパ節様構造に関する研究。(第157回日本獣医学会全国学術集会、札幌、2014年9月)
27. 瀧戸二郎、中村雅典：アクチン細胞骨格を制御するシグナルネットワークによる破骨細胞多核化の調節。(第119回日本解剖学会総会全国学術集会、栃木 2014年3月)

1-4

1. Mochizuki A, Katayama K, Kato T, Ikawa Y, Ikeda M, Nakamura S, Nakayama K, Baba K, Inoue T. The effects of dark/light transition and sleep-wake cycles on jaw-closing masseter muscle activity level in mice. 5th Annual International Institute for Integrative Sleep Medicine (IIS) Symposium, Shinagawa, 2016/12/12
2. Dantsuji M, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, S. K. Park, Y. J. Bae, Ozeki M, Inoue T. Serotonin modulates NMDA receptor-mediated glutamate responses through 5-HT2A receptors in dendrites of rat jaw-closing motoneurons. Society for Neuroscience 46th annual meeting, San Diego, U.S.A. 2016/11/15
3. 永田愛、中山希世美、山口徹太郎、榎宏太郎、井上富雄：咬筋運動ニューロンのシナプス入力のリセトニンによる調節。第75回日本矯正歯科学会大会、徳島、2016/11/7-9
4. 井上富雄：マウス咬筋活動に対するシタロプラムの効果。日本咀嚼学会第27回学術大会。広島、2016/11/5
5. 中村史朗、望月文子、中山希世美、井上富雄：三叉神経運動ニューロンへのグルタミン酸性シナプス伝達機構の生後

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

変化. 日本顎口腔機能学会第 57 回学術大会, 仙台, 2016/10/1

6. 那小屋公太, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 井上富雄: ラット三叉神経運動核背側領域に存在する Phox2b 陽性ニューロンの電気生理学的特性. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 札幌, 2016/8/26
7. 井川泰葉, 望月文子, 加藤隆史, 片山慶祐, 安部友佳, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 若林則幸, 井上富雄: ノンレム睡眠時の咬筋活動に対するシタロプラムの作用. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会 J. Oral Biosci. Suppl. 513, 2016, 札幌, 2016/8/26
8. 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 井上富雄: 発達期ラット三叉神経運動ニューロンへのグルタミン酸性シナプス入力. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, J. Oral Biosci. Suppl. 507, 2016, 札幌, 2016/8/26
9. 壇辻昌典, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 尾関雅彦, 井上富雄: セロトンは 5-HT2A 受容体を介して NMDA 受容体機能を調節し咬筋運動ニューロンのグルタミン酸応答を増大する. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2016/8/25
10. 井上富雄, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文: 覚醒制御に関わる脳内生理活性物質の三叉神経中脳路核ニューロンおよび閉口筋運動ニューロンに対する影響. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, サテライトシンポジウム 15, J. Oral Biosci. Suppl. 159, 2016, 札幌, 2016/8/24
11. 壇辻昌典, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 尾関雅彦, 井上富雄: Serotonergic modulation of NMDA receptor-mediated glutamate responses in the dendrites of rat jaw-closing motoneurons. 第 39 回日本神経科学大会, 横浜, 2016/7/21
12. 那小屋公太, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 鬼丸洋, 高橋浩二, 井上富雄: ラット三叉神経運動核背側領域に存在する Phox2b 陽性ニューロンの電気生理学的特性. 第 330 回昭和学士会例会, 東京, 2016/6/25
13. 壇辻昌典, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 尾関雅彦, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起のグルタミン酸応答に対するセロトニンの効果. 第 330 回昭和学士会例会, 東京, 2016/6/25
14. Nakayama K, Mochizuki A, Nakamura S, Inoue T. Inhibition of neuronal activities in mesencephalic trigeminal sensory neurons via orexin receptor-2 in rats. 17th international symposium of olfaction and taste. 横浜, 2016/6/7
15. 望月文子, 井川泰葉, 加藤隆史, 片山慶祐, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 井上富雄: シタロプラムはノンレム睡眠時の咬筋活動を変調させる. 日本顎口腔機能学会第 56 回学術大会, 埼玉, 2016/4/23
16. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 経動脈灌流標本を用いた上気道及び喉頭筋を支配する神経の呼吸性活動におけるアンドロジェンの影響. 第 93 回日本生理学会大会, 札幌, 2016/3/24
17. Nakamura S, Nagata S, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Developmental changes of glutamatergic synaptic properties in rat jaw-closing motoneurons. The 93rd annual meeting of the physiological society of Japan, Symposium 24, J Physiol Sci. Supplement 1: S57, 2016, Sapporo 2016/3/22
18. 中山希世美, 玄番千夏子, 望月文子, 中村史朗, 井上富雄: ヒスタミンによるラット閉口反射の抑制. 日本顎口腔機能学会第 55 回学術大会, 大阪, 2015/11/1
19. Nakayama K, Gemba C, Nakamura S, Mochizuki A, Inoue M, Inoue T. Presynaptic histaminergic inhibition of synaptic transmission from mesencephalic trigeminal afferents to masseter motoneurons in juvenile rats. Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/20
20. Tachikawa S, Nakayama K, Mochizuki A, Nakamura S, Kiyomoto M, Iijima T, Inoue T. Effects of hypercapnia on respiratory motor activity in nerves innervating the neck and tongue muscles. Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/19
21. Nogawa Y, Mochizuki A, Katayama K, Ikeda M, Abe Y, Nakamura S, Nakayama K, Kiyomoto M, Kato T, Baba K, Wakabayashi N, Inoue T. The effects of citalopram on masseter and neck muscle activities in mice. Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/18
22. Nakamura S, Nagata S, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Developmental changes of dendritic properties in rat jaw-closing motoneurons. NANOSYMPOSIUM; Oral motor and speech, Society for Neuroscience 45th annual meeting, Chicago, 2015/10/17
23. 中村史朗, 梶原里紗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 井上富雄: 咬筋運動ニューロンへの興奮性シナプス伝達の生後発達. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/13
24. 玄番千夏子, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 井上美津子, 井上富雄: ヒスタミンはシナプス前 H1 受容体を介して三叉神経中脳路核から咬筋運動ニューロンへの入力を抑制する. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/13
25. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 除脳ラット灌流標本を用いた上気道筋群の支配神経活動への CO₂ 負荷の影響. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/12
26. 壇辻昌典, 中村史朗, 中山希世美, 望月文子, 清本聖文, 尾関雅彦, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起のグルタミン酸応答に対するセロトニンの効果. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/9/12
27. 野川泰葉, 望月文子, 片山慶祐, 加藤隆史, 安部友佳, 中村史朗, 中山希世美, 馬場一美, 若林則幸, 井上富雄: マウス咬筋および頸筋の筋活動に対するシタロプラムの影響. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015/09/12
28. Nakamura S, Nagata S, Nakayama K, Mochizuki A, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Glutamatergic response properties in developing jaw-closing motoneuron dendrites. 第 38 回日本神経科学大会, 神戸, 2015/7/29
29. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 除脳ラット灌流標本を用いた自発呼

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

- 吸に伴う顎筋支配 神経活動の解析. 第 322 回, 昭和大学学士会例会, 東京, 2015/6/27
30. 野川泰葉, 望月文子, 片山慶祐, 安部友佳, 加藤隆史, 馬場一美, 若林則幸, 井上富雄: シタロプラムがマウス咬筋および顎筋活動に及ぼす影響. 日本補綴歯科学会 124 回学術大会, 大宮, 2015/05/31
 31. 玄番千夏子, 中山希世美, 井上富雄, 井上美津子: ラットにおける下顎反射の調節へのヒスタミン H1 受容体の関与. 第 53 回日本小児歯科学会大会, 広島, 2015/5/21-22
 32. 立川哲史, 中山希世美, 望月文子, 中村史朗, 清本聖文, 飯島毅彦, 井上富雄: 除脳ラット灌流標本を用いた自発呼吸に伴う顎筋支配神経活動の解析. 第 54 回日本顎口腔機能学会, 鹿児島, 2015/4/19
 33. Mochizuki A, Katayama K, Kato T, Ikeda M, Nogawa Y, Nakamura S, Nakayama K, Kiyomoto M, Wakabayashi N, Baba K, Inoue T. Modulation of masseter activity by vigilance states and circadian rhythm. 第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会合同大会, 神戸, 2015/03/23
 34. Kajiwara R, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, Inoue T. Postnatal changes of excitatory synaptic inputs in the rat masseter motoneurons. 第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会合同大会, 抄録集 S163, 神戸 2015/3/21
 35. Konno A, Nishimura A, Nakamura S, Yamada A, Kamijo R, Inoue T, Iijima T. Live imaging of apoptogenic change induced by general anesthetic neurotoxicity in developing mouse. IARS 2015 Annual Meeting and International Science Symposium, program: 88 IARS 2015 Annual Meeting and International Science Symposium, Honolulu, 2015/3/22
 36. Maruyama N, Shibata Y, Mochizuki A, Miyazaki T, Inoue T, Maki K. Age-related degradation of mouse cortical bone: implications for the α -klotho gene responsible for bone mechanical integrity in a series of nanoindentation experiments. Recent Advances in Structural Integrity Analysis: Proceedings of the International Congress (APCF/SIF-2014) 300-304, Sydney, Australia, 2014/12/10
 37. 長田翔子, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での情報処理機構の発育変化, 第 61 回昭和大学学士会総会, 東京, 2014/12/6
 38. Nagata S, Nakamura S, Mochizuki A, Nakayama K, Kiyomoto M, Yamamoto M, Inoue T. Developmental changes of dendritic properties in rat jaw-closing motoneurons. 第 62 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会, 大阪, 2014/12/4
 39. Nakayama K, Gemba C, Nakamura S, Mochizuki A, Inoue M, Inoue T. Histaminergic modulation of oral-motor activity. NANOSYMPIUM; Brainstem: Motor and Sensory Systems. Society for Neuroscience 44th annual meeting, Washington DC, 2014/11/18
 40. 丸山範子, 柴田陽, 望月文子, 宮崎隆, 榎宏太郎: α -klotho 遺伝子欠損マウスをモデルとした加齢変化による硬組織の物理的特性. 第 73 回日本矯正歯科学会大会, 千葉, 2014/10/20-22
 41. 片山慶祐, 望月文子, 加藤隆史, 池田美菜子, 野川泰葉, 中村史朗, 中山希世美, 若林則幸, 馬場一美, 井上富雄: マウスにおける咬筋の活動に対する明暗および睡眠-覚醒サイクルの影響. 第 53 回日本顎口腔機能学会学術大会, 松戸, 2014/10/4
 42. 中村史朗, 長田翔子, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での入力情報処理機構の生後変化. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡, 2014/9/27
 43. 玄番千夏子, 中山希世美, 中村史朗, 望月文子, 井上美津子, 井上富雄: 三叉神経中脳路核から三叉神経運動ニューロンへのシナプス入力におけるヒスタミンの作用. 第 37 回日本神経学会, 横浜 2014/9/12
 44. 片山慶祐, 望月文子, 加藤隆史, 池田美菜子, 野川泰葉, 中村史朗, 中山希世美, 若林則幸, 馬場一美, 井上富雄: マウスにおける筋活動量に対する明暗および睡眠-覚醒のサイクルの影響. 日本睡眠学会第 39 回定期学術集会, 徳島, 2014/7/3
 45. 片山慶祐, 馬場一美, 井上富雄: 明暗サイクルおよび睡眠-覚醒サイクルに伴うマウス咬筋活動の変化. 第 27 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会, 福岡 2014/7/19
 46. 長田翔子, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 清本聖文, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での情報処理機構の発育変化. 第 5 回昭和大学・東京医科歯科大学大学院交流会, 東京, 2014/7/24
 47. 長田翔子, 中村史朗, 望月文子, 中山希世美, 山本松男, 井上富雄: 咬筋運動ニューロン樹状突起での情報処理機構の発育変化. 日本顎口腔機能学会第 52 回学術大会, 岡山, 2014/4/20
- 1-5
1. 岡橋暢夫, 中田匡宣, 桑田啓貴, 川端重忠: *Streptococcus oralis* 由来の過酸化水素はマクロファージのリソソームを傷害する. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 北海道札幌市, 2016 年 8 月 24-26 日
 2. * 嘉手納未季, 桑田啓貴: メラトニンによる自然免疫系を介した炎症調節機構の解明 第 2 回日本骨免疫学会 ホテルモントレ沖縄, 沖縄県国頭郡 2016 年 7 月 6-8 日
 3. 松島瞳, 片岡嗣雄, 岡橋暢夫, 熊谷雄太郎, 井上美津子, 桑田啓貴: *Streptococcus oralis* 産生過酸化水素によるマクロファージの炎症性遺伝子発現制御について: *Streptococcus oralis* 産生過酸化水素によるマクロファージの炎症性遺伝子発現制御について. 第 90 回細菌学会総会 - 仙台国際センター, 宮城県仙台市 2017 年 3 月 19-21 日
- 1-6
1. 蔡 優広, 塩飽由香利, 穴田 貴久, 宮本洋一, 上條竜太郎, 高橋 哲, 鈴木 治. 種々のリン酸カルシウム系骨補填材料が骨細胞分化に与える影響. (第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台, 2017 年 3 月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2. 金子児太郎、星野真理江、宮本洋一、宇山理沙、近津大地、上條竜太郎。新規内因性シグナル分子 8-ニトロ-cGMP は骨の伸長を促進する。(第 53 回口腔組織培養学会、金沢、2016 年 11 月)
3. 馬目瑠子、望月文子、高見正道、上條竜太郎。TLR7 リガンドの R848 は悪性黒色腫の骨浸潤を抑制する。(第 53 回 日本口腔組織培養学会学術大会、石川 2016 年 11 月)
4. 長濱諒、山田篤、上條竜太郎、榎宏太郎。Cdc42 は PTH シグナルを介し骨軟骨形成を制御している。(第 75 回 日本矯正歯科学会大会、徳島、2016 年 11 月)
5. 泉田恵理、宮本洋一、山口徹太郎、須澤徹夫、上條竜太郎、榎宏太郎。疾患特異的 iPS 細胞を用いた原発性萌出不全発症機序の解析。(第 75 回日本矯正歯科学会大会、徳島、2016 年 11 月)
6. 齋藤愛美、鈴木大、黒滝大翼、望月文子、須澤徹夫、高見正道、井上富雄、田村智彦、上條竜太郎、稲垣克記。Lyz2-Cre/loxP を用いた Irf8 遺伝子欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する。(第 31 回 日本整形外科学会基礎学術集会、福岡、2016 年 10 月)
7. 長濱諒、山田篤、榎宏太郎、上條竜太郎。低分子量 G タンパク質 Cdc42 は PTH シグナルを介し胎生期および生後成長期の軟骨形成を制御している。(第 58 回歯科基礎医学会学術集会、札幌、2016 年 8 月)
8. 船登咲映、安原理佳、宮本洋一、吉村健太郎、美島健二、馬場一美、上條竜太郎。インターロイキン-1 β で刺激した軟骨細胞による NADPH-オキシダーゼに依存した細胞外マトリクスの分解(第 58 回歯科基礎医学会学術大会、札幌、2016 年 8 月)
9. 金子児太郎、星野真理江、宮本洋一、赤池孝章、井田智章、藤井重元、近津大地、馬場一美、上條竜太郎。8-NO₂-cGMP は骨の伸長を促進する内因性シグナル分子である。(第 69 回日本酸化ストレス学会、仙台、2016 年 8 月)
10. 宮本洋一、金子児太郎、星野真理江、赤池孝章、井田智章、藤井重元、馬場一美、近津大地、上條竜太郎。8-nitro-cGMP は成長板軟骨で産生される骨伸長因子である。(第 69 回日本酸化ストレス学会、仙台、2016 年 8 月)
11. 長濱諒、山田篤、鈴木大、榎宏太郎、上條竜太郎。低分子量 G タンパク質 Cdc42 は生後成長期の軟骨形成において重要である。(第 34 回日本骨代謝学会学術集、大阪、2016 年 7 月)
12. 齋藤愛美、鈴木大、黒滝大翼、望月文子、須澤徹夫、高見正道、田村智彦、稲垣克記、上條竜太郎。LysM-Cre/loxP による Irf8 欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する(第 34 回日本骨代謝学会学術集、大阪、2016 年 7 月)
13. 鈴木啓明、望月文子、吉村健太郎、宮本洋一、金子児太郎、近津大地、高見正道、上條竜太郎。Bropirimine は interferon- β の産生を介して破骨細胞分化を抑制する。(第 34 回日本骨代謝学会学術集会、大阪 2016 年 7 月)
14. 平沼克洋、山田篤、鈴木大、長濱諒、高見正道、上條竜太郎。Nephronectin は活性型ビタミン D3 により発現が誘導される。(第 34 回日本骨代謝学会学術集会、大阪 2016 年 7 月)
15. Reena Rodriguez, Kentaro Yoshimura, Yoichi Miyamoto, Yo Shibata, Takashi Miyazaki, Ryutaro Kamijo. Methylglyoxal promotes formation of calcified nodules by mouse osteoblastic MC3T3-E1 cells. (第 34 回日本骨代謝学会学術集会、大阪 2016 年 7 月)
16. 渋谷 勲、高見正道、安井哲郎、日高 亮、上條竜太郎、中村 茂。骨巨細胞腫における自然免疫機構を介した破骨細胞形成抑制の解析。(第 2 回日本骨免疫学会、沖縄、2016 年 7 月)
17. Eri Izumida, Yoichi Miyamoto, Tetsutaro Yamaguchi, Ryutaro Kamijo, Koutaro Maki. FUNCTIONAL ANALYSIS OF PARATHYROID HORMONE 1 RECEPTOR MUTANTS FOUND IN PRIMARY FAILURE OF TOOTH ERUPTION. (92nd EOS Congress, Stockholm, 2016 June)
18. Yoshiko Masuda, Yoichi Miyamoto, Ryutaro Kamijo. Gene expression analysis of cultured rat endothelial cells after Nd:YAG laser irradiation by affymetrix GeneChip Array. (International Association for Dental Research (IADR) Pulp Biology Regeneration Group (PBRG) Symposium Nagoya, 2016 June)
19. 齋藤愛美、鈴木大、黒滝大翼、望月文子、須澤徹夫、高見正道、井上富雄、Keiko Ozato、田村智彦、上條竜太郎、稲垣克記。Lyz2-Cre/loxP による Irf8 遺伝子欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する。(第 328 回昭和大学学生会例会、東京、2016 年 5 月)
20. Marie Hoshino, Kotaro Kaneko, Yoichi Miyamoto, Takaaki Akaike, Kentaro Yoshimura, Dai Suzuki, Kazuhiro Nagayama, Koutaro Maki, Daichi Chikazu, Kazuyoshi Baba, Ryutaro Kamijo. 8-Nitro-cGMP promotes elongation of long bones in mice. (The 9th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide, Sendai, 2016 May)
21. Kotaro Kaneko, Marie Hoshino, Yoichi Miyamoto, Kentaro Yoshimura, Dai Suzuki, Risa Tsukuura, Takaaki Akaike, Daichi Chikazu, Kazuyoshi Baba, Ryutaro Kamijo. Reactive sulfur species promotes bone elongation. (The 9th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide, Sendai, 2016 May)
22. Kentaro Yoshimura, Yoichi Miyamoto, Atsushi Yamada, Testuo Suzawa, Ryutaro Kamijo. Immediate expression of NOS2 and monocarboxylate transporter-1-dependent delayed expression of NOX2 are required for interleukin-1 β -induced cell death in mouse chondrocytes. (The 9th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide, Sendai, 2016 May)
23. 平沼克洋、上條竜太郎、飯島毅彦。活性型ビタミン D3 による Nephronectin の発現制御機構の解析。(第 70 回 N P O 法人日本口腔科学会学術集会、福岡 2016 年 4 月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

24. 齊藤 芳郎、上條竜太郎、代田達夫. 顎下腺の加齢に伴う遺伝子変化の解析. (第70回NPO法人日本口腔科学会学術集会、福岡 2016年4月)
25. Nagahama R, Yamada A, Suzuki D, Maki K, Kamijo R: Cdc42 is critical for cartilage development during endochondral ossification at postnatal stage. (2015 Cell Biology ASCB Annual Meeting, San Diego, December 2015)
26. Hiranuma K, Yamada A, Suzuki D, Iijima T, Kamijo R: Regulation of nephronectin gene expression by $1\alpha, 25$ -Dihydroxyvitamin D3. (2015 Cell biology ASCB Annual Meeting, San Diego, California, United States of America, December 2015)
27. Izumida E, Miyamoto Y, Yamada A, Saito T, Otsu M, Yamaguchi T, Maki K, Kamijo R: Missense mutations in parathyroid hormone 1 receptor found in patients having primary failure of tooth eruption cause decreased response to parathyroid hormone. (2015 Cell biology ASCB Annual Meeting, San Diego, California, United States of America, December 2015)
28. Funato S, Yasuhara R, Miyamoto Y, Yoshimura K, Mishima K, Baba K, Kamijo R: Phagocyte-type NADPH oxidase-derived reactive oxygen species is crucial for activation of hyaluronidase and degradation of extracellular matrix in chondrocytes stimulated by interleukin- 1β . (2015 Cell biology ASCB Annual Meeting, San Diego, California, United States of America, December 2015)
29. 平沼克洋、山田篤、上條竜太郎、飯島毅彦: 活性型ビタミン D3 による細胞外マトリックスタンパク質 Nephronectin の発現制御機構の解明. (第62回昭和大学学術大会、東京 2015年11月)
30. 長濱諒、山田篤、上條竜太郎、榎宏太郎: Cdc42 遺伝子の生後成長期の軟骨形成における機能解析. (第62回昭和大学学術大会、東京、2015年11月)
31. 泉田恵理、宮本洋一、山口徹太郎、山田 篤、大津 真、上條竜太郎、榎 宏太郎: 疾患特異的 iPS 細胞を用いた疾患発症機構の解明. (第62回昭和大学学術大会、東京 2015年11月)
32. 船登咲映、安原理佳、宮本洋一、吉村健太郎、美島健二、馬場一美、上條竜太郎: 炎症性軟骨基質減少の分子メカニズムの解明. (第62回昭和大学学術大会、東京 2015年11月)
33. 平沼克洋、山田篤、鈴木大、飯島毅彦、上條竜太郎: Nephronectin に対する活性型ビタミン D3 の発現制御機構の解析. (第52回日本口腔組織培養学会学術大会、徳島 2015年11月)
34. 長濱諒、山田篤、鈴木大、上條竜太郎、榎宏太郎: Cdc42 は生後成長期の軟骨形成に重要である. (第52回日本口腔組織培養学会学術大会、徳島、2015年11月21日) ベストプレゼンテーション賞 受賞
35. Mutsuko Oshima, Atsushi Yamada, Dai Suzuki, Koutaro Maki, Ryutarou Kamijo: Cdc42 in neural crest derived cells is essential for palatal development. ANZBMS 25th Annual Scientific Meeting, Tasmania, Australia, November, 2015
36. Funato S, Yasuhara R, Miyamoto Y, Yoshimura K, Mishima K, Baba K, Kamijo R: Interleukin- 1β induces activation of hyaluronidase and degradation of extracellular matrix in murine chondrocytes in a phagocyte-type NADPH oxidase-derived reactive oxygen species-dependent manner. (第63回 国際歯科研究学会 日本部会 総会・学術大会 (JADR 2015) 2015年10月、福岡) The JADR/GC Young Investigator Award 受賞
37. 長濱諒、山田篤、榎宏太郎、上條竜太郎: Cdc42 is critical for postnatal cartilage development. (第63回国際歯科研究学会、福岡、2015年10月)
38. 平沼克洋、山田篤、飯島毅彦、上條竜太郎: Expression of nephronectin is regulated by $1\alpha, 25$ -Dihydroxyvitamin D3. (第63回国際歯科研究学会、福岡、2015年10月)
39. 渋谷 勲、高見正道、榎本拓哉、松永朗裕、中村 茂、上條竜太郎: 免疫組織学的観点からみた骨巨細胞腫における CD11b 陽性細胞の意義. (第30回 日本整形外科学会基礎学術集会、平成27年10月22, 23日、富山市)
40. 井汲憲治、須澤徹夫、吉村健太郎、上條竜太郎: 骨/インプラント界面の静的圧縮応力に対する骨の反応 -静的圧縮の限界応力に関する研究-. (第57回歯科基礎医学学会学術大会・総会、新潟、2015年9月)
41. 大島睦子、山田篤、鈴木大、榎宏太郎、上條竜太郎: 神経堤由来細胞に発現する Rho ファミリー低分子量 G タンパク質 Cdc42 は口蓋形成に必須である. (第57回歯科基礎医学学会学術大会・総会、新潟、2015年9月)
42. 星野真理江、金子児太郎、宮本洋一、近津大地、馬場一美、上條竜太郎: 内因性活性イオウ種はマウス軟骨細胞の増殖と骨の伸長を促進した. (第33回日本骨代謝学会学術集会、東京、2015年7月)
43. 大島睦子、山田篤、鈴木大、榎宏太郎、上條竜太郎: 低分子量 G タンパク質 Cdc42 は口蓋形成において重要な遺伝子である. (第33回日本骨代謝学会学術集会、東京、2015年7月)
44. 渋谷 勲、高見正道、榎本拓哉、上條竜太郎、豊根知明: 骨巨細胞腫細胞培養系におけるゾレドロン酸とデノスマブの作用機序の相違. (第48回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、高松、2015年7月)
45. 星野真理江、宮本洋一、金子児太郎、赤池孝章、近津大地、馬場一美、上條竜太郎: 8-ニトロ-cGMP は骨伸長を促進する新規内因性シグナル分子である. (第1回日本骨免疫学会、沖縄 宮古島、2015年6-7月)
46. 鈴木大、Bush J、上條竜太郎、Beier F: 軟骨形成における恒常活性型 Rac1 の機能解析. (第1回日本骨免疫学会、沖縄 宮古島、2015年6-7月)
47. 山田篤、鈴木大、上條竜太郎: Rho ファミリー低分子量 G タンパク質 Rac1 および Cdc42 の骨・軟骨形成における機能解析. (第1回日本骨免疫学会、沖縄 宮古島、2015年6-7月)
48. 大島睦子、山田篤、榎宏太郎、上條竜太郎: Cdc42 遺伝子の口蓋形成過程における機能解析. (第69回日本口腔科学会学術集会、大阪、2015年5月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

49. Konno A, Nishimura A, Nakamura S, Yamada A, Kamijo R, Inoue T, Iijima T: Live imaging of apoptogenic change induced by general anesthetic neurotoxicity in developing mice. (International Anesthesia Research Society 2015 Annual Meeting and International Science Symposium, Honolulu, Hawaii, U.S.A. 2015 March)
50. 黒澤珠希, 山田篤, 高見正道, 鈴木大, 守村直子, 板部洋之, 上條竜太郎. Oncostatin Mによるネフロネクチン発現制御機構の解明. (日本薬学会第135年会, 神戸, 2015年3月)
51. Hoshino M, Miyamoto Y, Yoshimura K, Suzuki D, Akaike T, Mishima M, Baba K, Kamijo R: 8-Nitro-guanosine 3',5'-cyclic monophosphate mediates elongation of the growth plate cartilage in mice. (The 2014 ASCB/IFCB Meeting, December 6-11, Philadelphia, PE, U.S.A.)
52. 中山睦子, 山田篤, 鈴木大, 相澤怜, 鈴木航, 馬場一美, 山本松男, 上條竜太郎, 榎宏太郎. Cdc42は口蓋形成過程において必須の遺伝子である. (第61回 昭和大学学術大会, 東京, 2014年12月)
53. Matsunaga A, Takami M, Kamijo R, Inagaki K: Analysis of ectopic bone-inducing capacities of BMP-2, -4, -6, and -7 in mice. (The 62nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, 大阪, 2014年12月)
54. Hoshino M, Kaneko K, Miyamoto Y, Yoshimura K, Suzuki D, Akaike T, Chikazu D, Baba K, Kamijo R: Endogenously produced persulfides enhance bone elongation. (The 62nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, 大阪, 2014年12月)
55. 上條竜太郎: 破骨細胞制御因子による癌骨転移制御. (第17回癌と骨病変研究会, 東京, 2014年11月)
56. 浅川剛吉, 宮本洋一, 吉村健太郎, 長谷川智一, 山下一恵, 嘉手納未季, 馬目瑠子, 栗谷未来, 上條竜太郎, 船津敬弘: ヒト Down 症乳歯歯根膜由来細胞の SDF-1 発現解析. 第31回 日本障害者歯科学会総会および学術大会, 仙台, 2014年11月)
57. 浦野(森澤)絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 大隅典子, 馬場一美, 上條竜太郎: 毛包内神経堤由来細胞は骨芽細胞様細胞への分化能を持ち破骨細胞の分化を支持する. (第37回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014年11月)
58. 高橋正皓, 須澤徹夫, 山田篤, 山口徹太郎, 榎宏太郎, 上條竜太郎: 成体マウス顎下腺から分離した神経堤由来細胞の解析. (第51回日本口腔組織培養学会学術大会, 福岡, 2014年11月)
59. 中山睦子, 山田篤, 鈴木大, 榎宏太郎, 上條竜太郎: Cdc42は口蓋形成過程において必須の遺伝子である. (第51回日本口腔組織培養学会学術大会, 福岡, 2014年11月)
60. 松永朗裕, 高見正道, 稲垣克記, 上條竜太郎: 破骨細胞による象牙質およびβ-TCP 製人工骨補填剤の吸収. (日本口腔組織培養学会 第51回学術大会, 北九州, 2014年11月)
61. 山口徹太郎, 細道一善, 矢野圭介, 芳賀秀郷, 方山光朱, 中脇貴俊, 富田大介, 中村雅典, 上條竜太郎, 井ノ上逸朗, 榎 宏太郎: 永久歯先天欠如の新規原因遺伝子. (第73回日本矯正歯科学会大会, 千葉, 2014年10月)
62. 中山睦子, 山田篤, 佐藤友紀, 上條竜太郎, 榎宏太郎: Cdc42は口蓋形成過程において必須の遺伝子である. (第73回日本矯正歯科学会大会・第5回日韓ジョイントミーティング, 千葉, 2014年10月)
63. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄、脾臓および血液より分離した破骨前駆細胞の性質. (第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡, 2014年9月)
64. 星野真理江, 宮本洋一, 吉村健太郎, 田中準一, 美島健二, 馬場一美, 上條竜太郎: 8-ニトロ-cGMPはマウス成長板の伸長を促進する内因性シグナル分子である. (第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡, 2014年9月)
65. Wataru Suzuki, Atsushi Yamada, Ryo Aizawa, Dai Suzuki, Shu Takeda, Matsuo Yamamoto, Kazuyoshi Baba, Ryutaro Kamijo: Cdc42 is essential for cartilage development during endochondral ossification. ANZBMS 24th Annual Scientific Meeting, Queenstown, New Zealand, September, 2014
66. 松永朗裕, 高見正道, 上條竜太郎, 稲垣克記: 培養破骨細胞によるβ-TCP 製人工骨補填剤オスフェリオンの吸収. (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
67. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄、脾臓、血液中に存在する破骨細胞分化能をもつ細胞の解析. (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
68. 鈴木航, 山田篤, 相澤怜, 鈴木大, 竹田秀, 山本松男, 馬場一美, 上條竜太郎: Cdc42は軟骨分化とそれに続く軟骨内骨化に必須である. (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
69. 高橋正皓, 須澤徹夫, 山田篤, 榎宏太郎, 上條竜太郎: 成体マウス顎下腺から分離した神経堤由来細胞の遺伝子発現解析. (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
70. 齊藤彰大, 吉村健太郎, 宮本洋一, 山本松男, 上條竜太郎: ケトン体は骨芽細胞機能を調節する. (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
71. 宮本 尚, 宮本洋一, 吉村健太郎, 榎宏太郎, 上條竜太郎: グルココルチコイド系ステロイドは骨芽細胞によるアパタイト含有石灰化物形成とのかたさを向上させる. (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
72. 渋谷 勲, 高見正道, 松本光史, 榎本拓哉, 松永朗裕, 浦野絵里, 上條竜太郎: 骨巨細胞腫細胞に対する Denosumab の効果. (第32回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014年7月)
73. Saito A, Yoshimura K, Miyamoto Y, Yamamoto M, Kamijo R: Modulation of osteoblast by ketone bodies. (92nd General Session & Exhibition of IADR, Cape Town, South Africa, 2014年6月)
74. 増田宜子, 山口暢章, 山田嘉重, 宮本洋一, 上條竜太郎, 宮崎 隆: アルジネート印象材から創製したケイ酸セメントのラット培養歯髄細胞に対する影響について. (日本歯科保存学会 2014年度春期学術大会(第140回)、

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

大津、2014年6月)

75. 中山睦子, 山田篤, 佐藤友紀, 上條竜太郎, 榎宏太郎: Cdc42 は口蓋形成において必須の遺伝子である. (第38回日本口蓋裂学会学術集会、北海道、2014年5月)
 76. 鈴木航, 山田篤, 馬場一美, 上條竜太郎: 低分子量 G タンパク質 Cdc42 は軟骨分化とそれに引き続く軟骨内骨化に必須である. (第68回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014年5月)
- 1-7
1. 岡松伸明, 坂井信裕, 根岸貴子, 唐川亜希子, 高見正道, 稲垣克記, 木内裕二, 小口勝司: 抗 RANKL 抗体が妊娠マウスに与える影響. 第63回昭和大学学士会総会プログラム・抄録集 p31. (2016年11月26日, 昭和大学, 東京)
 2. 佐藤ゆり絵, 坂井信裕, 唐川亜希子, 茶谷昌宏, 根岸貴子, 高見正道: 骨吸収抑制活性をもつ抗 RANKL 抗体を投与した妊娠マウスおよびその新生仔の解析. 第23回日本歯科医学会総会プログラム抄録集 p157 (2016年10月21~23日, 福岡国際会議場/福岡サンパレス, 福岡) 【デンタル・スチューデント・プレゼンテーション 優秀賞受賞】
 3. 仁科早貴, 唐川亜希子, 坂井信裕, 井澤基樹, 茶谷昌宏, 根岸貴子, 佐藤昌史, 井上美津子, 高見正道: 骨吸収抑制剤ゾレドネートが幼若マウスの骨代謝に与える影響. 第23回日本歯科医学会総会プログラム抄録集 p157 (2016年10月21~23日, 福岡国際会議場/福岡サンパレス, 福岡)
 4. 澁谷 勲, 高見正道, 上條竜太郎, 中村 茂: 免疫組織学的観点からみた骨巨細胞腫における破骨細胞形成機序の解析. 第31回日本整形外科学会基礎学術集会抄録集 S1795 (2016年10月13~14日, 福岡国際会議場, 福岡)
 5. 茶谷昌宏, 青野一志, 高見正道, 工藤 明: c-fms トランスジェニックメダカと c-fms ノックアウトメダカの駆使により明らかになった生体内破骨前駆細胞の動態. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p173 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
 6. 茶谷昌宏, 北島未紀, 菊池和也, 高見正道, 工藤 明: TRAP ノックアウトメダカが示す ALP 活性化と骨形成の促進. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p195 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
 7. 栗谷未来, 坂井信裕, 古賀(根岸)貴子, 船津敬弘, 高見正道: ラットの骨髄・骨芽細胞の共存培養系において破骨細胞分化が抑制されるメカニズム. 第2回日本骨免疫学会 (2016年7月6日~8日, ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート, 沖縄)
 8. 岡松伸明, 古賀(根岸)貴子, 稲垣克記, 木内祐二, 小口勝司, 高見正道: 破骨細胞分化に伴って発現する未命名遺伝子の機能解析. 第2回日本骨免疫学会 (2016年7月6日~8日, ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート, 沖縄)
 9. 澁谷 勲, 高見正道, 安井哲郎, 日高 亮, 上條竜太郎, 中村 茂: 骨巨細胞腫における自然免疫機構を介した破骨細胞形成抑制機序の解析. 第2回日本骨免疫学会抄録集 p103 (2016年7月6日~8日, ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート, 沖縄)
 10. 茶谷昌宏, 高見正道: 遺伝子改変メダカを用いた研究. 第330回昭和学士会例会(歯学部主催)プログラム p4 (2016年6月25日, 昭和大学, 東京)
 11. 鈴木啓明, 望月文子, 吉村健太郎, 宮本洋一, 金子児太郎, 近津大地, 高見正道, 上條竜太郎: Bropirimine は interferon- β の産生を介して破骨細胞分化を抑制する. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p207 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
 12. 平沼克洋, 山田 篤, 鈴木 大, 長濱 諒, 高見正道, 上條竜太郎: Nephronectin は活性型ビタミン D3 により発言が誘導される. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p210 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
 13. 齋藤愛美, 鈴木 大, 望月文子, 須澤徹夫, 高見正道, 稲垣克記, 上條竜太郎: LysM-Cre/loxP による Irf8 欠損は細胞培養系でのみ破骨細胞分化を促進する. 第34回日本骨代謝学会学術集会・第3回アジア太平洋骨代謝学会議 プログラム抄録集 p220 (2016年7月20~23日, 大阪国際会議場, 大阪)
 14. 坂井信裕, 唐川亜希子, 根岸貴子, 高見正道: 抗 RANKL 抗体が妊娠マウスに及ぼす影響: 骨吸収抑制剤デノスマブの薬理作用解明を目的として. 第36回歯科薬物療法学会・総会 (2016年6月18日, 日本歯科大学新潟校, 新潟)
 15. 森澤絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 馬場一美, 上條竜太郎: 毛乳頭とバルジ領域由来の神経堤細胞を用いた骨芽細胞の分化誘導. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウム プログラム・抄録集, 2016 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウム, 東京, 2016年3月12日)
 16. 松永 朗裕, 高見正道, 入江太朗, 美島健二, 稲垣 克記, 上條 竜太郎: 破骨細胞による骨補填材 β -TCP の吸収メカニズム. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウム プログラム・抄録集, 2016 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成27年度シンポジウム, 東京, 2016年3月12日)
 17. 高見正道『破骨細胞と病態の接点~骨吸収抑制剤デノスマブの新たな可能性を含めて~』金沢大学医学系医薬保健研究域セミナー (2016年3月23日、金沢)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

18. 渋谷 勲, 高見正道, 榎本拓哉, 松永朗裕, 中村 茂, 上條竜太郎: 免疫組織学的観点からみた骨巨細胞腫における CD11b 陽性細胞の意義. 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会 抄録集 日整会誌 (J. Jpn. Orthop. Assoc.) 89 (8) pS1668, 2015 (富山国際会議場, 富山)
19. 渋谷 勲, 高見正道, 榎本拓哉, 上條竜太郎, 豊根知明: 骨巨細胞腫細胞培養系におけるゾレドロン酸とデノスマブの作用機序の相違. 第 48 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 抄録集 日整会誌 (J. Jpn. Orthop. Assoc.) 89 (6) pS1379, 2015 (かがわ国際会議場, 高松, 2015 年 7 月 9・10 日)
20. 甲山尚香, 佐藤ゆり絵, 唐川亜希子, 坂井信裕, 古賀貴子, 高見正道: 抗 RANKL 抗体が若齢マウスの骨に及ぼす影響: ゾレドロン酸との比較. 第 132 回 日本薬理学会関東部会 (明海大学, 千葉 2015 年 7 月 4 日)
21. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄、脾臓および血液より分離した破骨前駆細胞の性質. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム プログラム・抄録集, p34, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム, 東京, 2015 年 3 月)
22. 須澤徹夫, 高橋正皓, 小野美樹, 浦野絵里, 高見正道, 山田 篤, 宮本洋一, 馬場一美, 榎 宏太郎, 上條竜太郎: 顎口腔組織の神経堤由来細胞を応用した骨再生法の開発. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム プログラム・抄録集, p57, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム, 東京, 2015 年 3 月)
23. 森澤絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 馬場一美, 上條竜太郎: 毛包由来の神経堤細胞を用いた骨芽細胞分化誘導. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム プログラム・抄録集, p60, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム, 東京, 2015 年 3 月)
24. 秋山智人, 宮本洋一, 吉村健太郎, 山田 篤, 高見正道, 安原理佳, 今村隆寿, 秋山知恵, 星野真理江, 幸田力, 田中和生, 美島健二, 馬場一美, 上條竜太郎: 歯周病原菌毒素プロテアーゼによる炎症性骨破壊. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム プログラム・抄録集, p75, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム, 東京, 2015 年 3 月)
25. 松永朗裕, 高見正道, 稲垣克記, 上條竜太郎: 破骨細胞による象牙質および β -TCP 製人工骨補填剤の吸収. 昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム プログラム・抄録集, p76, 2015 (昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム, 東京, 2015 年 3 月)
26. 高見正道 『破骨細胞の科学』第 67 回昭和大学学士会総会 教育講演 (2015 年 11 月 28 日)
27. 榎本拓哉, 高見正道, 上條竜太郎, 山本松男: 骨髄、脾臓および血液に存在する破骨前駆細胞の解析. (第 317 回昭和大学学士会例会, 東京, 2014 年 6 月)
28. 森澤(浦野)絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 上條竜太郎, 馬場一美: 毛包の神経堤由来細胞を用いた骨芽細胞分化誘導. (第 317 回昭和大学学士会例会, 東京, 2014 年 6 月)
29. 松永朗裕, 高見正道, 上條竜太郎, 稲垣克記: 培養破骨細胞による β -TCP 製人工骨補填剤オスフェリオンの吸収. 第 32 回日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集, p247, 2014 (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月)
30. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄、脾臓、血液中に存在する破骨細胞分化能をもつ細胞の解析. 第 32 回日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集, p257, 2014 (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月)
31. 渋谷 勲, 高見正道, 松本光史, 榎本拓哉, 松永朗裕, 浦野絵里, 上條竜太郎: 骨巨細胞腫細胞に対する Denosumab の効果. 第 32 回日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集, p318, 2014 (第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月) 【三共(株)ニュースレターに紹介】
32. 榎本拓哉, 高見正道, 山本松男, 上條竜太郎: 骨髄、脾臓および血液より分離した破骨前駆細胞の性質. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会プログラム抄録集, p55, 2014 (第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡, 2014 年 9 月) 【優秀ポスター賞受賞】
33. 唐川亜希子, 坂井信裕, 栗谷未来, 高見正道, 諸橋富夫: ワルファリンナトリウム投与ラットの動脈および骨出血に対するヘムコンデンタルドレッシング(R)の止血効果. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会プログラム抄録集, p58, 2014 (第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡, 2014 年 9 月)
34. 松永朗裕, 高見正道, 稲垣克記, 上條竜太郎: 破骨細胞による象牙質および β -TCP 製人工骨補填剤の吸収. 口腔組織培養学会誌, 24 (1) : 3-4, 2014 (第 51 回日本口腔組織培養学会学術大会, 福岡, 2014 年 11 月)
35. 浦野(森澤)絵里, 高見正道, 須澤徹夫, 大隅典子, 馬場一美, 上條竜太郎: 毛包内神経堤由来細胞は骨芽細胞様細胞への分化能を持ち破骨細胞の分化を支持する. 第 37 回日本分子生物学会年会プログラム, p238, 2014 (第 37 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014 年 11 月)
36. 唐川亜希子, 坂井信裕, 栗谷未来, 井澤基樹, 船津敏弘, 井上美津子, 高見正道, 諸橋富夫: ワルファリンナトリウム投与ラットの動脈および骨出血に対するヘムコンデンタルドレッシング (R)の止血効果. 第 37 回日本分子生物学会年会プログラム, p348, 2014 (第 37 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014 年 11 月)
37. 唐川亜希子, 坂井信裕, 諸橋富夫, 高見正道: ワルファリンナトリウム投与ラットの動脈出血および骨出血に

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

対するキトサン含有止血材の効果. 第 61 回昭和大学歯学会総会プログラム抄録集, p45, 2014 (第 61 回昭和大学歯学会総会, 東京, 2014 年 12 月)

38. 松永朗裕, 高見正道, 入江太郎, 美島健二, 上條竜太郎, 稲垣克記: 破骨細胞による β -TCP 製人工骨補填剤の吸収機構. 第 61 回昭和大学歯学会総会プログラム抄録集, p57, 2014 (第 61 回昭和大学歯学会総会, 東京, 2014 年 12 月)
39. 松永朗裕, 高見正道, 山田 篤, 上條竜太郎, 稲垣克記: 骨形成タンパク質 BMP-2,4,6,7 が有する異所性骨形成誘導活性の解析. 第 61 回昭和大学歯学会総会プログラム抄録集, p57, 2014 (第 61 回昭和大学歯学会総会, 東京, 2014 年 12 月)
40. 高見正道: 中部大学応用生物学部応用生物化学科公開セミナー「破骨細胞制御による骨疾患治療の最前線」(中部大学, 春日井市, 2014 年 4 月)
41. 高見正道: 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門公開講座「骨吸収抑制剤と顎骨壊死」(昭和大学, 東京, 2014 年 6 月)
42. 高見正道, 榎本拓哉, 山本松男, 上條竜太郎: 破骨細胞の前駆細胞形成における骨芽細胞と炎症性刺激の役割. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会サテライトシンポジウム プログラム抄録集, p39, 2014 (第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡, 2014 年 9 月)

《プロジェクト 2》

2-1

1. *L Osakabe, B Saito, A Utsumi, T Nakamaki, S Hironaka: Detection of Microbial Substitution in the Oral Cavity of Patients Undergoing Hematopoietic Stem Cell Transplantation with Vitek Mstm : 2017 BMT Tandem Meetings.; Biology of Blood and Marrow Transplantation 23(3):S193-94 Orlando, Florida, USA February 2017
2. 弘中祥司: 筋萎縮性側索硬化症患者に対する多職種連携による経口摂取の試み, 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 27 回 Page274, 2016.6 月徳島
3. 内海 明美, 木ノ内 ひろ子, 路川 環, 山崎 卓磨, 森下 美智子, 佐藤 恭子, 依田 光正, 弘中 祥司 大学病院における嚥下ケアチームの現状と口腔ケアセンター連携への課題, 第 21 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム Page150 2015.9 月京都
4. 中野 学, 森田 優, 石川 健太郎, 大岡 貴史, 若林 裕之, 山内 恒治, 阿部 文明, 弘中 祥司: 抗菌成分ラクトフェリン+ラクトパーオキシダーゼ配合食品の口腔衛生改善効果の検討, 日本歯科衛生学会雑誌 10 巻 1 号 Page121, 2015.9 月札幌
5. 桑澤 実希, 村山 隆夫, 長崎 理佳, 吉田 佳織, 横塚 あゆ子, 久保田 一見, 石川 健太郎, 石崎 晶子, 関谷 弥千, 岡田 征彦, 石川 万里子, 小川 貴正, 椿田 健介, 西内 智紀, 松村 圭祐, 寺澤 真祐美, 丸岡 靖史, 佐藤 裕二, 弘中 祥司: 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院における口腔ケアセンター活動報告(2014 年度), 昭和歯学会雑誌 75 巻 4 号 Page494-495, 2015.9 月東京
6. 大岡 貴史, 弘中 祥司, 向井 美恵: 周術期患者における転帰と口腔衛生状態との関連, 口腔衛生学会雑誌 65 巻 2 号 Page241, 2015.5 月つくば市
7. 村山 隆夫, 八十 篤聡, 吉田 佳織, 横塚 あゆ子, 長崎 理佳, 中村 泰介, 石川 健太郎, 久保田 一見, 石崎 晶子, 石田 圭吾, 鈴木 恵美, 弘中 祥司, 嶋根 俊和, 丸岡 靖史: 当院頭頸部悪性腫瘍治療における口腔ケアのプロトコールとその効果, 昭和歯学会 74 巻 6 号 Page706, 2014.12 月東京
8. 石崎 晶子, 久保田 一見, 柴田 由美, 桑澤 実希, 野村 佳世, 村上 浩史, 小出 洋子, 横塚 あゆ子, 日山 邦枝, 鈴木 恵美, 向井 美恵, 弘中 祥司: 歯科室のない大学附属病院における 5 年間の入院患者への口腔ケアに関する実態, 障害者歯科 35 巻 3 号 Page293, 2014.9 月仙台
9. 大岡 貴史, 弘中 祥司: 口腔保湿剤の除去方法に関する基礎的研究, 障害者歯科 35 巻 3 号 Page562, 2014.9 月仙台
10. 石川 健太郎, 村山 隆夫, 中川 量晴, 久保田 一見, 石崎 晶子, 村上 浩史, 吉田 佳織, 横塚 あゆ子, 向井 美恵, 弘中 祥司: 口腔ケアクリニカルパスを用いた周術期の口腔衛生管理 対象者の口腔内の実態老年歯科医学 29 巻 2 号 Page195-196, 2014.6 月福岡
11. 吉田 佳織, 石川 健太郎, 村山 隆夫, 久保田 一見, 石崎 晶子, 村上 浩史, 横塚 あゆ子, 鈴木 恵美, 弘中 祥司 多職種協働による周術期口腔機能管理 頭頸部悪性腫瘍患者における歯科衛生士の取り組み 老年歯科医学 29 巻 2 号 Page224, 2014.6 月福岡
12. 大岡 貴史, 森田 優, 高城 大輔, 渡邊 賢礼, 内海 明美, 久保田 一見, 弘中 祥司, 向井 美恵: 周術期における口腔衛生状態の問題と病原微生物叢の変化, 口腔衛生学会雑誌 64 巻 2 号 Page234, 2014.5 月熊本
13. 石川 健太郎, 内海 明美, 久保田 一見, 石崎 晶子, 石田 圭吾, 中川 量晴, 向井 美恵, 弘中 祥司: 周術期口腔機能管理の保険導入による大学病院口腔ケアセンターの活動の変化, 口腔衛生学会雑誌 64 巻 2 号 Page234, 2014. 5 月熊本
14. 遠藤 由美子, 大岡 貴史, 弘中 祥司, 杉山 智美, 松橋 一彦, 阿部 祥英, 田角 勝, 向井 美恵, 井上 美津子: 小児における呼吸器疾患患者の口腔内病原微生物の検討, 小児歯科学雑誌 52 巻 2 号 Page301, 2014.5 月東京

2-2

1. 鈴木 由香, 守谷 恵未, 角 保徳, 岩渕 博史: 口腔ケアジェルを用いた ADL 低下高齢者の専門的口腔ケアの評価 (第 70 回国立病院総合医学会, 宜野湾市, 2016 年 11 月 11 日)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

2. 角 保徳:超高齢社会の到来と歯科医療のパラダイムシフト (第 23 回 日本歯科医学会総会 ランチョンセミナー,福岡市 2016 年 10 月 23 日)
 3. 角 保徳:「お口を洗うジェル」で水を使わない口腔ケア (日本デンタルショー2016 福岡 2016 年 10 月 22 日)
 4. 角 保徳:超高齢社会の到来と歯科医療の将来展望 (日本歯科保存学会 2016 年度秋季学術大会(第 145 回) 特別講演,松本市,2016 年 10 月 27 日)
 5. 守谷恵未,角 保徳:口腔ケア時の誤嚥予防を考慮した「水を使わない口腔ケア」～誤嚥が心配な患者さんへの対応～.ランチョンセミナー (第 22 回摂食嚥下リハビリテーション学会.新潟市,2016 年 9 月 23 日)
 6. 守谷 恵未, 松山 美和,小笠原 正, 松尾 浩一郎, 道脇 幸博, 岩渕 博史, 角 保徳:口腔ケア時の誤嚥予防の試み ―口腔ケア用ジェルの新規開発 物性評価― (第 22 回摂食嚥下リハビリテーション学会,新潟市,2016 年 9 月 23 日)
 7. 木下 絵里加, 松尾 浩一郎, 松木 里沙, 鈴木 瞳, 渡邊 理沙, 坂本 仁美, 藤田 未来, 守谷 恵未, 大野 友久, 角 保徳:口腔ケア用ジェルと持続的吸引手技を使用した口腔ケアと口腔内細菌数との関連性 (日本歯科衛生学会 第 11 回学術大会,広島市,2016 年 9 月 18 日)
 8. 松木 里沙, 松尾 浩一郎, 木下 絵里加, 渡邊 理沙, 鈴木 瞳, 藤田 未来, 中田 悠, 守谷 恵未, 大野 友久, 角 保徳:急性期病院における経口摂取の有無と口腔衛生状態との関連性 (日本歯科衛生学会 第 11 回学術大会,広島市,2016 年 9 月 18 日)
 9. 角 保徳:口腔管理の実際 1 専門的口腔ケアの標準化『水を使わない口腔ケア』の考え方 ハンズオンセミナー 1 (第 27 回日本老年歯科医学会学術大会,徳島市,2016 年 6 月 18 日)
 10. 梶原 美恵子, 松山 美和, 守谷 恵未, 松尾 貴央, 大野 友久, 角 保徳:経管栄養高齢患者に対する口腔ケア用ジェルと吸引嘴管を使用した専門的口腔ケアによる口腔細菌数の変化. (第 27 回日本老年歯科医学会学術大会,徳島市,2016 年 6 月 18 日)
 11. 角 保徳:認知症ケアと口腔ケアの接点―誰でもできる口腔ケア手技と専門的口腔ケア手技― (第 17 回日本認知症ケア学会大会 特別講演,神戸市,2016 年 6 月 5 日)
 12. 角 保徳:超高齢社会の歯科医療を展望する (第 32 回東北矯正歯科学会大会 特別講演,盛岡市,2016 年 5 月 15 日)
 13. 藤田恵未,角 保徳:お口の汚れを軟化させてからめとる『お口を洗うジェル』 (第 39 回中部日本デンタルショー 東海歯科用品商協同組合企画講演,名古屋市,2016 年 2 月 20 日)
- 2-3
1. 佐々木康綱 シンポジウム 16: 本邦における口腔支持療法のこれから: 本邦における口腔支持療法の現状と課題 (第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2016 年 7 月)
- 2-4
1. *刑部月、内海明美、齋藤文護、弘中祥司、中牧剛 : VITEK MSTM で同定した造血幹細胞移植前後の口腔内細菌叢の変化と口腔粘膜障害の関連. 第 39 回日本造血細胞移植学会総会 (島根、2017.年 3 月)
 2. Nana Arai, Bungo Saito, Maasa Abe, Megumi Watanuki, So Murai, Yuta Baba, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Nobuyuki Kabasawa, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Mayumi Homma, Eisuke Shiozawa, Toshiko Yamochi, Masafumi Takimoto, Hiroshi Harada, and Tsuyoshi Nakamaki : Immunohistochemical Expression of CD123 Is Associated with an Inferior Clinical Outcome in Acute Myeloid Leukemia. (58th ASH Annual Meeting .Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
 3. Yukiko Kawaguchi, Bungo Saito, Maasa Abe, Yuta Baba, Sou Murai,, Megumi Watanuki, Nana Arai, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, and Tsuyoshi Nakamaki : Soluble Interleukin-2 Receptor and C-Reactive Protein Levels Are Associated with the Efficacy of Bendamustine As a Salvage Treatment for Indolent Lymphoma. (58th ASH Annual Meeting .Dec 3-6,2016 San Diego, CA)
 4. Murai S, Hattori N, Baba Y, Abe M, Watanuki M, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Arai N, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Yanagisawa K, Saito B, Harada H, Nakamaki T : Effectiveness of mogamulizumab treatment for refractory CD8 positive PTCL-NOS. 第 78 回日本血液学会学術集会(横浜、2016 年 10 月)
 5. Baba Y, Hattori N, Murai S, Abe M, Watanuki M, Kawaguchi Y, Fujiwara S, Arai N, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Yanagisawa K, Saito B, Harada H, Nakamaki T : Lenalidomide reduces MDS clone with 17p deletion. 第 78 回日本血液学会学術集会(横浜、2016 年 10 月)
 6. Nobuyuki Kabasawa, Bungo Saito, Maasa Abe, So Murai, Yuta Baba, Megumi Watanuki, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Shun Fujiwara, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotsugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Tsuyoshi Nakamaki : Primary cardiac anaplastic large cell lymphoma, ALK-positive. 第 78 回日本血液学会学術集会(横浜、2016 年 10 月)
 7. Hiroyuki Tsukamoto, Yosaku Watatani, Henichi Yoshida, Yuka Yamashita, Hiroko Tanaka, Kenichi Chiba, Yuichi Shiraisi, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Norimichi Hattori, Hideki Makishima, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Tsuyoshi Nakamaki, Masashi Sanada : Clonal dynamics in acquisition of resistance to HMA in a case with MDS harboring TP53 mutation. 第 78 回日本血液学会学術集会(横浜、2016 年 10 月)
 8. Bungo Saito, Hidetoshi Nakashima, Maasa Abe, Megumi Watanuki, Yuta Baba, So Murai, Shun Fujiwara, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotsugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa,

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, Tsuyoshi Nakamaki : Single-dose palonosetron for prevention of CHOP induced nausea and vomiting: a phase II study. 第 78 回日本血液学会学術集会 (横浜、2016 年 10 月)

9. 中牧剛、川口有紀子、蒲澤宣幸、荒井奈々、柳沢孝次、服部憲路、齋藤文護 : 手先指の壊疽性循環障害に副腎皮質ステロイドが著効した寒冷凝集素症の 1 例. 第 5 回日本血液学会関東甲信越地方会(新潟、2016 年 7 月)
10. Tsuyoshi Nakamaki, Nobuyuki Kabasawa, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Bungo Saito : Successful Treatment with Mogamulizumab Monotherapy for Elderly Patient with Relapsed Peripheral T-cell Lymphoma. The 7th JSH International Symposium (淡路、2016 年 5 月)
11. 齋藤文護、柳沢孝次、山本晃平、荒井奈々、川口有紀子、藤原峻、蒲澤宣幸、塚本裕之、宇藤唯、有泉裕嗣、服部憲路、中牧剛 : 臍帯血移植における tacrolimus と very-short-term methotrexate による GVHD 予防.(第 38 回日本造血細胞移植学会総会(名古屋、2016 年 3 月)
12. 齋藤文護 : 造血幹細胞移植の概要と血液内科医の立場から薬剤師に期待すること. 第 25 回日本医療薬学会年会(横浜、2015 年 11 月)
13. 馬場勇太、服部憲路、川口有紀子、村井聡、阿部真麻、綿貫めぐみ、藤原峻、荒井奈々、蒲澤宣幸、塚本浩之、宇藤唯、有泉裕嗣、柳沢孝次、齋藤文護、原田浩史、中牧剛 : VR-CAP 療法が奏功した再発難治性マントル細胞リンパ腫(MCL)の症例. 第 49 回老年者造血器疾患研究会(東京、2015 年 7 月)
14. Hirotsugu Ariizumi, Hiraku Mori, Hiroshi Harada, Bungo Saito, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Akiko Sakashita, Tsuyoshi Nakamaki : Non-inferiority of vindesine vs vincristine R-CHOP in propensity score-modified retrospective study. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015 年 10 月)
15. Shun Fujiwara, Norimichi Hattori, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotsugu Ariizumi, Bungo Saito, Kouji Yanagisawa, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : Analyses of IgM-monoclonal gammopathy. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015 年 10 月)
16. Nana Arai, Bungo Saito, Kohei Yamamoto, Sun Fujiwara, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotsugu Ariizumi, Norimichi Hattori, Kouji Yanagisawa, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : Successful treatment with ACES regimen of relapsed HIV-negative plasmablastic lymphoma. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015 年 10 月)
17. Yui Uto, Shun Fujiwara, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Nobuyuki Kabasawa, Hiroyuki Tsukamoto, Hirotsugu Ariizumi, Norimichi Hattori, Bungo Saito, Kouji Yanagisawa, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Eisuke Shiozawa, Tsuyoshi Nakamaki : Age and BM cellularity are associated with response to eltrombopag in Japanese adult ITP patients. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015 年 10 月)
18. Nobuyuki Kabasawa, Bungo Saito, Yukiko Kawaguchi, Nana Arai, Shun Fujiwara, Kohei Yamamoto, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Hirotsugu Ariizumi, Kouji Yanagisawa, Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : A case of senile EBV associated B-LPD developed DLBCL after ten years follow up. 第 77 回日本血液学会学術集会(金沢、2015 年 10 月)
19. 綿貫めぐみ、服部憲路、山本晃平、蒲澤宣幸、川口有紀子、藤原峻、柳沢孝次、齋藤文護、中牧剛 : アドセトリス投与が奏効した血球貪食症候群合併の ALK 陰性未分化大細胞型リンパ腫の症例. 第 3 回日本血液学会関東甲信越地方会(つくば、2015 年 7 月)
20. Bungo Saito, Hiroyuki Tsukamoto, Yui Uto, Nana Arai, Yukiko Kawaguchi, Shun Fujiwara, Nobuyuki Kabasawa, Kouji Yanagisawa, Ariizumi Hirotsugu, Norimichi Hattori, Hiroshi Harada, Hiraku Mori, Tsuyoshi Nakamaki : The Peripheral Blood WTI mRNA Expression Predicts Early Achievement of Hematological Improvement in Myelodysplastic Syndrome Patients Treated with Azacitidine. The 6th JSH International Symposium (軽井沢、2015 年 5 月)
21. 蒲澤宣幸、齋藤文護、川口有紀子、荒井奈々、藤原峻、塚本裕之、宇藤唯、有泉裕嗣、柳沢孝次、服部憲路、原田浩史、森啓、中牧剛 : 高齢者の難治性 PTCL に少量 busulfan を用いた前処置による臍帯血移植が奏効した 1 例.(第 2 回日本血液学会関東甲信越地方会(東京、2015 年 3 月)
22. Hattori N, Fukuchi K, Yamochi T, Fujiwara S, Kawaguchi Y, Arai N, Kabasawa N, Tsukamoto H, Uto Y, Ariizumi H, Saito B, Yanagisawa K, Harada H, Takimoto M, Mori H, Nakamaki T : T-LBL 由来の新たな 2 つのサブクローン (SY0806 と SY0810) の異なる特徴.(第 76 回日本血液学会学術集会, 大阪,2014 年 10 月)
23. Uto Yui, Arai Nana, Kawaguchi Yukiko, Fujiwara Shun, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Ariizumi Hirotsugu, Nakashima Hidetoshi, Hattori Norimichi, Saito Bungo, Yanagisawa Kouji, Harada Hiroshi, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : 免疫性血小板減少症患者(ITP)における骨髓線維症.(第 76 回日本血液学会学術集会, 大阪,2014 年 10 月)
24. Fujiwara Shun, Hattori Norimichi, Kawaguchi Yukiko, Arai Nana, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Uto Yui, Saito Bungo, Yanagisawa Kouji, Harada Hiroshi, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : 再発性/治療抵抗性有毛細胞白血病日本型に対する bendamustine・rituximab 併用療法(第 76 回日本血液学会学術集会, 大阪,2014 年 10 月)
25. Harada Hiroshi, Arai Nana, Kawaguchi Yukiko, Fujiwara Shun, Kabasawa Nobuyuki, Tsukamoto Hiroyuki, Uto Yui, Ariizumi Hirotsugu, Nakashima Hidetoshi, Hattori Kenji, Yanagisawa Kouji, Saito Bungo, Mori Hiraku, Nakamaki Tsuyoshi : 再発ワルデンストレームマクログロブリン血症に対する bendamustine の有効性(第 76 回日本血液学会学術集会, 大阪,2014 年 10 月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

26. 中牧 剛, 宇藤 唯, 荒井 奈々, 川口 有紀子, 藤原 峻, 塚本 裕之, 有泉 裕嗣, 服部 憲路, 中嶋 秀人詞, 柳沢 孝次, 齋藤 文護, 原田 浩史, 森 啓: Nilotinib 投与後に顕著な骨髓低形成を合併した慢性骨髄性白血病の 1 例.(第 1 回日本血液学会関東甲信越地方会, 埼玉,2014 年 4 月)
- 2-5
1. Horii N, Hasegawa Y, Sugahara K, Sakuramoto A, Saito S, Nanto T, Nakao Y, Kishimoto H: Reliability of the Dysphagia Test Following Resection for Head-Neck Cancer. (95th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Los Angeles, March 2017)
 2. Sadakane A, Hasegawa Y, Kishimoto H: Preference for taste change the cerebral blood flow by chewing. (95th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Los Angeles, March 2017)
 3. 岸本裕充: がんの手術・化学療法におけるオーラルマネジメントの意義と実際. (第 26 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 金沢, 2017 年 3 月)
 4. Tamaoka J, Takaoka K, Ueta M, Araki H, Noguchi K, Kishimoto H: The Effect of TGF-β1 on osteoclast precursors in the bone microenvironment. (23rd Congress of the European Association for Cranio Maxillo-Facial Surgery, London, September 2016)
 5. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) の最新の話題. (第 29 回日本外科感染症学会総会・学術大会, 東京, 2016 年 12 月)
 6. 岸本裕充: 食道癌の術後肺炎を予防するための周術期オーラルマネジメント. (第 29 回日本外科感染症学会総会・学術大会, 東京, 2016 年 11 月)
 7. 岸本裕充: 化学療法を受ける患者に対するオーラルマネジメント～MRONJ 予防も含めて. (第 61 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016 年 11 月)
 8. 岸本裕充, 首藤敦史, 川邊睦記, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬: 当科における薬剤関連顎骨壊死 Stage3 に対する治療法の検討 (第 61 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2016 年 11 月)
 9. 岸本裕充: 骨吸収抑制薬を使用中の患者への対応の実際. (日本有病者歯科医療学会 第 6 回学術教育セミナー, 東京, 2016 年 11 月)
 10. 岸本裕充: 人工呼吸器関連肺炎予防のための口腔ケアのポイント. (第 18 回日本救急看護学会学術集会, 千葉, 2016 年 10 月)
 11. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死に対するオーラルマネジメント. (第 23 回日本歯科医学会総会, 福岡, 2016 年 10 月)
 12. 岸本裕充: 周術期の合併症を予防するためのオーラルマネジメント. (第 54 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2016 年 10 月)
 13. 岸本裕充: 気管挿管患者に対する標準的な口腔ケア. (第 25 回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 神戸, 2016 年 10 月)
 14. 岸本裕充: 口腔と全身との関わり～口腔ケア・オーラルマネジメントの効果～. (第 457 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2016 年 10 月)
 15. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死への対応の最近の動向. (第 18 回日本骨粗鬆症学会, 仙台, 2016 年 10 月)
 16. 岸本裕充: 口腔インプラント治療における周術期全身管理. (第 46 回日本口腔インプラント学会・学術大会, 名古屋, 2016 年 9 月)
 17. 岸本裕充: 骨吸収抑制薬を使用中の患者に対する歯科治療 ～インプラントも含めて～. (第 46 回日本口腔インプラント学会・学術大会, 名古屋, 2016 年 9 月)
 18. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) に関する最新情報. (第 14 回日本臨床腫瘍学会学術大会, 神戸, 2016 年 7 月)
 19. 岸本裕充: VAP 予防のための最新の口腔ケア. (第 61 回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪, 2016 年 7 月)
 20. 岸本裕充: わが国における薬剤関連顎骨壊死の現状と最新の対応策. (日本口腔感染症学会スプリングカンファレンス in 東京 2016, 東京, 2016 年 5 月)
 21. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)に対する保存療法. (第 13 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 千葉, 2016 年 4 月)
 22. 岸本裕充: VAP を予防するための口腔ケア・オーラルマネジメント -Q・Care を使いこなす-. (第 43 回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016 年 2 月)
 23. 門井謙典, 岸本裕充, 木崎久美子, 藁田希世和, 岡崎理絵, 坂田寛之, 宮脇淳志, 小谷穰治: 人工呼吸器関連肺炎の予防を目的とした経口挿管患者に対するディスプレイブル口腔ケアキットの有用性. (第 43 回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016 年 2 月)
 24. 岸本裕充: 経口気管挿管患者に対する口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 43 回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016 年 2 月)
 25. 岸本裕充: NHCAP の予防・治療のための口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 39 回日本嚥下医学会学術講演会, 大阪, 2016 年 2 月)
 26. Fujiwara M, Yasuda E, Honda K, Hasegawa Y, Matsumura E, Kishimoto H: Prevalence of temporomandibular disorders among junior high school students who play wind instruments. (4th Asian Academic Congress for Temporomandibular Joint, Manila, November 2015)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

27. Noguchi K, Kishimoto H, Hashimoto-Tamaoki T, Nakano Y: In vitro differentiation of cells from keratinocytic odontogenic tumor. (Developmental Cell conference Embo Meeting, Birmingham, September 2015)
28. Takaoka J, Takaoka K, Nishida M, Araki H, Noguchi K, Kishimoto H: Effect of TGF- β 1 on osteoclast precursors in the bone microenvironment. (IADR ANZ Division 55th Annual Scientific Meeting, Dunedin, August 2015)
29. Moridera K, Noguchi K, Takaoka K, Kawabe M, Kishimoto H: Retrospective clinical analysis of salivary gland carcinoma. 第 39 回日本頭頸部癌学会・4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology, Kobe, June 2015)
30. 岸本裕充, 坂本 春生, 金子 明寛: 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン 歯科口腔外科領域. (第 24 回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2015 年 11 月)
31. 川邊睦記, 首藤敦史, 森寺邦康, 河田尚子, 藤原正識, 門井謙典, 野口一馬, 岸本裕充: 近畿の歯科口腔外科施設を対象とした予防抗菌薬投与の使用に関するアンケート調査. (第 24 回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 横浜, 2015 年 11 月)
32. 岡崎史枝, 森寺邦康, 首藤敦史, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: ベバシズマブとデノスマブに関連して顎骨壊死を生じた 1 例. (第 27 回日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2015 年 11 月)
33. 岸本裕充: 口腔外科専門医だからこそその周術期オーラルマネジメント. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
34. 岸本裕充, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬: 口腔乾燥症に対するオーラルマネジメント. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
35. 山村倫世, 高岡一樹, 川邊睦記, 荒木華子, 玉岡丈二, 野口一馬, 岸本裕充: 骨微小環境における TGF- β の破骨前駆細胞への影響. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
36. 首藤敦史, 岸本裕充, 川邊睦記, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬: 下顎骨切除の回避を目的とした Stage3 薬剤関連顎骨壊死に対する治療的休業. (第 60 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015 年 10 月)
37. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死の予防と治療を再考する. (第 45 回日本口腔インプラント学会・学術大会, 岡山, 2015 年 9 月)
38. 岸本裕充: 周術期・高齢期のオーラルマネジメント. (日本補綴歯科学会九州支部 生涯学習公開セミナー, 北九州, 2015 年 8 月)
39. 岸本裕充: 周術期オーラルマネジメントの実際. (日本口腔外科学会 第 44 回教育研修会(2015 年口腔四学会合同研修会), 京都, 2015 年 7 月)
40. 岸本裕充: VAP 予防のための効果的な口腔ケア. (第 37 回日本呼吸療法医学会学術集会, 京都, 2015 年 7 月)
41. 岸本裕充: 口腔機能管理による合併症予防のポイント (第 12 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 下関, 2015 年 6 月)
42. 岸本裕充: 緩和医療におけるオーラルマネジメント - 口腔のバイタルサインを意識する -. (第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2015 年 6 月)
43. 岸本裕充: 薬剤誘発性顎骨壊死の最新情報. (日本口腔外科学会 第 92 回歯科臨床医リフレッシュセミナー, 西宮, 2015 年 6 月)
44. 岸本裕充: 口腔の清浄性を高めるためのオーラルマネジメント. (第 15 回日本抗加齢医学会総会, 福岡, 2015 年 5 月)
45. 岸本裕充: MRONJ に対するシタフロキサシンの有効性について. (日本口腔感染症学会スプリングカンファレンス in 神戸 2015, 神戸, 2015 年 5 月)
46. 岸本裕充: 兵庫医科大学病院歯科口腔外科における卒後臨床研修プログラム オーラルマネジメントの修得と実践. (第 69 回日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015 年 5 月)
47. 岸本裕充: 薬剤関連顎骨壊死の予防・治療における臨床的課題. (第 69 回日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015 年 5 月)
48. 岸本裕充: 誤嚥性肺炎に対する口腔ケア・オーラルマネジメント. (第 55 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015 年 4 月)
49. 岸本裕充: 周術期オーラルマネジメントの実際. (日本口腔外科学会 第 43 回教育研修会(2015 年口腔四学会合同研修会), 京都, 2015 年 3 月)
50. Takaoka K, Yamamura M, Nishioka T, Abe T, Segawa E, Noguchi K, Urade M, Kishimoto H: Bisphosphonates-related osteonecrosis of the jaws using Spontaneously Diabetic Torii rats. (AAOMS 96th Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition, Honolulu, September 2014)
51. Kawabe M, Urade M, Noguchi K, Takaoka K, Zushi Y, Yoshikawa K, Kishimoto H: IL-34 plays a role for differentiation of osteoclasts in inflammatory bone destruction of alveolar bone. (AAOMS 96th Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition, Honolulu, September 2014)
52. 首藤敦史, 岸本裕充, 野口一馬, 大西正信, 石田佳毅, 小林正樹, 藤原成祥, 李 進彰, 安田真也, 末松基生, 北村龍二, 河合峰雄, 網野かよ子, 薬師寺 登, 赤澤 登, 柳澤高道, 谷垣信吾, 古土井春吾, 古森孝英, 足立了平: 兵庫県病院歯科における BRONJ アンケート調査. (第 26 回日本口腔科学会近畿地方部会, 京都, 2014 年 12 月)
53. 頭司雄介, 首藤敦史, 川邊睦記, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 当科における経口ビスフォスフォネート薬関連顎骨壊死の臨床的検討. (第 26 回日本口腔科学会近畿地方部会, 京都, 2014 年 12 月)

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

54. 櫻本亜弓, 首藤敦史, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 特異な骨吸収像を呈した下顎骨骨髓炎の1例。(第26回日本口腔科学会近畿地方部会, 京都, 2014年12月)
55. 岸本裕充: 術前のオーラルマネジメントでVAPを予防する。(第27回日本外科感染症学会総会・学術大会, 東京, 2014年12月)
56. 岸本裕充: 周術期のオーラルマネジメント・口腔ケアで医科歯科連携を深めよう。(第56回長崎県歯科医学大会, 島原, 2014年11月)
57. 藤原正識, 野口一馬, 長谷川陽子, 岸本裕充: 介護老人保健施設入所中にビスフォスフォネート関連顎骨壊死を生じた1例。(第31回日本障害者歯科学会学術大会, 仙台, 2014年11月)
58. 岸本裕充: がん治療・災害時の口腔ケア・オーラルマネジメント。(第5回愛媛県歯科医学大会, 松山, 2014年11月)
59. 河田尚子, 蔵下 舞, 川邊睦記, 首藤敦史, 藤原正識, 森寺邦康, 野口一馬, 岸本裕充: HLA 半合致移植患者に対するオーラルマネジメントによる口腔粘膜障害の予防。(第23回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 伊丹, 2014年10月)
60. 首藤敦史, 岸本裕充, 野口一馬, 大西正信, 石田佳毅, 小林正樹, 藤原成祥, 李 進彰, 安田真也, 末松基生, 北村龍二, 河合峰雄, 網野かよ子, 薬師寺 登, 赤澤 登, 柳澤高道, 谷垣信吾, 古土井春吾, 古森孝英, 足立了平: 兵庫県病院歯科における薬剤誘発性顎骨壊死患者の臨床統計。(第23回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 伊丹, 2014年10月)
61. 岸本裕充: がん化学療法を受ける患者に対するオーラルマネジメント。(第59回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014年10月)
62. 岸本裕充: 口腔外科専門医だからこそその周術期オーラルマネジメント。(第59回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014年10月)
63. 川邊睦記, 吉川恭平, 首藤敦史, 山村倫世, 頭司雄介, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 歯槽骨の炎症性骨吸収における新規サイトカインIL-34の関与。(第59回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014年10月)
64. 高岡一樹, 西岡稔浩, 阿部徹也, 山村倫世, 瀬川英美, 野口一馬, 浦出雅裕, 岸本裕充: 自然発症2型糖尿病ラットにおけるビスフォスフォネート関連顎骨壊死。(第59回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014年10月)
65. 岸本裕充: 周術期の口腔ケア・オーラルマネジメント。(第28回日本手術看護学会年次大会, 福岡, 2014年10月)
66. 岸本裕充: 口腔外科の立場から: 薬剤誘発性顎骨壊死(DIONJ)に対するオーラルマネジメント。(第11回日本乳癌学会中部地方会, 岐阜, 2014年9月)
67. 頭司雄介, 川邊睦記, 首藤敦史, 岸本裕充: 当科における経口ビスホスホネート薬による顎骨壊死(BRONJ)の臨床的検討-抜歯を避ければBRONJにならない?- (第30回兵庫県歯科医学大会, 神戸, 2014年7月)
68. 岸本裕充: 人工呼吸器関連肺炎を予防するための口腔ケア Q・Care を使いこなす (第11回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 旭川, 2014年6月)
69. 岸本裕充: ICUで経口気管挿管中の患者に対する口腔ケアの方法 (第11回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 旭川, 2014年6月)
70. 岸本裕充: 手術後合併症を低減するための周術期のオーラルマネジメント。(第34回日本歯科薬物療法学会総会・学術大会, 大阪, 2014年6月)
71. 頭司雄介, 森寺邦康, 高岡一樹, 野口一馬, 岸本裕充: 広範囲の下顎骨壊死を契機に確定診断に至った AIDS患者の1例。(第45回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 奈良, 2014年6月)
72. 岸本裕充: 周術期をオーラルマネジメント“CREATE”で考える。(日本口腔感染症学会スプリングカンファレンス in 東京 2014, 東京, 2014年5月)
73. 山村倫世, 高岡一樹, 吉川恭平, 首藤敦史, 頭司雄介, 森寺邦康, 野口一馬, 岸本裕充: 広範なビスフォスフォネート関連上顎骨壊死に対して顎骨再建および顎義歯により口腔機能回復を行った1例。(第68回日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014年5月)
74. 岸本裕充: 人工呼吸器関連肺炎を予防するための口腔ケアキット Q・Care の使用法。(第68回日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014年5月)
- 2-6
1. 池谷賢二, 岩佐文則, 福西美弥, 井上祐貴, 塚原明弘, 石原一彦, 馬場一美: MPCポリマーを用いたデンチャーブラック付着抑制の臨床評価(第125回日本補綴歯科学会学術大会, 金沢, 2016年7月)
2. Hara M, Furuyama F, Higuchi D, Yokoyama S, Matsumoto T, Mukawa K, Baba K: Treatment Outcome of implant Denture in Partially Edentulous Patients-Impact of the Location of Prosthodontic Treatment on Oral Health-related Quality of Life Profile. (31th Academy of Osseointegration, San Diego, 2016年2月)
3. 池谷賢二, 岩佐文則, 福西美弥, 高橋那奈, 塚原明弘, 馬場一美: MPCポリマーを用いたデンチャーブラック付着抑制の臨床評価(第62回昭和大学学士会総会, 東京, 2015年11月)
4. Fukunishi M, Iwasa F, Inoue Y, Morisaki H, Ikeya K, Yakahashi N, Ishihara K, Kuwata H, Baba K: MPC polymer coating inhibits bacterial plaque on PMMA surface. (The 63rd Annual Meeting of Japanese Association for Dental

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

Research, Fukuoka, 2015 年 10 月)

5. Ikeya K, Iwasa F, Fukunishi M, Takahashi N, Tukahara A, Inoue Y, Ishihara K, Baba K :Inhibition of denture plaque by MPC polymer coating. (16th Biennial Meeting of the International College of Prosthodontists, Seoul, 2015 年 9 月)
 6. 横山紗和子, 吉田裕哉, 福西美弥, 原真央子, 馬場一美 :磁性アタッチメントを用いた下顎インプラントオーバーデンチャー(2-IOD)に対する即時負荷の有用性(第 45 回 公益社団法人日本口腔インプラント学会 学術集会, 岡山, 2015 年 9 月)
 7. 福西美弥, 岩佐文則, 森崎弘史, 池谷賢二, 高橋那奈, 桑田啓貴, 鈴木 満, 馬場一美 :MPC ポリマーによる PMMA 表面上のバイオフィーム抑制効果(第 322 回昭和大学学術大会, 東京, 2015 年 6 月)
 8. 西山弘崇, 塚崎弘明, 田中晋平, 樋口大輔, 館慶太, 浦野慎二郎, 武川佳世, 馬場一美 :患者立脚型アウトカムを用いたジルコニア床義歯の臨床評価(第 322 回昭和大学学術大会, 東京, 2015 年 6 月)
 9. 西山弘崇, 塚崎弘明, 田中晋平, 樋口大輔, 小林茉莉, 館慶太, 浦野慎二郎, 久松賢, 武川佳世, 根本怜奈, 須川洋一, 三浦宏之, 馬場一美 :患者立脚型アウトカムを用いたジルコニア床義歯の臨床評価. (日本補綴歯科学会 第 124 回学術大会, 大宮, 2015 年 5 月)
 10. 西山弘崇, 塚崎弘明, 田中晋平, 樋口大輔, 小林茉莉, 館慶太, 浦野慎二郎, 久松賢, 武川佳世, 根本怜奈, 三浦宏之, 馬場一美 :患者立脚型アウトカムを用いたジルコニア床義歯の臨床評価. (第 6 回日本デジタル歯科学会, 福岡, 2015 年 4 月)
 11. Fukunishi M, Iwasa F, Inoue Y, Morisaki H, Ikeya K, Takahashi N, Ishihara K, Kuwata H, Baba K :MPC polymer coating inhibits bacterial plaque on PMMA surface.(2015 Biennial joint congress of JPS-CPS-KAP, 箱根, 2015 年 4 月)
 12. Fukunishi M, Takahashi N, Iwasa F, Morisaki H, Inoue Y, Ikeya K, Ishihara K, Kuwata H, Baba K :PMBPAz Coating on PMMA Surface to Inhibit Bacterial Plaque Accumulation. (International Association for Dental Research 93RD GENERAL SESSION & EXHIBITION OF THE IADR, Boston, 2015 年 3 月)
 13. Fukunishi M, Morisaki H, Inoue Y, Iwasa F, Takahashi N, Ikeya K, Ishihara K, Kuwata H, Baba K :PMBPAz coating on PMMA surface to inhibit bacterial plaque accumulation.(第 88 回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015 年 3 月)
 14. Fukunishi M, Takahashi N, Iwasa F, Morisaki H, Inoue Y, Ikeya K, Ishihara K, Kuwata H, Baba K : PMBPAz coating on PMMA surface to inhibit bacterial plaque accumulation.(The 62nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, 大阪, 2014 年 12 月)
 15. Fukunishi M, Takahashi N, Iwasa F, Morisaki H, Inoue Y, Ikeya K, Ishihara K, Kuwata H, Baba K :Inhibition of plaque accumulation on PMMA denture surface by MPC polymer coating.(Indonesian Prosthodontic Society and Japan Prosthodontic Society Joint Meeting, Bali, 2014 年 10 月)
 16. 石田和弘, 樋口大輔, 西山弘崇, 馬場一美 :アクリリックレジン床義歯のハイブリッド化. ノンクラスプパーツを組み込む義歯製作法. (日本補綴歯科学会 第 123 回学術大会, 仙台, 2014 年 5 月)
 17. 西山弘崇, 浦野慎二郎, 小林茉莉, 塚崎弘明, 馬淵あずさ, 樋口大輔, 田中晋平, 久松賢, 石田和弘, 馬場一美 :ジルコニア・デンチャーへの樹脂クラスプの応用. (第 5 回日本デジタル歯科学会学術大会, 大阪, 2014 年 4 月)
- 2-7
1. Koutaro Maki : Panel session: Consideration from Refractory Case (The 11th Congress of Asian Pacific Craniofacial Association, Nara, Japan, December, 3, 2016)
 2. 榎宏太郎 : モデレーター : 上顎犬歯による前歯部歯根吸収症例の診断と対応 (東京矯正歯科学会秋季セミナー, ベルサール飯田橋ファースト, 2016 年 11 月 17 日)
 3. 榎宏太郎 : (特別講演) 矯正治療の意義と未来 (第 59 回中・四国矯正歯科学会, 高知, 2016 年 7 月 7 日)
 4. 榎宏太郎 : (シンポジウム講演) 先端技術の歯科医療への応用と展望. 矯正治療における CBCT, CAD/CAM, ロボット, FEM の応用. 第 74 回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, p94 (第 74 回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2015 年 11 月 19 日)
 5. 榎宏太郎 : (特別講演) どうする? バイオメカニクス. (第 23 回顎顔面バイオメカニクス学会, 福岡, 2015 年 11 月 17 日)
 6. 榎宏太郎 : (教育講演) 外科矯正における矯正診断の基本とシミュレーション技術. (第 33 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集, 宝塚, 2015 年 11 月 13 日)
 7. Maki K:(invited Speaker)Future of computer assisted technology in orthodontics.(8th International Orthodontic Congress, London, September.28th.2015)
 8. Maki K : (招待講演)Topic of research : Advanced technology in orthodontic including follows.(Taiwan International Orthodontic Forum 2014, Taipei, Nov.2014)
 9. 榎宏太郎 : (シンポジウム I 講演) 呼吸と顎顔面形態形成のバイオメカニクス. (第 52 回日本小児歯科学会大会, 東京, 2014 年 5 月)
 10. 榎宏太郎 : (講演) (技術活用セミナー 4) 歯科領域「歯科領域におけるコーンビーム CT の応用」. (第 70 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2014 年 4 月)
- 2-8
1. 高橋浩二 : 口腔癌治療後構音障害と嚥下障害の対応—大学専門診療科の取り組み—. (第 68 回日本口腔科学会学術集会, 東京, 2014 年 5 月)
 2. 高橋浩二 : 大学専門診療科における頭頸部癌治療後嚥下障害リハビリテーションの展開. (第 38 回日本頭頸部

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

<p>癌学会学術集会，東京，2014年6月)</p> <p>3. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食・嚥下の基礎知識 (摂食・嚥下機能支援推進事業評価医及びリハビリチーム養成研修，東京，2014年10月)</p> <p>4. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食・嚥下障害の治療法。(がん研有明病院看護部研修会，東京，2014年10月)</p> <p>5. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食・嚥下の評価。(公益社団法人日本歯科衛生士会平成26年度認定歯科衛生士セミナー，東京，2014年11月)</p> <p>6. <u>高橋浩二</u>：(講演) スクリーニング検査と精密検査—頸部聴診法を中心に—。(第10回長野摂食・嚥下リハビリテーション研究会，長野，2014年12月) <u>高橋浩二</u>：上顎切除後の顎義歯の効果。(6回日本頭頸部癌学会教育セミナー，神戸，2015年6月)</p> <p>7. <u>高橋浩二</u>：医系総合大学での摂食嚥下障害への取り組み。(日本外科代謝栄養学会第52回学術集会，東京，2015年7月)</p> <p>8. <u>高橋浩二</u>：摂食嚥下障害の診断・評価のツボ「ベッドサイドでの診かた」。(第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会ポストコンgresセミナー，京都，2015年9月)</p> <p>9. <u>高橋浩二</u>：(講演) 介護予防と口腔ケア～お口のはたらき～延ばそう健康長寿—食べる幸せ、生きる力は健口から—介護予防と口腔ケア。(世田谷歯科医師会主催市民講座，東京，2015年4月)</p> <p>10. <u>高橋浩二</u>：(講演) 大学専門診療科における摂食嚥下リハビリテーションの展開—頭頸部癌術後嚥下障害例を中心に—。(がん研有明病院看護部勉強会，東京，2015年7月)</p> <p>11. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食嚥下の評価。(公益社団法人日本歯科衛生士会平成27年度認定歯科衛生士セミナー在宅療養指導(口腔機能管理)・摂食嚥下リハビリテーションコース，東京，2015年8月)</p> <p>12. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食・嚥下障害の基礎知識。(評価医養成研修，東京，2015年9月)</p> <p>13. <u>高橋浩二</u>：(講演) 大学専門診療科における摂食嚥下障害への取り組み。(第55回全国国保地域医療学会教育セミナー，埼玉，2015年10月)</p> <p>14. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食中の唯一の嚥下障害スクリーニング法である頸部聴診法の実際(第8回湘南地区PDNセミナー，神奈川，2015年12月)</p> <p>15. <u>高橋浩二</u>：(講演) 嚥下障害の臨床最前線から～大学専門診療科の今～。嚥下を見て、聞いてみよう～嚥下内視鏡検査ライブと頸部聴診実習～。(品川福祉カレッジ口腔機能向上・ケア研修ステップアップ講座，東京，2015年12月)</p> <p>16. <u>高橋浩二</u>：(講演) 在宅摂食嚥下医療の実際—頸部聴診法と嚥下内視鏡検査を中心にした診断と間接訓練と直接訓練の供覧—。(世田谷歯科医師会摂食嚥下プロジェクトチーム準備委員会講習会，東京，2015年12月)</p> <p>17. <u>高橋浩二</u>：歯科大学専門診療科における在宅摂食嚥下医療の実際—頸部聴診法と嚥下内視鏡検査による診断と間接訓練・直接訓練の供覧—。(第27回日本在宅医療学会学術集会，横浜，2016年6月)</p> <p>18. <u>高橋浩二</u>：オバマケア導入後の米国における嚥下障害治療の実態(第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会，新潟，2016年9月)</p> <p>19. <u>高橋浩二</u>：口腔機能障害の症状から原疾患を探る。(第26回日本口腔内科学会総会・学術大会，岡山，2016年9月)</p> <p>20. <u>高橋浩二</u>：大学専門診療科における嚥下障害のアプローチ。(第33回日本障害者歯科学会総会および学術大会，埼玉，2016年9月)</p> <p>21. <u>高橋浩二</u>：大学専門診療科における口腔機能障害の対応—口腔癌術後患者を中心に—。(第61回日本口腔外科学会総会・学術大会第10回歯科衛生士研究会，千葉，2016年11月)</p> <p>22. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食中の唯一の嚥下障害スクリーニング法である頸部聴診法の実際—各種嚥下障害スクリーニング法も含め—。(千葉県歯科医師会障害福祉委員会主催セミナー，千葉，2016年4月)</p> <p>23. <u>高橋浩二</u>：(講演) 歯科からアプローチする認知症予防。(睡眠と歯科からアプローチする認知症予防シンポジウム，名古屋，2016年8月)</p> <p>24. <u>高橋浩二</u>：(講演) 地域で「口から食べること」を支えるために「皆でやってみよう！頸部聴診」。(第10回大きな森勉強会大田区地域保健医療勉強会，東京，2016年8月)</p> <p>25. <u>高橋浩二</u>：(講演) 介護予防と口腔ケア～お口のトレーニングを紹介しましょう～延ばそう健康長寿食べる幸せ、生きる力は健口から。(昭和大学歯科病院市民講座，東京，2016年10月)</p> <p>26. <u>高橋浩二</u>：(講演) 大学専門診療科における頭頸部癌治療後嚥下障害リハビリテーションの展開。(第4回「顎補綴・摂食嚥下リハビリテーション」講習会，東京，2016年12月)</p> <p>27. <u>高橋浩二</u>：(講演) 構音・摂食嚥下機能障害に対する外来がんリハビリテーションの取り組み。第6回日本がんリハビリテーション研究会，東京，2017年1月)</p> <p>28. <u>高橋浩二</u>：(講演) 大学専門診療科における摂食嚥下障害の取り組み。(昭和大学医学部同窓会・歯学部同窓会鹿児島県支部主催講演会，鹿児島，2017年2月)</p> <p>29. <u>高橋浩二</u>：(講演) 延ばそう健康長寿食べる幸せ、生きる力は健口から。(鹿屋市市民公開講座，鹿児島，2017年2月)</p> <p>30. <u>高橋浩二</u>：(講演) 摂食中の唯一の嚥下障害スクリーニング法である頸部聴診法の実際—各種嚥下障害スクリーニング法も含め—。(昭和大学歯学部同窓会千葉県支部会総会学術講演会，千葉，2017年2月)</p>
--

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

1. 研究成果発表会

<既の実施しているもの>

1) 平成 26 年度発表会

(平成 27 年 3 月 28 日 (土) (別添資料 3 参照))

(1) 特別講演①:『日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望』

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野 教授 古谷野 潔 先生

(2) 特別講演②:『メダカを用いた骨代謝機構の解明:宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常』

東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻 教授 工藤 明 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表 (ポスター形式) 15 題

2) 平成 27 年度発表会

(平成 28 年 3 月 12 日 (土) (別添資料 3 参照))

(1) 特別講演①:『神経幹細胞としての神経堤細胞の魅力』

東北大学大学院医学系研究科 属創生応用医学研究センター長 脳神経科学コアセンター長 大隅 典子 先生

(2) 特別講演②:『粘膜マルチエコシステムによる共生と排除』

東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター長 炎症免疫学分野 教授 清野 宏 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表 (ポスター形式) 15 題

3) 平成 28 年度発表会

(平成 29 年 3 月 4 日 (土) (別添資料 3 参照))

(1) 特別講演①:『定量プロテオミクスから展開する分子プロファイリング』

慶應義塾大学医学部長 岡野 栄之 先生

(2) 特別講演②:『癌治療における支持療法としての口腔ケア:その原理と効果、そして展望』

九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学講座口腔細胞工学分野 教授 九州大学大学院歯学研究院長

平田 雅人 先生

(3) ポスター発表

研究分担者の研究発表 (ポスター形式) 15 題

<これから実施する予定のもの>

・年度末に研究成果発表会を開催する。

・学外から専門家を招聘し、シンポジウムを随時開催する。

昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成 29 年度シンポジウム

昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成 30 年度シンポジウム

2. 新聞・雑誌等での公開 (別添資料 4 参照)

1) 研究成果発表会関連

中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成 27 年度シンポジウム開催される

NEWS Q, the Quintessence, 35 (5): 240, 2016

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

中村史朗:昭和大(歯)が文科省支援事業の平成27年度シンポジウムを開催 Random Note,日本歯科評論, 76 (5), 2016

宮本洋一:昭和大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成26年度シンポジウム News & Report,歯界展望, 126 (2): 399, 2015

宮本洋一:昭和大学歯科病院で私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成26年度合同シンポジウム開催 NEWS Q,the Quintessence, 34 (5): 203, 2015

中村史朗:昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成27年度シンポジウム News & Report, 歯界展望, 127 (6): 1217, 2016

2) その他

阪井丘芳: 科学、「眠気ホルモン」臓器形成を調整 朝日新聞、2015年5月28日

2016.5.25 平成28年5月25日の日刊工業新聞に分担者高見正道(歯科薬理学講座)の助教の茶谷昌宏氏が紹介されました。『拓く研究人(121)昭和大学薬理科学研究センター助教・茶谷昌宏氏(32歳)』

角 保徳:口腔ケアに専用ジェル 山口新聞,徳島新聞他多数 2015.09.28

角 保徳:ジェルで安全口腔ケア 日本歯科新聞 2015.06.23

槇宏太郎:「大人の歯列矯正-最新情報-」日経ヘルス、92-95、2016年11月

槇宏太郎:「マウスピース 根気と努力」読売新聞、2016年10月21日

槇宏太郎:「出っ歯の早期治療は不要…永久歯後でも効果同じ」読売新聞、2016年10月6日

槇宏太郎:「マウスピースでなぜ歯が動く？」nico 8-23、2016年7月クインテッセンス出版

槇宏太郎:歯の矯正をして「美しい笑顔」で自刃を！。(株)祥伝社.からだにいいこと,2015年9月号,p102-103.

3. テレビ・ラジオ等での公開

槇宏太郎:患者ロボット「昭和花子2」.日本テレビ「月曜から夜ふかし」,2016年7月11日 23:59 - 24:54

槇宏太郎:患者ロボット「昭和花子2」.フジテレビ「NONFIX」,2016年3月23日 26:20 - 27:20

槇宏太郎:患者ロボット「昭和花子2」.日本テレビ「スクール革命!」,2015年8月9日 11:45 - 12:45

槇宏太郎:子供の鼻づまりについて(口呼吸と歯並び) NHK TV,おはよう日本,2015年6月21日 AM7:00

4. インターネットでの公開

- ・本プロジェクトに関するホームページを昭和大学のホームページで公開している。
(URL: <http://www10.showa-u.ac.jp/~d-common/index.html>)

14 その他の研究成果等

特記事項なし

法人番号	131026
プロジェクト番号	S1411009

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

特記事項なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

特記事項なし

研究施設・設備等

・研究施設の面積及び使用者数

施設の名称	研究施設面積	研究室等数	使用者数
昭和大学1号館歯学研究科所属研究室	4792m ²	9	95
昭和大学1号館RI共同研究室	287m ²	2	25
昭和大学遺伝子組換え実験室	96m ²	2	18
昭和大学動物実験施設	951m ²	5	45
昭和大学基礎系電子顕微鏡室	303m ²	4	12
昭和大学歯科病院プロジェクト関連研究室	196m ²	3	52

・主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数

装置・設備の名称	整備年度	製造会社	台数	稼働時間数 (1週間当たり)
(研究設備)				
ImageQuant LAS 4010 システム	H26 年度	GE Healthcare Life Sciences 社	1	95 時間 (1.1 時間)
2 光子レーザー光刺激システム	H26 年度	ニコンインステック社	1	515 時間 (6.0 時間)
DNA 自動分離装置	H26 年度	倉敷紡績株式会社	1	146 時間 (1.7 時間)
組織細胞分取システム	H26 年度	Miltenyi Biotec 社		44 時間 (0.5 時間)
微生物分類同定分析装置	H26 年度	BIOMERIEUX 社	1	483 時間 (5.6 時間)
先端的疾患遺伝子解析システム	H27 年度	Life Technologies 社 Worldfusion 社 Partek 社	1	54 時間 (1.2 時間)
Accuri C6 マウス免疫細胞解析パッケージ	H27 年度	日本 BD 社	1	5.5 時間 (0.1 時間)
オールインワン蛍光顕微鏡	H27 年度	キーエンス社	1	142.5 時間 (3.2 時間)
ImagEM-1K カメラセット	H28 年度	浜松ホトニクス社	1	1 時間 (0.2 時間)
超深度マルチアングルレンズマイクロスコープ	H28 年度	キーエンス社	1	11 時間 (2.8 時間)
ウェアラブル光トポグラフィー	H28 年度	HITACHI 社	1	6 時間 (1.5 時間)

評価体制の概要

<自己評価>

各年度末に自己評価を行い、それを次年度以降の研究に反映させた。自己評価は、以下の各項目について行われている。

1. 研究分担者の研究成果
 - ① 各年度の研究成果の公表状況
 - ② 各年度末に行われる「研究成果発表会」における発表内容
2. 研究機器の管理・運営状況
 - ① 守点検状況
 - ② 稼働率

3. 研究分担者の業績評価

本プロジェクトでは、年度毎に研究分担者の発表論文に基づいて業績評価を行うこととした。平成 25 年～28 年度に各研究分担者の研究業績を一定の基準によって評価した。

1) 当該年度までに申請者が発表した個々の原著論文について、下記記載の基準に従って評価点数を算出する。

(1) 個々の原著論文について算出された評価点数の総和をもって、申請書の評価点数とする。

(2) 原著論文評価点数算出法

① 掲載雑誌の点数

点数	論文種類
5	Journal Citation Report に掲載されている雑誌の論文
4	Journal Citation Report に掲載されていない国際誌の論文、または全国規模学会で発行している雑誌の英文論文
3	全国規模学会で発行している雑誌の和文論文
2	学内誌、商業誌、その他の英文論文
1	学内誌、商業誌、その他の和文論文

② Impact factor

JCR (Journal Citation Reports) [評価年度版] に基づく。

③ 評価点数の算出法

評価点数=掲載雑誌のランク+Impact factor

4. 本プロジェクトの費用対効果

本研究プロジェクトの費用対効果について、以下の通り考える。

1) これまでに本プロジェクトに関連して公表された主な成果は以下の通りで、研究が概ね順調に進行し、一部は既に実用化の目途が立っている。

	サブプロジェクト		合計
	1	2	
雑誌論文	112	84	196
図書	18	81	99
学会発表	298	185	483
新聞・テレビ等における公表	7	11	18

2) 本プロジェクトに関連して設置した研究機器により学内の研究環境の高度化が図られた。またそれらを用いた研究が数多く公表されており、稼働率も良好である。

3) 以上の点を総合的に考慮して、本プロジェクトの費用対効果は良好と考える。

<外部評価>

1) 外部評価者

所属	職名	氏名
川崎医療福祉大学医療技術学部 リハビリテーション学科 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会理事長	教授	椿原 彰夫
岡山大学歯学部 インプラント再生補綴学分野	教授	窪木 拓男
千葉大学大学院医学研究院臨床分子生物学 日本口腔科学会副理事長	教授	丹沢 秀樹

2) 外部評価の時期および方法

- (1) 中間評価：研究年度3年目（平成28年度）
研究年度3年目終了後に外部評価を実施し、「外部評価報告書」の提出を受ける。
- (2) 最終評価：研究年度5年目（平成30年度）
外部評価者による、昭和大学での実地調査を実施する。さらに外部評価者から、「外部評価報告書」の提出を受ける。



昭和大学歯学部
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成26年度シンポジウム

プログラム・抄録集

平成27年3月28日(土)

会	場	昭和大学歯科病院 1号棟および2号棟 東京都大田区北千束2-1-1				
特	別	講	演	1号棟6階 第2臨床講堂	13:00~15:00	
ポ	ス	タ	ー	発表会	2号棟1階 第1会議室	15:00~16:30

問い合わせ先：昭和大学歯学部口腔生化学講座
142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8163

昭和大学歯学部
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
平成26年度シンポジウム

平成27年3月28日（土）

- 特別講演：1号棟6階 第2臨床講堂 13:00～15:00
- ポスター発表会：2号棟1階 第1会議室 15:00～16:30

昭和大学 歯学部
東京都品川区旗の台1-5-8

問い合わせ：口腔生化学講座
TEL 03-3784-8163

ご 挨拶

昭和大学大学院歯学研究科科长

昭和大学歯学部長

宮 崎 隆

今年も年度末を迎え、恒例の私立大学戦略的研究基盤形成事業の発表会を開催することになりました。本学では医系総合大学の環境の中で、医学・医療との共通基盤の上に歯学の専門性を生かした新しい歯学研究を推進してきました。現在、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として、「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点の形成」、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」と「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の3つのプロジェクトを進めています。

「デンタルイノベーション」は5年間の完成年度を迎え、「次世代型顎口腔組織再生医療」は中間の3年目、「口腔機能維持・回復」が今年度からスタートしました。いずれのプロジェクトも、本学歯学部・歯学研究科に所属する研究員に加えて学外からの共同研究者にも参画していただき、幅広い観点からの研究に取り組んできました。改めて、研究に協力していただいている関係者に篤く御礼申し上げます。本来であれば3つのプロジェクトごとに成果発表会を開催すべきですが、相乗効果を期待して本年度も合同開催することにしました。

毎年、世界的に活躍されている講師をお迎えして、特別講演を頂戴しています。今回は、東京工業大学大学院生命理工学研究科 生命情報専攻 工藤 明 教授に「メダカを用いた骨代謝機構の解明；国際宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常」の講演をお願いいたしました。硬組織代謝は歯学研究にとっては共通基盤になる最重要のテーマですので、今後の本学における歯学研究の発展につながるものと期待されます。

また、九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座 インプラント・義歯補綴学分野の古谷野 潔 教授に「日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望」と題する講演をお願いいたしました。古谷野先生は、第23期日本学術会議歯学委員会委員長の要職につかれています。私事ですが、昭和学士会からの参加で、一般社団法人 日本歯学系学会協議会の理事長を務めています。歯学協は歯学に関係する74学会の連合隊組織であり、学術会議との連携のもとで、歯学の重要性を広く社会・国民に訴える活動を続けています。古谷野先生の特別講演を拝聴して、本学関係者が各方面から日本の歯学の発展に貢献できるように一層の活動をお願い申し上げます。

特別講演に引き続き、ポスターで各研究班の今年度の成果発表を行いますので、情報交換と活発な討議をお願いいたします。最後になりましたが、発表会の開催にご努力いただいた上條竜太郎教授ほか委員の先生方に篤く感謝申し上げます。

平成27年3月28日

ご 挨拶

「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」

研究代表者 上條 竜太郎

平成 24 年度、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」（研究期間：5 年間）が採択され、間もなく 3 年目が終了します。

再生医療の研究対象は、体のほぼすべての組織や臓器にわたっています。歯科の領域においても、口腔粘膜、骨、歯周組織、唾液腺、神経など、さまざまな組織・臓器の再生研究が進められており、その進歩は、国民の QOL の維持向上に大きな貢献をもたらすものと期待されております。我が国においてもその実用化が現実のものとなりつつありますが、必要とされる技術面、施設面のハードルは高く、臨床の場に広く導入されるには至っておりません。先進諸国の多くが再生医療分野への取組みを強化し、世界的な競争が激化していますが、より多くの科学技術的知見を蓄積し、さらに基盤的な研究開発を積極的に推進し、国際的にも主導的な役割を果たすことが重要です。

本事業では、顎口腔領域に特化し、早期に臨床普及可能な次世代型再生医療の基盤構築を推進する研究拠点形成を目指し、①細胞調整施設（CPC）を用いず手術室で完結する組織再生医療の基盤構築、②生体材料と幹細胞を含む細胞によるハイブリッド型再生医療の実現、③口腔領域の実用可能な細胞ソースの同定ならびに増殖・分化誘導法の開発の 3 つのサブプロジェクトを推進しています。ヒト幹細胞を収集・分離・増殖する CPC での幹細胞の調製は安全性の確保、免疫拒絶反応の回避、薬事規制等への十分な対応を必要とし、生産性や管理コストなど改善すべき点も多く、一方、手術室完結型再生医療では幹細胞の収集・分離を手術室で行うことから、より実用化に近く、意義も大きいと考えます。また、生体材料と幹細胞を組み合わせた 3 次元構造をもつハイブリッド型人工臓器の開発は、異なる科学技術的要素が加わり、多分野の統合的な研究開発が必要です。各臓器のハイブリッド型再生医療は、その複雑性から実現化は容易ではありませんが、顎口腔領域では、GBR（骨再生誘導法）や歯科用インプラントなど生体材料を応用した組織再生が既に臨床応用されており、最も実現化に近い領域でもあります。つまり、この研究分野の発展が再生医療全体におけるハイブリッド再生の推進に大きく寄与すると考えられます。さらに、歯や頬脂肪体、皮下脂肪組織等の新しい幹細胞ソースの開発も当該領域の特徴の 1 つとして検討し、顎口腔領域からの細胞ソースの積極的な開発を目指すことで、本事業は他に類を見ない先駆的研究となると期待しています。

本日はポスターで各研究分担者の発表を行います。本プロジェクトの今後の展開につながる情報交換と活発な討議をお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月 28 日

ご 挨拶

「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」

研究代表者 美島 健二

平成 26 年度、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」が採択され、一年が過ぎようとしています。

疾患や加齢によって低下した摂食、発声、呼吸などの口腔機能の回復・維持は、心身の健康と QOL の向上を図るために火急の対応を要する課題であり、その方策として次世代を見据えた口腔の衛生管理、疾患治療およびリハビリテーションシステムの開発が極めて重要です。昭和大学は、2008 年に多分野の専門家が集結して「昭和大学口腔ケアセンター」を設立し、口腔機能を多面的に捉えることで、最先端の医療技術の導入とその開発を推進してきました。本プロジェクトでは、新たに口腔関連分野の先鋭な専門家を加えることで、粘膜、唾液、歯、神経などの口腔環境の恒常性維持・破綻機序を詳細に解析し、得られたエビデンスに基づいて嚥下、顎骨壊死、補綴、矯正、口腔ケアなどを対象とした高度で革新的な医療技術を開発します。すなわち、このセンターを口腔機能維持・回復のための研究拠点として確立し、国民の健康と QOL の向上を促進するとともに、わが国における将来の医療を担う優秀な人材を育成することを目的として施行されます。

口腔内機能の保持が全身の健康の維持・増進に寄与することが、臨床的側面から明らかにされつつあります。一方、分子的基盤に立脚したそのメカニズムの解析は始まったばかりで、基礎と臨床の側面を統合した体系的な理解が望まれています。このような背景から、本研究は、2つの部分より構成されます。すなわち、口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズムを解明する基礎研究と、そこで得られたエビデンスを共有し、次世代の新しい口腔ケアシステムを確立する臨床研究です。このことを実践すべく、当該研究では、本学の基礎・臨床はもとより、学外からも当該分野に習熟した先生方に御参画頂き遂行されています。

本ポスター発表会では、プロジェクトが開始して一年を経過したばかりではありますが、現状で得られた最新の知見を中心に活発な討議が行われることと思われま

す。最後になりましたが、発表会の開催にご尽力頂きました先生方に心より御礼申し上げます。

平成 27 年 3 月 28 日

日 程

13:00～13:05 (1号棟6階 第2臨床講堂)

開会のあいさつ

歯学研究科 科長 宮崎 隆 教授

13:05～15:00 (1号棟6階 第2臨床講堂)

特別講演

13:05～14:00

特別講演 1

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座

インプラント・義歯補綴学分野

教授 古谷野 潔 先生

演題：『日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望』

座長：馬場 一美 教授

14:05～15:00

特別講演 2

東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻

教授 工藤 明 先生

演題：『メダカを用いた骨代謝機構の解明：

宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常』

座長：高見 正道 教授

15:00～16:30 (2号棟1階 第1会議室)

(講演後のため時間が前後する場合がございます)

ポスター発表会

16:30～ (2号棟1階 第1会議室)

閉会のあいさつ

昭和大学歯科病院 病院長 榎 宏太郎 教授

ポスター発表についてのご案内

1. 場所・時間

2号棟 第1会議室

3月28日(土) 午後15:00~16:30(講演後のため前後する可能性があります)

2. ポスターの掲示と撤去について

ポスターの貼付け: 当日(3/28)の10:30~12:30の間に掲示してください。

(事務局で専用の両面テープを準備しておりますのでそれをご使用ください)

ポスターの撤去: 当日(3/28)の午後16:30(閉会后)に撤去してください。

(閉会前のポスター撤去はご遠慮ください)

3. ポスターの大きさ

サイズ: 縦90 cm × 横90 cm

※ポスターのサイズが昨年度とは異なりますのでご注意ください。

※縦の長さにつきましては、90 cmを少し超えても構いません。ただし、ポスターボードの縦サイズが90 cmですので、それを考慮して作成してください。

4. 発表形式: ポスター

15:00~15:30 (討論1)

「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成」

15:30~16:00 (討論2)

「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」

16:00~16:30 (討論3)

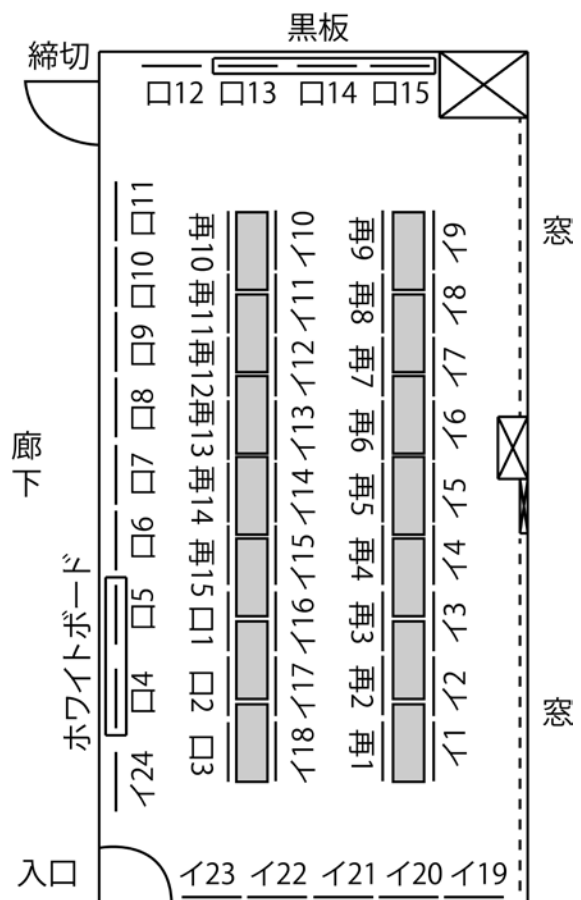
「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」

発表者はポスターの前で研究内容を説明してください。活発なご討論をお願い致します。

5. ポスター貼付け位置

各演題の貼付位置は右図のようになっております。

(「イ」イノベーション、「再」再生、「口」口腔機能)



特別講演目次

1. 日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望

九州大学大学院 歯学研究院 口腔機能修復学講座

インプラント・義歯補綴学分野

教授 古谷野 潔 先生

2. メダカを用いた骨代謝機構の解明; 国際宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常

東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻

教授 工藤 明 先生

日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望

九州大学大学院 歯学研究院 口腔機能修復学講座
インプラント・義歯補綴学分野 教授 古谷野潔
日本学術会議 歯学委員会 委員長 (第23期)

日本学術会議は、我が国の約84万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。その主な役割は、Ⅰ. 政府に対する政策提言、Ⅱ. 国際的な活動、Ⅲ. 科学者間ネットワークの構築、Ⅳ. 科学の役割についての世論啓発である。日本学術会議には、4つの機能別委員会(常置)、30の学術分野別の委員会(常置)、課題別委員会(臨時)が置かれており、歯学委員会は、30の分野別委員会の一つである。

学術会議は提言・報告などを取りまとめて発表しているが、その一つに10~20年先の学術およびその推進政策に対する長期的な考察を取りまとめた『日本の展望—学術からの提言2010』がある。この提言の中で歯学委員会も「歯学分野の展望」を取りまとめた。これは10~20年程度の中長期的な歯学の展望と課題、グローバル化・情報化への対応、社会のニーズへの対応及びこれからの人材育成に関する課題を分析し、将来の展望を取りまとめたものである。そして2011年には、歯学関係者が、この「歯学分野の展望」をよりよく実践・実行するために、15領域・77課題を抽出し、そのアクションプランとともに「歯学分野の展望—課題とアクションプラン」として発表した。

学術会議は、昨年、学術大型研究計画、いわゆるマスタープラン2014を策定した。前述の「日本の展望」を踏まえ、学術全般を展望・体系化するために「学術研究領域」が制定され、各学術分野に必須な「学術大型研究計画」が募集された。歯学委員会では、山口朗先生を中心に「口腔疾患グローバル研究拠点の形成」(研究期間10年、総予算70億円)という研究計画を作成し応募したところ、「学術大型研究計画」(全体で207件)に選定された。次に、その中で諸観点から特に速やかに実施すべき「重点大型研究計画」27件が策定されたが、我々の計画も選定された。この27件を基盤として、文部科学省は昨年、学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想「ロードマップ2014」を策定した。我々の計画も、文科省でヒアリングを受けるところまで進んだが、残念ながら選定されなかった。

講演では、多種多様な学術会議の活動の中から、我々にも関連が深い上記2つの活動を紹介し、それらを基盤に今後歯学分野で取り組んでいくべき課題について考察する。

略 歴

古谷野 潔 (昭和30年6月9日生)

昭和58年 3月 九州大学歯学部 卒業
昭和62年 3月 九州大学大学院歯学研究科博士課程歯学臨床系専攻 単位修得退学
昭和62年 4月 九州大学歯学部附属病院助手
昭和62年 10月 九州大学大学院歯学研究科博士課程歯学臨床系専攻 修了
平成3年 1月 文部省在外研究員 (平成3年10月まで)
アメリカ合衆国 UCLA visiting associate professor (平成5年1月まで)
平成5年 9月 九州大学歯学部講師
平成9年 9月 九州大学歯学部教授
平成11年 4月 九州大学総長補佐 (併任) (平成13年3月まで)
平成12年 4月 九州大学大学院歯学研究院教授
平成15年 4月 九州大学歯学部附属病院長 (併任) (平成15年10月まで)
平成15年 10月 九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院副病院長
(併任) (平成20年3月まで)
平成24年 4月 九州大学総長特別補佐 (平成26年9月まで)

●主な学会活動

日本補綴歯科学会 前理事長 (指導医・専門医)
日本口腔インプラント学会 常務理事・九州支部長 (指導医・専門医)
日本顎関節学会 常任理事 (指導医・専門医)
日本顎口腔機能学会 理事
日本歯科理工学会 理事
日本老年歯科医学会 評議員 (指導医・認定医)
Asian Academy of Prosthodontics 元会長
International College of Prosthodontics 元会長
Asian Academy of Osseointegration 元会長
日本学術会議会員 (22期) 歯学委員会委員長 (23期)
第27回日本歯科医学会総会 常任委員・学術部会長

●大学外での主な活動

厚生労働省

- ・ 歯科医師試験委員 (H16-H22)
- ・ 医道審議会専門委員 歯科医師分科会委員
- ・ 歯科医師国家試験出題基準改訂部会幹事委員 (H20)

文部科学省

- ・ 中央教育審議会大学分科会委員
- ・ 中央教育審議会大学院部会医療系 WG 委員
- ・ 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議委員
- ・ 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ スーパーバイザー／モデレーター
- ・ 大学設置・学校法人審議会特別委員

日本学術振興会 組織的な大学院教育改革推進プログラム委員会委員

共用試験歯学系 OSCE 事後評価解析小委員会委員

非常勤講師

北海道大学、東北大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、長崎大学、鹿児島大学、
日本歯科大学新潟生命歯学部、昭和大学、鶴見大学、神奈川歯科大学

Journal of Oral Rehabilitation Associate Editor

Journal of Odontology Associate Editor

The International Journal of Prosthodontics Associate Editor

メダカを用いた骨代謝機構の解明；

国際宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常

東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻
教授 工藤 明

地上での生活では破骨細胞による骨吸収と骨芽細胞による骨形成のバランスが一定に保たれていますが、宇宙飛行士が宇宙で長期間生活すると、骨量が著しく減少することが知られています。微小重力環境では、骨吸収が骨形成より大きくなり、骨が減ると考えられていますが、そのメカニズムはまだ解明されていません。蛍光タンパク質で破骨細胞と骨芽細胞の両方を識別できるトランスジェニックメダカを用い、活性化されることが想定される破骨細胞を中心に、骨芽細胞との相互作用も含め、宇宙における骨代謝を2種類の実験を通して解析しました。

宇宙実験として、宇宙に長期間滞在した場合の変化を組織解析や遺伝子発現解析で調べる2ヶ月間の長期飼育実験と、宇宙で短期間に起こる変化を蛍光顕微鏡を用いて直接観察する1週間の短期観察実験を行いました。長期飼育実験は、宇宙に打上げたメダカを「きぼう」の水棲生物実験装置で飼育し、経時的に水槽からメダカを取り出し、組織化学固定や遺伝子保存処理を行いました。化学固定試料および遺伝子保存処理試料はすべて地上に回収し、歯と骨の周囲にある組織と細胞について組織解析と遺伝子発現解析を行いました。短期観察実験は、破骨細胞あるいは骨芽細胞で特異的に蛍光を発するトランスジェニックメダカの稚魚を打上げ、「きぼう」の蛍光顕微鏡で、無重力下での破骨細胞と骨芽細胞の動きを生きたままリアルタイムで観察しました。

メダカののどの奥には数百本の咽頭歯があり、再生を繰り返しています。この歯を支える骨が咽頭歯骨で歯の再生に伴って骨のリモデリングを行っています。このリモデリングには破骨細胞と骨芽細胞が関与しており、今回の実験ではトランスジェニックメダカを用いて両細胞を蛍光で可視化しています。微小重力下、2か月の長期飼育実験では咽頭歯骨の骨量が減少し、歯列形成不全が見られました。破骨細胞を蛍光観察すると、破骨細胞の体積が増大し、それに伴って破骨の活性化マーカーである TRAP の活性も上昇していました。さらに、短期の観察実験により骨芽細胞と破骨細胞の蛍光の光は、微小重力にさらされた直後に共に増大していました。このことは、咽頭歯部は重力の影響を受けやすい組織であり、骨芽細胞も破骨細胞も直接的に重力の影響を受けている可能性を示唆しています。実際に重力は、歯や骨のような密度が高い組織に影響を及ぼすことが物理式で知られており、歯が数百本ある咽頭歯部は重力の影響を観察するのに優れた組織モデルであることがわかりました。

略 歴

学歴

1975年 東京工業大学 工学部 高分子工学科卒業
1977年 東京工業大学 総合理工学研究科 電子化学専攻修了
博士(薬学)(東京大学)、 修士(工学)(東京工業大学)

経歴

1988年 九州大学 生体防御医学研究所 助手
1988年 九州大学 生体防御医学研究所 助教授
1989年 スイスバーゼル免疫研究所 研究員
1992年 ヘキストジャパン (株) 主任研究員
1994年 東京工業大学生命理工学部 教授
1999年-現在：東京工業大学 / 大学院・生命理工学研究科 / 教授

受賞歴

1995年 財)持田記念医学薬学振興財団 研究奨励賞
1996年 第14回日本骨代謝学会優秀演題賞
2000年 第18回日本骨代謝学会優秀演題賞
2004年 手島研究論文賞
2012年 手島研究論文賞

ポスター発表演題目次

デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成

—アンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生—

演題番号 イ1

8-ニトロ-cGMP は軟骨細胞の肥大化を誘導せず、増殖を促進することで骨伸長を促進する内因性シグナル分子である

○星野真理江^{1,2}、宮本洋一¹、馬場一美²、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹口腔生化学、²歯科補綴学

演題番号 イ2

閉口反射反射弓に対するヒスタミンの作用

○玄番千夏子^{1,2}、中山希世美¹、中村史朗¹、望月文子¹、井上美津子²、井上富雄¹

昭和大学歯学部¹口腔生理学、²小児成育歯科学

演題番号 イ3

顔面部皮膚における抗原提示細胞の局在性

○柳澤伸彰、大塚裕忠、瀧戸次郎、野中直子、中島 功、中村雅典

昭和大学歯学部口腔解剖学講座

演題番号 イ4

咀嚼筋の大きさと残存歯数が咬合力に及ぼす影響に関する研究(第4報)

○荒木和之、佐野 司、花澤智美、関 健次、松田幸子、木村幸紀

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学部門

演題番号 イ5

簡易型唾液 α -アミラーゼ測定による小児歯科治療時のストレス解析についての研究

○浅里 仁¹、竹松 翠¹、山田早希子¹、栗原亜由希¹、杉山智美¹、馬谷原光織²、佐藤昌史¹、井上美津子¹

昭和大学歯学部¹小児成育歯科学講座、²スペシャルニーズ口腔医学講座歯学教育学部門

演題番号 イ 6

マイクロアレイを用いた顎下腺の加齢に伴う遺伝子変化の解析

○齊藤芳郎¹、山田 篤²、上條竜太郎²、代田達夫¹

昭和大学歯学部¹口腔外科学講座、²口腔生化学講座

演題番号 イ 7

Hematopoietic pre-B cell leukemia transcription factor-interacting protein (HPIP) の口腔扁平上皮癌組織発生への関与

○入江太朗、田中準一、安原理佳、河野葉子、深田俊幸、美島健二

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 イ 8

骨髄、脾臓および血液より分離した破骨前駆細胞の性質

○榎本拓哉^{1,2}、高見正道³、山本松男²、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹口腔生化学講座、²歯周病学講座、³歯科薬理学講座

演題番号 イ 9

新規病原性喪失法開発における Lgt 分子の標的としての有用性

○有本隆文、桑田啓貴

昭和大学歯学部口腔微生物学

演題番号 イ 10

骨移植材と周囲新生骨の骨質評価

○山田嘉宏¹、片岡 有¹、田中準一²、柴田 陽¹、美島健二²、宮崎 隆¹

昭和大学歯学部¹歯科保存学講座歯科理工学部門、²口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 イ 11

四次元超音波診断装置を用いた錠剤の口腔内及び食道入口部服薬動態撮影法の検討

○弘中祥司¹、大友美佳²、伊藤康大²、高松千紘²、倉田なおみ³、中村明弘³

¹昭和大学歯学部口腔衛生学、²昭和大学薬学部、³昭和大学薬学部薬物療法学

演題番号 イ 1 2

下顎癌術後患者における下顎偏位の経時的変化および下顎復位装置の治療効果について

○那小屋公太¹、原田由香¹、横山 薫¹、鈴木総史¹、伊原良明¹、高橋浩二¹、
勝田秀行^{2,3}、代田達夫⁴

¹ 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門、

² 昭和大学頭頸部腫瘍センター、³ 昭和大学歯学部口腔外科学講座口腔腫瘍外科学部門、

⁴ 昭和大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門

演題番号 イ 1 3

新たな OHIP 解析方法を用いたインプラント治療介入効果の評価

○原 真央子、古山千紗子、樋口大輔、高場雅之、田中晋平、塚崎弘明、馬場一美
昭和大学歯学部歯科補綴学講座

演題番号 イ 1 4

カチオン性ナノバブルと口腔細菌およびバイオフィームとの静電的相互作用

○菅野真莉加^{1,3}、森崎弘史²、桑田啓貴²、宮崎 隆³、山本松男¹

昭和大学歯学部¹ 歯周病学、² 口腔微生物学、³ 歯科理工学

演題番号 イ 1 5

光重合型レジン強化型ケイ酸カルシウム覆髄材のラット培養歯髄細胞に対する影響について

○増田宜子¹、山田嘉重¹、宮崎 隆²

昭和大学歯学部歯科保存学講座¹ 歯内治療学、² 歯科理工学

演題番号 イ 1 6

Beauty & Dental

○松尾涼子、新妻由衣子、真鍋厚史

昭和大学歯学部歯科保存学講座美容歯科学部門

演題番号 イ 1 7

ライナー治療における歯冠形状と矯正力の三次元有限要素解析

○柳澤若菜、槇 宏太郎

昭和大学歯学部歯科矯正学

演題番号 イ 1 8

ニコランジルの破骨細胞分化過程に及ぼす抑制効果

○岩城 太^{1,2}、天野 均¹、大浦 清¹

¹大阪歯科大学薬理学講座 ²西神戸医療センター歯科口腔外科

演題番号 イ 1 9

上顎全部床義歯の維持力と各種口腔保湿剤との関係

北川 昇、佐藤裕二、○青柳佳奈、角田拓哉、高山真里、椿田健介、石原雅恵
昭和大学歯学部高齢者歯科学講座

演題番号 イ 2 0

青色 LED を装備する口腔内内視鏡システムによる根管内の評価

○伊佐津克彦、長谷川篤司

昭和大学歯学部歯科保存学講座総合診療歯科学部門

演題番号 イ 2 1

レジン系セメントの硬化特性向上の検討-新規材料への対応-

○堀田康弘、佐藤康太郎、藤島昭宏、宮崎 隆

昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門

演題番号 イ 2 2

DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) 理論に基づいた 口腔のアンチエイジング戦略：マウスを用いた DOHaD 責任遺伝子の検索

○小川哲郎

埼玉医科大学生理学教室

演題番号 イ 2 3

歯科用 OCT 画像診断機器による硬質レジン前装冠の非破壊検査

○前田千晶、角 保徳

国立長寿医療研究センター 歯科口腔先進医療開発センター 歯科口腔先端診療開発部

演題番号 イ 2 4

低分子化合物と無血清培地を用いた多能性幹細胞の骨芽細胞分化誘導法

菅家康介¹、鄭 雄一²、○大庭伸介²

東京大学大学院¹医学系研究科感覚・運動機能医学講座口腔外科学、²工学系研究科バイオエンジニアリング専攻

次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成

演題番号 再1

脂肪組織由来再生細胞を用いた半月板損傷に対する手術室完結型再生医療

○糸瀬昌克^{1,2}、須澤徹夫¹、代田達夫²、美島健二³、稲垣克記⁴、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹口腔生化学講座、²口腔外科学講座、
³口腔病態診断科学講座口腔病理学部門、⁴医学部整形外科学講座

演題番号 再2

脂肪幹細胞を活用した唾液腺再生メカニズムの解析

○安原理佳、田中準一、入江太朗、深田敏幸、福島美和子、河野葉子、美島健二

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 再3

ナノインデンテーションによる疑似的老化モデルマウス皮質骨の力学的特性評価

○柴田 陽¹、丸山範子²、宮崎 隆¹

昭和大学歯学部¹歯科保存学講座歯科理工学部門、²歯科矯正学講座

演題番号 再4

セリア安定化アルミナ/ジルコニアインプラントの開発

○大嶋瑤子、岩佐文則、田中晋平、舘 慶太、松本貴志、秋山智人、馬場一美

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

演題番号 再5

顎口腔組織の神経堤由来細胞を応用した骨再生法の開発

○須澤徹夫¹、高橋正皓²、小野美樹²、浦野絵里^{1,3}、高見正道⁴、山田 篤¹、宮本洋一¹、
馬場一美³、榎 宏太郎²、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹口腔生化学講座、²歯科矯正学講座、³歯科補綴学講座、⁴歯科薬理学講座

演題番号 再6

咬筋および頸筋の筋活動量に対する明暗および睡眠-覚醒サイクルの影響

○望月文子¹、片山慶祐²、加藤隆史³、池田美菜子²、野川泰葉⁴、中村史朗¹、中山希世美¹、
若林則幸⁴、馬場一美²、井上富雄¹

昭和大学歯学部¹口腔生理学講座、²歯科補綴学講座、³大阪大学大学院歯学研究科口腔解剖第二教室、⁴東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野

演題番号 再7

活性イオウ分子種の制御による軟骨再生に関する基礎研究

星野真理江^{1,2}、金子児太郎^{2,3}、○船登咲映^{1,2}、宮本洋一²、吉村健太郎²、上條竜太郎²、
馬場一美¹

昭和大学歯学部¹ 歯科補綴学、² 口腔生化学、³ 東京医科大学口腔外科学

演題番号 再8

毛包由来の神経堤細胞を用いた骨芽細胞分化誘導

○森澤絵里^{1,2}、高見正道³、須澤徹夫¹、馬場一美²、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹ 口腔生化学講座、² 歯科補綴学講座、³ 歯科薬理学講座

演題番号 再9

microRNAによる骨芽細胞・エナメル芽細胞分化誘導に基づく新たな再生医療への挑戦

須澤徹夫¹、宮本洋一¹、○山田 篤¹、鈴木 大¹、吉村健太郎¹、宇山理紗¹、山本松男²、
上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹ 口腔生化学講座、² 歯周病学講座

演題番号 再10

発達期脳神経における全身麻酔薬による細胞死誘導の検討

○今野 歩¹、西村晶子¹、中村史朗²、山田 篤³、上條竜太郎³、井上富雄²、
飯島毅彦¹

昭和大学歯学部¹ 全身管理歯科学講座 歯科麻酔科学部門

昭和大学歯学部² 口腔生理学講座、³ 昭和大学歯学部口腔生化学講座

演題番号 再11

CCI(軟骨内石灰化不全)ラットにおける頭蓋顔面異常と発症原因の検索

○天野 均¹、龍 家圭²、渡辺 実³、田中政巳⁴

¹ 大阪歯科大学歯学部薬理学、² 昭和大学医学部臨床薬理、

³ 聖マリアンナ医科大学医学部薬理、⁴ 朝日大学歯学部口腔病理学分野、

⁵ 東京医科歯科大学大学院顎顔面解剖学分野、⁶ 会津大学短期大学部食物栄養

演題番号 再12

非症候群性永久歯先天欠如の新規原因遺伝子の同定

○山口徹太郎¹、細道一善²、芳賀秀郷¹、方山光朱¹、中脇貴俊¹、富田大介¹
大塚裕忠³、野中直子³、中村雅典³、井ノ上逸朗²、槇 宏太郎¹

¹昭和大学歯学部歯科矯正学、²国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門、³昭和大学歯学部口腔解剖学

演題番号 再13

Nd:YAG レーザー照射によるラット血管内皮細胞の血管新生に関する因子発現への影響について

○増田宜子¹、山田嘉重²、宮崎 隆²

昭和大学歯学部歯科保存学講座¹ 歯内治療学、² 歯科理工学

演題番号 再14

多孔性 OCP 複合体に播種した細胞に対するメカニカルストレス負荷の影響に関する検討

○山田雅一^{1,2}、穴田貴久²、益田泰輔³、山本照子¹、鈴木 治³

東北大学大学院歯学研究科¹ 顎口腔矯正学分野、² 顎口腔機能創建学分野

³名古屋大学大学院工学研究科 マイクロナノシステム

演題番号 再15

新規再生組織「インプラント型再生軟骨」の確立

○高戸 毅

東京大学医学部附属病院顎口腔外科・歯科矯正歯科

口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成

演題番号 口1

マウス唾液腺における幹細胞の同定と機能解析

○田中準一、安原理佳、入江太朗、深田俊幸、福島美和子、河野葉子、美島健二
昭和大学歯学部 口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 口2

マウス唾液腺における PACAP の効果とそのレセプターの局在

○野中直子¹、的場祐子¹、今村栄作¹、中町智哉²、渡邊 潤²、塩田清二²、中村雅典¹
昭和大学歯学部口腔解剖学講座¹、昭和大学医学部解剖学講座²

演題番号 口3

歯周病原細菌の産生する nuclease は NETs の分解に関与する

○深町はるか¹、道家 碧²、有本隆文²、片岡嗣雄¹、森崎弘史¹、桑田啓貴¹
昭和大学歯学部¹口腔微生物学、²歯学部6年

演題番号 口4

発育期咬筋運動ニューロン樹状突起におけるグルタミン酸性応答

○長田翔子^{1,2}、中村史朗¹、中山希世美¹、望月文子¹、清本聖文¹、山本松男²、
井上富雄¹
昭和大学歯学部¹口腔生理学、²歯周病学

演題番号 口5

歯周病原菌毒素プロテアーゼによる炎症性骨破壊

秋山智人^{1,2}、○宮本洋一¹、吉村健太郎¹、山田 篤¹、高見正道³、安原理佳⁴、今村隆寿⁵、
秋山知恵⁴、星野真理江²、幸田 力⁶、田中和生⁶、美島健二⁴、馬場一美²、上條竜太郎¹
昭和大学歯学部¹口腔生化学、²歯科補綴学、³歯科薬理学、⁴口腔病理学
⁵熊本大学大学院生命化学研究部分子病理学⁶昭和大学医学部微生物学

演題番号 口6

破骨細胞による象牙質およびβ-TCP 製人工骨補填剤の吸収

○松永朗裕^{1,3}、高見正道²、稲垣克記³、上條竜太郎¹
¹昭和大学 歯学部口腔生化学講座、²昭和大学 歯学部歯科薬理学講座、³昭和大学医学部整形外科学講座

演題番号 口7

口腔ケアクリニカルパスを用いた周術期の口腔衛生管理—対象者の口腔内の実態—

○石川健太郎^{1,2}、村山隆夫³、中川量晴^{1,2}、久保田一見^{1,2}、石崎晶子^{1,2}、村上浩史^{1,2}、石田圭吾^{1,2}、吉田佳織⁴、横塚あゆ子⁴、弘中祥司^{1,2}

¹昭和大学歯学部口腔衛生学、²昭和大学口腔ケアセンター、³昭和大学藤が丘病院歯科、⁴昭和大学歯科病院歯科衛生室

演題番号 口8

がん薬物療法における医科歯科連携 昭和大学病院の試み

○佐々木康綱¹、濱田和幸¹、岡松良昌²、弘中祥司³

¹昭和大学医学部内科学講座腫瘍内科学部門、²昭和大学病院歯科、³昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門

演題番号 口9

造血幹細胞移植に伴う口腔粘膜障害の発症頻度と時期について

齋藤文護¹、服部憲路¹、荒井奈々¹、川口有紀子¹、藤原 俊¹、蒲沢宣幸¹、塚本裕之¹、宇藤 唯¹、有泉裕嗣²、柳沢孝次¹、原田浩史²、森 啓²、○中牧 剛¹

¹昭和大学医学部内科学講座血液内科部門、²昭和大学藤が丘病院血液内科

演題番号 口10

二重盲検ランダム化比較試験によるクロナゼパムとクロニジンの睡眠時ブラキシズムへの薬剤効果の検証

○吉田裕哉¹、加藤隆史²、酒井拓郎¹、菫澤秀一郎¹、菅沼岳史¹、高場雅之¹、小野康寛¹、吉澤亜矢子¹、石井正和³、栗原竜也³、川名ふさ江⁴、木内祐二⁵、馬場一美¹

¹昭和大学歯学部歯科補綴学、²大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座³昭和大学薬学部病態薬理学、⁴ゆみのハートクリニック、⁵昭和大学薬学部薬学教育推進センター

演題番号 口11

アライナー治療におけるアタッチメントの形状と位置の違いによる有限要素解析

○後藤真理子、柳澤若菜、榎 宏太郎

昭和大学歯学部歯科矯正学

演題番号 口12

精神病棟における窒息患者について

○野末真司¹、横山 薫¹、松浦光洋²、原田由香¹、上杉雄大¹、高橋浩二¹

¹昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門

²昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座地域連携歯科学部門

演題番号 口13

胎生期マウス唾液腺におけるメラトニンの役割について

○阪井丘芳、尾花 綾、小野 瞳

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室

演題番号 口14

口腔ケア時の誤嚥性肺炎予防の試み

○藤田恵未、角 保徳

国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センター歯科口腔先端診療開発部

演題番号 口15

兵庫県における薬剤関連性顎骨壊死の発症調査

○岸本裕充、首藤敦史、高岡一樹、野口一馬

兵庫医科大学 歯科口腔外科学講座



昭和大学歯学部
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成27年度シンポジウム

プログラム・抄録集

平成28年3月12日(土)

会場：昭和大学歯科病院 1号棟および2号棟
東京都大田区北千束2-1-1

特別講演：	1号棟6階 第2臨床講堂	13:05~15:00
ポスター発表会：	2号棟1階 第1会議室	15:00~16:30

問い合わせ先：昭和大学歯学部口腔生理学講座
東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8160

昭和大学歯学部

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成27年度シンポジウム

平成28年 3月12日（土）

- 特別講演：1号棟6階 第2臨床講堂 13：05～15：00
- ポスター発表会：2号棟1階 第1会議室 15：00～16：30

昭和大学 歯学部

東京都品川区旗の台1-5-8

問い合わせ：口腔生理学講座

TEL 03-3784-8160

ご 挨拶

昭和大学大学院歯学研究科 科長 宮 崎 隆

平成 27 年度の私立大学戦略的研究基盤形成事業の発表会を平成 28 年 3 月 12 日に開催することになりました。本学では医系総合大学の環境の中で、医学・医療との共通基盤の上に歯学の専門性を生かした新しい歯学研究を推進してきました。現在、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」と「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の 2 つのプロジェクトを進めています。

毎年、世界的に活躍されている講師をお迎えして、特別講演を頂戴しています。今年度は東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発センター長の清野 宏教授と、東北大学大学院医学研究科 附属創生応用医学研究センター長 脳神経科学コアセンター長の大隈典子教授をお招きしました。超多忙な日程の中を調整して、私どものために講演していただけることに、篤く感謝申し上げます。

くしくもお二人は歯学部をご卒業後研究生活に入られ、広く医学の分野で世界を代表する研究者として活躍されています。清野先生の口腔・消化器粘膜の生物学的エコシステムによる共生と排除のメカニズム、ならびに大隈先生の神経堤細胞の起源や発生に関する講演は、本学における基盤研究の推進につながると期待されます。また、両教授の講演を拝聴して、本学からも若い研究者が一人でも夢を持って研究にそして世界にチャレンジしていただければ幸いです。

特別講演に引き続き、ポスターで各研究班の今年度の成果発表を行いますので、情報交換と活発な討議をお願いいたします。最後になりましたが、発表会の開催にご努力いただいた上條竜太郎教授ほか委員の先生方に篤く感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月 12 日

ご 挨拶

「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」

研究代表者 上 條 竜太郎

近年の再生医療研究の進歩は目覚ましく、歯科の領域においても、口腔粘膜、骨、歯周組織、唾液腺、神経などの再生研究が進められています。その進歩は、国民の QOL の維持向上に大きな貢献をもたらすものと期待されており、我が国においてもその実用化が急務ですが、必要とされる技術面、施設面のハードルは高く、特別な設備が整えられたごく僅かな医療機関で実施されているのが現状です。先進諸国の多くが再生医療分野への取組みを強化し、世界的に競争が激化していますが、日本からより多くの科学技術的知見を発信し、国際的にも主導的な役割を果たすことが重要です。

平成 24 年度、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」が採択され、間もなく 4 年目が終了します。本事業では、顎口腔領域に特化し、早期に臨床普及可能な次世代型再生医療の基盤構築を推進する研究拠点形成を目指し、①細胞調整施設（CPC）を用いず手術室で完結する組織再生医療の基盤構築、②生体材料と幹細胞を含む細胞によるハイブリッド型再生医療の実現、③口腔領域の実用可能な細胞ソースの同定ならびに増殖・分化誘導法の開発の 3 つのサブプロジェクトを推進しています。ヒト幹細胞を収集・分離・増殖する CPC での幹細胞の調製は安全性の確保、免疫拒絶反応の回避、薬事規制等への十分な対応を必要とし、生産性や管理コストなど改善すべき点も多く、一方、手術室完結型再生医療では幹細胞の収集・分離を手術室で行うことから、より実用化に近く、意義も大きいと考えます。また、生体材料と幹細胞を組み合わせた 3 次元構造をもつハイブリッド型人工臓器の開発は、異なる科学技術的要素が加わり、多分野の統合的な研究開発が必要です。各臓器のハイブリッド型再生医療は、その複雑性から実現化は容易ではありませんが、顎口腔領域では、骨再生誘導法や歯科用インプラントなど生体材料を応用した組織再生が既に臨床応用されており、最も実現化に近い領域でもあります。つまり、この研究分野の発展が再生医療全体におけるハイブリッド再生の推進に大きく寄与すると考えられます。さらに、歯や頬脂肪体、皮下脂肪組織等の新しい幹細胞ソースの開発も当該領域の特徴の 1 つとして検討し、顎口腔領域からの細胞ソースの積極的な開発を目指すことで、本事業は他に類を見ない先駆的研究となると期待しています。

本日はポスターで各研究分担者の発表を行います。本プロジェクトの今後の展開につながる情報交換と活発な討議をお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月 12 日

ご 挨拶

「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」

研究代表者 美 島 健 二

平成 26 年度、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」が採択され 2 回目のシンポジウムとなります。

人口の 1/4 が 75 歳以上の後期高齢者となる 2025 年問題は、国民の長期にわたる健康の維持・増進を図るために喫緊の対応が迫られる重要な課題です。本プロジェクトは、このような超高齢社会を背景に口腔機能の維持による全身の QOL の向上を図る目的で立案されました。加齢に伴う嚥下機能や唾液分泌機能の低下が誤嚥性肺炎の誘因となるばかりか、早産、脳出血および非アルコール性肝硬変などの全身性疾患の発症に口腔内細菌の関与が明らかにされつつあります。すなわち、全身疾患における感染源としての口腔組織の関与が示唆され、その衛生環境の制御は全身性疾患の制御にも関連した重要な課題と考えられます。このことから、本邦における健康長寿を具現化するためには、口腔ケアの必要性が益々高まっていると考えられます。

本プロジェクトでは (1) 基礎・臨床の研究者の相互的協力体制の推進により、科学的エビデンスに基づいた治療方法の開発 (2) これまで不明であった、口腔ケアや口腔疾患医療の効果を科学的に証明し、従来の医療の再考・改良の牽引 (3) 医学部を含めた各専門分野の研究者が連携することで、これまで不明であった口腔と全身疾患との関係の解明 (4) 次世代の口腔疾患治療に応用可能な実現性の高い医療技術基盤を構築することにより、歯科におけるイノベーションの提言の 4 つの到達目標が掲げられています。この目標を達成すべく、口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズムの解明を行う基礎研究と、そこで得られたエビデンスを共有し、次世代の新しい口腔ケアシステムを確立する臨床研究がなされています。本プロジェクトにより口腔ケアの重要性が再確認され、国民の QOL の維持・向上につながるよう務めたいと考えます。

最後になりましたが、発表会の開催にご尽力頂きました関係者各位に心より御礼申し上げます。本ポスター発表会においては、昨年度の成果に加え新たに得られた最新の知見を中心に活発な討議が行われることと期待されます。

平成 28 年 3 月 12 日

日 程

13 : 00~13 : 05 (1号棟6階 第2臨床講堂)

発表会開催のあいさつ 歯学研究科 科長 宮 崎 隆 教授

13 : 05~15 : 00 (1号棟6階 第2臨床講堂)

特別講演

13 : 05~14 : 00

特別講演 1

東北大学大学院医学系研究科

附属創生応用医学研究センター長

脳神経科学コアセンター長

発生発達神経科学分野 教授 大 隅 典 子 先生

演題：『神経幹細胞としての神経堤細胞の魅力』

座長 上 條 竜太郎 教授

14 : 05~15 : 00

特別講演 2

東京大学医科学研究所

国際粘膜ワクチン開発研究センター長

炎症免疫学分野 教授 清 野 宏 先生

演題：『粘膜マルチエコシステムによる共生と排除』

座長 桑 田 啓 貴 教授

15 : 00~16 : 30 (2号棟1階 第1会議室)

(講演後のため時間が前後する場合がございます)

ポスター発表会

16 : 30 (2号棟1階 第1会議室)

閉会のあいさつ 昭和大学歯科病院 副病院長 飯 島 毅 彦 教授

ポスター発表についてのご案内

1. 場所・時間

2号棟 第1会議室

3月12日（土） 15：00～16：30（講演後のため前後する可能性があります。）

2. ポスターの掲示と撤去について

ポスターの貼付け：当日（3/12）の10：30～12：30の間に掲示してください。

（事務局で専用の両面テープを準備しておりますのでそれをご使用ください。）

ポスターの撤去：当日（3/12）の16：30（閉会后）に撤去してください。

（閉会前のポスター撤去はご遠慮ください。）

3. ポスターの大きさ

サイズ：縦90cm × 横120cm以内

※ポスターのサイズが昨年度とは異なりますのでご注意ください。

※縦の長さにつきましては、90cmを少し超えてもかまいません。ただし、ポスターボードの縦サイズが90cmですので、それを考慮して作成してください。

4. 発表形式：ポスター

15：00～15：45（討論1）

「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」

15：45～16：30（討論2）

「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」

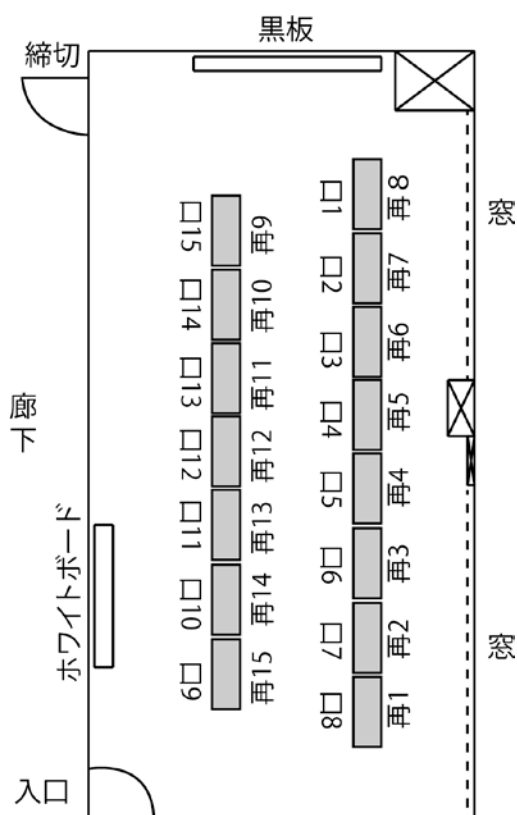
発表者はポスターの前で研究内容を説明してください。

活発なご討論をお願い致します。

5. ポスター貼付け位置

各演題の貼付位置は右図のようになっております。

（「再」再生，「口」口腔機能）



特別講演目次

1. 神経幹細胞としての神経堤細胞の魅力

東北大学大学院・医学系研究科
附属創生応用医学研究センター長
脳神経科学コアセンター長
発生発達神経科学分野 教授
大 隅 典 子 先生

2. 粘膜マルチエコシステムによる共生と排除

東京大学医科学研究所
国際粘膜ワクチン開発研究センター長
炎症免疫学分野 教授
清 野 宏 先生

神経幹細胞としての神経堤細胞の魅力

東北大学大学院・医学系研究科
附属創生応用医学研究センター長
脳神経科学コアセンター長
発生発達神経科学分野 教授
大 隅 典 子 先生

身体の中の多くの器官に「神経堤細胞」という不思議な細胞が関与することは案外、知られていない。神経堤は、ヒトであれば受精後 3~4 週目、原腸陥入という現象により中胚葉が形成される時期に現れる。外胚葉の正中部が神経板となり、徐々に巻き上がって神経管となる頃、表皮外胚葉と神経上皮の境界部に形成される一過性の領域が神経堤と呼ばれる。神経堤の細胞は脱上皮して神経堤細胞として体内を遊走し、移動先において多様な細胞に分化する。末梢神経系の感覚ニューロンやシュワン細胞（中枢神経系のオリゴデンドロサイトに相当）、自律神経系のアドレナリン産生ニューロン、皮膚の色素細胞（メラノサイト）だけでなく、副腎髄質のクロム陽性細胞、甲状腺のカルシトニン産生細胞等の内分泌系の細胞や、顎顔面の骨、軟骨、象牙質などの硬組織も含まれる。神経堤細胞の増殖能や多分化能は、神経幹細胞としての性質を有する。したがって、神経堤由来の細胞を含む組織から神経堤由来細胞を単離することにより、その細胞を人工的に増殖、分化させることが可能である。このことは、神経堤細胞が再生医療のための細胞源として利用しうることを示していると考えられる。一方、神経堤細胞の増殖・分化異常は多様な病態をもたらし、神経芽腫、褐色細胞腫、カルチノイド腫瘍、非クロム親和性傍神経節腫などの腫瘍や、von Recklinghausen 症候群、多発性内分泌腺腫瘍症（Sipple 症候群）、CHARGE 症候群などに関与する。このような腫瘍の好発も、神経堤細胞が増殖性が高く多様な細胞に分化しうる癌幹細胞としての性質を有することに基づくと考えられるだろう。本講演では、このように多彩な役割を果たす神経堤細胞の起源や発生過程について紹介したい。神経堤細胞の発生に関する本講演が、聴衆各位の research mind を刺激するものになれば幸いである。

学 歴 :

- 昭和 60 年 3 月 31 日 (1985) 東京医科歯科大学歯学部 卒業
昭和 60 年 4 月 1 日 (1985) 東京医科歯科大学大学院・歯学研究科・博士課程
(基礎歯科学専攻) 入学
平成元年 3 月 31 日 (1989) 東京医科歯科大学大学院・歯学研究科・博士課程
(基礎歯科学専攻) 修了/歯学博士の学位を取得

職 歴 :

- 平成元年 4 月 1 日 (1989) 東京医科歯科大学・顎口腔総合研究施設
・顎顔面発生機構研究部門・助手
平成 3 年 4 月 1 日 (1991) 東京医科歯科大学大学院・生体機能制御歯科学系
発生機構制御学講座・助手
平成 8 年 11 月 1 日 (1996) 国立精神神経センター・神経研究所 室長
平成 10 年 11 月 1 日 (1998) 東北大学大学院・医学系研究科・器官構築学分野 教授
平成 14 年 4 月 1 日 (2002) 東北大学大学院・医学系研究科・附属創生応用
医学研究センター・形態形成解析分野 教授 (現職)
平成 18 年 11 月 6 日 (2006) 東北大学総長特別補佐 (男女共同参画担当) (~現在)
平成 20 年 4 月 1 日 (2008-2010)
東北大学ディスティングイッシュトプロフェッサー
平成 22 年 4 月 1 日 (2010) 東北大学大学院医学系研究科附属創生応用
医学研究センター・脳神経科学コアセンター長
平成 27 年 4 月 1 日 (2010) 東北大学大学院医学系研究科
附属創生応用医学研究センター長

受賞歴 :

- 長尾賞 (東京医科歯科大学歯学部卒業時)
Hatton Travel Awards (70th IADR Meeting, 1992 年)
三菱財団研究奨励賞 (2000 年)
持田記念研究奨励賞 (2000 年)
上原記念研究奨励賞 (2000 年)
東レ科学技術振興財団研究奨励賞 (2002 年)
ナイスステップな研究者 2006 (2006 年)
TWAS Associate Fellow (2012 年~)

所属学会役員等 :

- 北米神経科学学会 (SfN) 国際問題委員 (2013-)

日本分子生物学会理事長（2013–2014年）

日本発生生物学会 運営委員（平成13–16年度、18–20年度）

日本神経科学会 理事（平成14–16年度、17–19年度、20–22年度）、大会長（2011年）

日本細胞生物学会 評議員（平成11–13、16–20年度）

Journal of Anatomy (Editorial Board)

Development, Growth and Differentiation (Editorial Board)

Genes to Cells (Editorial Board)

Tohoku Journal of Experimental Medicine (Editorial Board)

非常勤講師等：

東京大学非常勤講師、京都大学非常勤講師、東京医科歯科大学非常勤講師、慶應義塾大学医学部非常勤講師、筑波大学先端学際領域研究センター客員教授、自然科学研究機構新分野創成センター客員教授

公職歴（主要なもののみ）：

- ・ 日本学術会議第20、21、22期会員（平成17年～26年）、23期連携会員（平成26年10月1日～）
- ・ 衆議院内閣委員会参考人（平成26年4月4日）
- ・ 内閣府総合科学技術会議 生命倫理専門調査会 委員（平成18～23年度）
- ・ 内閣府総合科学技術会議 基本政策専門調査会 専門委員
（平成21年7月11日～平成23年3月31日）
- ・ 内閣府総合科学技術会議次世代インフラ・復興再生戦略協議会委員（平成25年度～）
- ・ 文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
ライフサイエンス委員会 幹細胞・再生医学戦略作業部会 委員（平成20年度～）
- ・ 文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会
研究開発評価部会委員（平成19年度～）
- ・ 文部科学省科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会/
学術分科会学術研究推進部会 脳科学委員会 委員（平成19年3月6日～）

民間団体歴：

- ・ 財団評議員・学術委員等（アステラス病態代謝研究会、内藤財団、東洋紡百周年記念バイオテクノロジー財団、加藤記念財団、中山人間科学財団等）
- ・ 研究機関運営会議委員（国立遺伝学研究所、自然科学研究機構基礎生物学件空所、京都大学再生研究所、京都大学WPI研究拠点、奈良先端大学院大学、筑波大学WPI研究拠点等）
- ・ 独立行政法人産業技術総合研究所研究ユニット評価委員会 委員
独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター
旧臨界期機構研究グループ レビュー委員（平成22年3月9日～平成22年3月10日）

特別講演 2

粘膜マルチエコシステムによる共生と排除

東京大学医科学研究所
国際粘膜ワクチン開発研究センター長
炎症免疫学分野 教授
清野 宏 先生

口腔に始まる消化管は、広大な粘膜面を形成しており、そこに存在する免疫機構の解析は1970年代から本格化し、新たな免疫学領域「粘膜免疫学」の創生に繋がった。口腔免疫として歯学がその発展に貢献した。約40年間の学問的蓄積は、近年の学問領域の異分野融合と技術的革新により、「免疫の新世界」と言われていた消化管に代表される粘膜免疫機構のユニーク性についての飛躍的な解明と理解にも繋がってきた。

口腔から始まる消化管は「内なる外」とも呼ばれ、上皮細胞を介して恒常的に直接外界に接しており、食物摂取、共生細菌、病原性細菌侵入など様々な生理学的、免疫学的、病理学的現象に遭遇しているユニークな器官である。消化管粘膜は口腔・腸内常在細菌に対しては共生環境を作る一方、病原性細菌を排除するという複雑な粘膜免疫機構を備えている。つまり、粘膜免疫は「共生と排除」と言う全く相反する免疫応答を司っている。

「共生」という観点からは、我々の研究室では、腸管免疫の要であるパイエル板の中に一部の共生細菌（例、*Alcaligenes*）が存在する事を同定し、「組織内共生」を提唱している。その組織内共生の環境作りに、免疫系の樹状細胞や近年注目されている自然リンパ球(ILC)が関わっている事が明らかになってきた。さらに自然リンパ球が腸管上皮細胞の糖鎖修飾の制御に重要な役割を果たし、共生細菌層の維持や病原性細菌（例、サルモネラ菌）感染制御に関わっている。これらの結果を総合すると、口腔から始まる消化管粘膜では、微生物群、上皮細胞-間葉系細胞群、そして免疫担当細胞群という3つの生物学的エコシステムの相互・協調作用により維持されている。

略 歴

所 属：

東京大学医科学研究所
感染・免疫部門 炎症免疫学分野 教授
国際粘膜ワクチン開発研究センター センター長

学歴・職歴：

1971年 日本大学松戸歯学部歯学科入学
1977年 日本大学松戸歯学部歯学科卒業
1977年 アラバマ大学バーミングハム校メディカルセンター
微生物学教室ポストドクトラルフェロー
1980年 アラバマ大学バーミングハム校メディカルセンター 医学系大学院博士課程入学
1983年 アラバマ大学バーミングハム校メディカルセンター 医学系大学院博士課程修了
1984年 アラバマ大学バーミングハム校メディカルセンター 研究・臨床助教授
1986年 マックスプランク生物学研究所 感染症部門 上級研究員
1989年 アラバマ大学バーミングハム校メディカルセンター 准教授
1991年 アラバマ大学バーミングハム校メディカルセンター 教授
1994年 大阪大学微生物病研究所 教授
2002年 東京大学医科学研究所 炎症免疫学分野 教授
2005年 東京大学医科学研究所 感染・免疫部門長
2007年 東京大学医科学研究所 副所長
2011年 東京大学医科学研究所 所長
2011年 東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター長

所属学会：

国際粘膜免疫学会（理事長 2005年－2007年）（理事 2008年－2010年）
日本免疫学会（理事 2005年－2014年）
日本消化器免疫学会（理事 2000年－現在まで）
日本ワクチン学会（理事長 2003年－2005年）（監事 2006年－2008年）（理事 2008年－現在）
日本食品免疫学会
国際歯科基礎医学会
米国免疫学会
米国病理学会
米国微生物学会

受賞歴：

米国 NIH New Investigator Award (1984)

米国 NIH Research Career Development Award (1988)

野口英世記念医学賞 (2007)

日本ワクチン学会高橋賞 (2007)

日本食品免疫学会特別賞 (2009)

発表論文：

Nature, Science, Nature Medicine, Proceeding of National Academy of Science USA, Immunity, The Journal of Experimental Medicine, The Journal of Clinical Investigation, The Journal of Immunology などに 480 編以上

ISI Highly Cited Researchers List 掲載 (2005 年から)

出版物：

臨床粘膜免疫学 (株式会社シナジー),

Mucosal Vaccine (Academic Press), Essentials of Mucosal Immunology (Academic Press),

粘膜免疫 腸は免疫の司令塔 (中山書店) など 20 編 (編集を含む)

ポスター発表演題目次

次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成

演題番号 再1

脂肪組織由来再生細胞による手術室内で完結できる半月板治療の基礎研究

○糸瀬昌克^{1,2}、須澤徹夫¹、代田達夫²、稲垣克記³、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹ 口腔生化学講座、² 口腔外科学講座、³ 医学部整形外科学講座

演題番号 再2

脂肪幹細胞による唾液腺再生メカニズムの解析

○安原理佳、田中準一、福島美和子、入江太朗、河野葉子、美島健二

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 再3

S-PRG フィラーによるエナメル質の力学的特性変化

○田中玲奈、柴田 陽、宮崎 隆

昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門

演題番号 再4

軟骨基質分解における炎症性サイトカインの作用に関する基礎研究

○船登咲映^{1,2}、安原理佳³、宮本洋一²、吉村健太郎²、美島健二³、上條竜太郎²、馬場一美¹

昭和大学歯学部¹ 歯科補綴学、² 口腔生化学、³ 口腔病理学

演題番号 再5

毛乳頭とバルジ領域由来の神経堤細胞を用いた骨芽細胞の分化誘導

○森澤絵里^{1,2}、高見正道³、須澤徹夫¹、馬場一美²、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹ 口腔生化学講座、² 歯科補綴学講座、³ 歯科薬理学講座

演題番号 再6

咬筋運動ニューロン樹状突起へのグルタミン酸入力に対するセロトニンの効果

○壇辻昌典^{1,2}、中村史朗²、中山希世美²、望月文子²、清本聖文²、尾関雅彦¹、井上富雄²

昭和大学歯学部¹ インプラント歯科学講座、² 口腔生理学講座

演題番号 再7

MPC ポリマーを用いたデンチャープラーク付着抑制の臨床評価

○池谷賢二、岩佐文則、福西美弥、高橋那奈、塚原明弘、馬場一美

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

演題番号 再8

口腔顎顔面領域の神経堤由来細胞による骨形成誘導の基礎研究

吉田 寛^{1,2}、○須澤徹夫¹、高橋正皓²、小野美樹²、高見正道³、榎 宏太郎²、上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹口腔生化学講座、²歯科矯正学講座、³歯科薬理学講座

演題番号 再9

microRNAによる骨軟骨形成に関与する遺伝子発現制御の解析

鈴木 大¹、宮本洋一¹、○山田 篤¹、須澤徹夫¹、吉村健太郎¹、宇山理紗¹、山本松男²、
上條竜太郎¹

昭和大学歯学部¹口腔生化学講座、²歯周病学講座

演題番号 再10

発達期脳神経における全身麻酔薬による細胞死誘導の検討

○今野 歩¹、西村晶子¹、中村史朗²、山田 篤³、上條竜太郎³、井上富雄²、飯島毅彦¹

¹昭和大学歯学部全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門

²昭和大学歯学部口腔生理学講座、³昭和大学歯学部口腔生化学講座

演題番号 再11

CCI(軟骨内石灰化不全)ラットにおける頭蓋顔面異常における形態学的検索

○天野 均¹、龍 家圭²、渡辺 実³、永山元彦⁴、柴田俊一⁵、田沼順一⁴、田中政巳⁶、
大浦 清¹

¹大阪歯科大学歯学部薬理学、²昭和大学医学部臨床薬理、

³聖マリアンナ医科大学医学部薬理、⁴朝日大学歯学部口腔病理学分野、

⁵東京医科歯科大学大学院顎顔面解剖学分野、⁶会津大学短期大学部食物栄養

演題番号 再12

上顎正中過剰埋伏歯原因因子同定のためのヒトゲノム解析

○高橋正皓¹、山口徹太郎¹、細道一善²、矢野圭介³、芳賀秀郷¹、田嶋 敦²、榎 宏太郎¹

¹昭和大学歯学部歯科矯正学講座、²金沢大学医薬保健研究域医学系革新ゲノム情報学分野、

³ヴェルデ矯正歯科

演題番号 再13

Nd:YAG レーザー照射によってラット血管内皮細胞に発現する遺伝子の Affymetrix GeneChip Array 解析

○増田宜子¹、宮本洋一²、宮崎 隆³

昭和大学歯学部歯科保存学 ¹ 歯内治療学、² 口腔生化学、³ 歯科理工学

演題番号 再14

マウス間葉系幹細胞による三次元細胞組織体形成に及ぼすリン酸カルシウム系材料の影響

○佐藤智哉^{1,2}、穴田貴久¹、加茂谷拓央^{1,3}、塩飽由香利^{1,4}、土屋香織¹、山本照子³、
佐々木啓一²、鈴木 治¹

東北大学大学院歯学研究科 ¹ 顎口腔機能創建学分野、² 口腔システム補綴学分野、
³ 顎口腔矯正学分野、⁴ 歯学イノベーションリエゾンセンター

演題番号 再15

新規再生組織「インプラント型再生軟骨」の確立

○高戸 毅

東京大学医学部附属病院 顎口腔外科・歯科矯正歯科

口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成

演題番号 口1

Sox9 を介したマウス唾液腺組織幹細胞の機能解析

○田中準一、安原理佳、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二

昭和大学歯学部 口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 口2

Enhancement of saliva secretion by PACAP directly binding to PACAP receptors expressed in major salivary glands in mice

○の場祐子、野中直子、高木佳辰、今村栄作、中村雅典

昭和大学歯学部口腔解剖学講座

演題番号 口3

Prevotella intermedia の nucleases の酵素学的解析

○深町はるか¹、道家 碧²、有本隆文¹、片岡嗣雄¹、森崎弘史¹、桑田啓貴¹

昭和大学歯学部¹ 口腔微生物学、² 歯科病院

演題番号 口4

除脳ラット灌流標本を用いた自発呼吸に伴う頸筋支配神経活動の解析

○立川哲史^{1,2}、中山希世美¹、望月文子¹、中村史朗¹、清本聖文¹、飯島毅彦²、井上富雄¹

昭和大学歯学部¹ 口腔生理学、² 全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門

演題番号 口5

一酸化窒素の新規代謝産物 8-nitro-cGMP による骨代謝調節

○金子児太郎^{1,2}、宮本洋一¹、吉村健太郎¹、近津大地²、赤池孝章³、上條竜太郎¹

¹昭和大学歯学部口腔生化学講座、²東京医科大学医学部口腔外科学分野、

³東北大学大学院医学系研究科医科学専攻社会医学講座環境保健医学分野

演題番号 口6

破骨細胞による骨補填材 β -TCP の吸収メカニズム

松永朗裕^{1,4}、○高見正道²、入江太朗³、美島健二³、稲垣克記⁴、上條竜太郎¹

¹昭和大学歯学部口腔生化学講座、²昭和大学歯学部歯科薬理学講座、

³昭和大学歯学部口腔病理学講座、⁴昭和大学医学部整形外科学講座

演題番号 口7

造血幹細胞移植患者から採取した口腔内細菌の分離同定の検討

○弘中祥司¹、内海明美¹、刑部 月¹、小川綾野¹、石崎晶子¹、久保田一見¹、岡松良昌²、
沖 亜佑美²、木ノ内ひろ子²、君島 茜²、齋藤文護³、服部憲路³、中牧 剛³

昭和大学歯学部¹スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門、²昭和大学病院歯科・
歯科口腔外科、³昭和大学医学部内科学講座血液内科学部門

演題番号 口8

がん薬物療法と口腔ケアにおけるトランスレーショナル・リサーチ

○佐々木康綱¹、濱田和幸¹、岡松良昌^{2,3}、沖 亜佑美^{2,3}、木ノ内ひろ子^{2,3}、
君島 茜^{2,3}、刑部 月^{3,4}、内海明美^{3,4}、弘中祥司^{3,4}

¹昭和大学医学部内科学講座腫瘍内科学部門、²昭和大学病院歯科・歯科口腔外科

³昭和大学口腔ケアセンター、⁴昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門

演題番号 口9

臍帯血移植時の口腔粘膜障害

○齋藤文護、中牧 剛

昭和大学 医学部内科学講座 血液内科部門

演題番号 口10

睡眠時ブラキシズム臨床診断基準の検証

○中里友香理¹、吉田裕哉¹、酒井拓郎¹、葭澤秀一郎¹、菅沼岳史¹、高場雅之¹、小野康寛¹、
吉澤亜矢子¹、川名ふさ江²、馬場一美¹

昭和大学歯学部¹歯科補綴学、²ゆみのハートクリニック

演題番号 口11

ライナー治療におけるアタッチメントの形状と位置の違いに関する有限要素解析

○後藤真理子、柳澤若菜、榎 宏太郎

昭和大学歯学部歯科矯正学

演題番号 口12

嚥下障害の聴覚的判別に適する呼気音、嚥下音サンプルの検討

野末真司、○伊原良明、高橋浩二、原田由香、横山 薫

昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門

演題番号 口13

唾液腺発生におけるメラトニンの役割について

○阪井丘芳、小野 瞳、井階一樹、尾花 綾

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学教室

演題番号 口14

口腔ケア時の誤嚥予防の試み —口腔ケア用ジェルの新規開発—

○守谷恵未¹、角 保徳²

国立長寿医療研究センター ¹先端診療部歯科口腔外科

² 歯科口腔先進医療開発センター

演題番号 口15

ディスポーザブル口腔ケアキットによる人工呼吸器関連肺炎の予防

岸本裕充、○門井謙典

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座



昭和大学歯学部
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成28年度シンポジウム

プログラム・抄録集

平成29年3月4日(土)

会場：昭和大学歯科病院 1号棟および2号棟
東京都大田区北千束2-1-1

特別講演：1号棟6階 第2臨床講堂 13:05～15:00

ポスター発表会：2号棟1階 第1会議室 15:00～16:30

問い合わせ先：昭和大学歯学部口腔生理学講座
142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8160

昭和大学歯学部
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
平成28年度シンポジウム

平成29年3月4日（土）

- 特別講演：1号棟6階 第2臨床講堂 13：05～15：00
○ポスター発表会：2号棟1階 第1会議室 15：00～16：30

昭和大学 歯学部
東京都品川区旗の台1-5-8

問い合わせ：口腔生理学講座
TEL 03-3784-8160

ご挨拶

昭和大学大学院歯学研究科 科長 宮崎 隆

毎年開催している文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業のシンポジウムを、今年度は平成 29 年 3 月 4 日（土）に昭和大学歯科病院で開催いたします。

本学では医系総合大学の環境の中で、医学・医療との共通基盤の上に歯学の専門性を生かした新しい歯学研究を推進してきました。現在、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」（今年度が最終年度）と「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」（今年度が 3 年目）の 2 つのプロジェクトを進めています。

毎年、世界的に活躍されている講師をお迎えして、特別講演を頂戴しています。今回は慶應義塾大学医学部長の岡野栄之教授に「幹細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた疾患・創薬の革新的研究」と題した講演、九州大学大学院歯学研究院長の平田雅人教授に「Serendipity を求めて」と題した講演を頂戴いたします。超多忙な日程の中を調整して、私どものために講演していただけることに、篤く感謝申し上げます。両教授の講演を拝聴して、本学の研究が進展することを期待しています。

特別講演に引き続き、ポスターで各研究班の今年度の成果発表を行いますので、情報交換と活発な討議をお願いいたします。

昨年は東京工業大学の太田良典名誉教授がノーベル医学・生理学賞を受賞し、国民に元気を与えてくれました。また、本学は文部科学省があらたにはじめた私立大学研究ブランディング事業に採択されました。4 学部が連携してレドックス医療の研究拠点として大学のブランディングを目指します。大学として国民の健康回復に貢献できるように研究を推進したいと思います。

最後になりましたが、発表会の開催にご努力いただいた上條竜太郎教授ほか委員の先生方に篤く感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月 4 日

ご 挨拶

「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」

研究代表者 上 條 竜太郎

近年、再生医療研究は著しく進歩し、歯科の領域においても、QOLの維持向上のために歯や骨、歯周組織、唾液腺、神経などの再生研究が盛んに進められており、一日も早く実用化されることが期待されております。我が国においてもその実用化が急務ですが、必要とされる技術面、施設面のハードルは高く、特別な設備が整えられたごく僅かな医療機関で実施されているのが現状で、臨床の現場に広く導入されるには至っておりません。先進諸国の多くが再生医療分野への取組みを強化し、世界的に競争が激化していますが、我が国でより多くの科学技術的知見を蓄積し発信することで、再生医療の基盤的な研究開発を推進し、国際的にも主導的な役割を果たすことが重要です。

平成24年度、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」が採択され、5カ年計画で推進して参りましたが、今年度は最終年度となります。本事業では、顎口腔領域に特化し、早期に臨床普及可能な次世代型再生医療の基盤構築を推進する研究拠点形成を目指し、①細胞調整施設（CPC）を用いず手術室で完結する組織再生医療の基盤構築、②生体材料と幹細胞を含む細胞によるハイブリッド型再生医療の実現、③口腔領域の実用可能な細胞ソースの同定ならびに増殖・分化誘導法の開発の3つのサブプロジェクトを推進しました。この5年間で、各研究分担者の先生方によって遂行された研究が結実し、「顎口腔組織再生医療」の実現に結びつく研究成果が得られたものと考えています。また、本プロジェクトにより個々の分野を密接に関連付け、有機的な協力体制を進化させたことで、これまでの研究をさらに加速して「顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」を戦略的に創出する環境を整えることができました。さらに、本プロジェクトで得られた知見は、遺伝子や細胞レベルからヒトなどの個体レベル、さらに化学、物理学、工学、農学、薬学等、広範囲に有用で、さらに、国内外の研究機関との協力関係構築による研究結果の迅速な社会への還元、先端科学技術を応用し、社会的な生産性の実現とそれに貢献しうる人材を広範に養成する研究教育機関としての基盤を強化できたのではないのでしょうか。

本日はポスターで各研究分担者の発表を行います。本プロジェクトの総括とともに、今後の展開につながる情報交換と活発な討議をお願い申し上げます。最後になりましたが、今後の先生方の研究が益々発展しますよう、心から祈念申し上げます。

平成29年3月4日

ご 挨拶

「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」

研究代表者 美 島 健 二

平成 26 年度、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」が採択され 3 回目のシンポジウムとなります。

高齢になり筋力や活力が衰えた段階を「フレイル」(虚弱)と呼び、風邪などの小さなきっかけでも要介護状態に陥る可能性の高い状態とされています。このことから、フレイルを予防することが要介護状態への移行を防ぐことにつながります。フレイルに至る大きな原因の 1 つに全身の筋肉減少症(サルコペニア)があり、本症を改善することによりフレイルを予防することが可能となります。このサルコペニアは加齢に伴う口腔・嚥下機能の低下とも密接に関連しており、口腔の機能の低下した状態をオーラル・フレイル呼び、オーラル・フレイルの改善が全身のフレイル改善へとつながるとも考えられています。したがって、当該研究課題である口腔機能の維持・回復は超高齢社会におけるオーラル・フレイルの予防から全身のフレイルの予防につながり、ひいては要介護状態の予防につながるものと期待されます。したがって、当該プロジェクトは超高齢社会における国民の QOL 向上に直結する極めて重要な課題であると言えます。

本プロジェクトでは昨年度までと同様、(1) 基礎・臨床の研究者の相互的協力体制の推進により、科学的エビデンスに基づいた治療方法の開発、(2) これまで不明であった、口腔ケアや口腔疾患医療の効果を科学的に証明し、従来の医療の再考・改良の牽引、(3) 医学部を含めた各専門分野の研究者が連携することで、これまで不明であった口腔と全身疾患との関係の解明、(4) 次世代の口腔疾患治療に応用可能な実現性の高い医療技術基盤を構築することにより、歯科におけるイノベーションの提言、の 4 つの到達目標が掲げられています。本年度はプロジェクトの前半部分に位置する口腔環境の恒常性維持・破綻のメカニズムの解明を行う基礎研究から、そこで得られたエビデンスを共有し、次世代の新しい口腔ケアシステムを確立する臨床研究へと移行する期間にあたります。本年度得られた知識を研究者間でしっかりと共有し、新しい口腔ケアシステムの確立に役立てて頂きたいと思えます。

最後になりましたが、発表会の開催にご尽力頂きました関係者各位に心より御礼申し上げます。本ポスター発表会においては、昨年度の成果に加え新たに得られた最新の知見を中心に活発な討議が行われることと期待されます。

平成 29 年 3 月 4 日

日 程

13:00~13:05 (1号棟6階 第2臨床講堂)

発表会開催のあいさつ 歯学研究科 科長 宮崎 隆 教授

13:05~15:00 (1号棟6階 第2臨床講堂)

特別講演

13:05~14:00

特別講演 1

慶應義塾大学医学部長 岡野 栄之 先生

演題：『幹細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた疾患・創薬の革新的研究』

座長 馬場 一美 教授

14:05~15:00

特別講演 2

九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学講座口腔細胞工学分野 教授

九州大学大学院歯学研究院長 平田 雅人 先生

演題：『Serendipity を求めて』

座長 上條 竜太郎 教授

15:00~16:30 (2号棟1階 第1会議室)

(講演後のため時間が前後する場合がございます)

ポスター発表会

16:30 (2号棟1階 第1会議室)

閉会のあいさつ 昭和大学歯科病院 病院長 榎 宏太郎 教授

ポスター発表についてのご案内

1. 場所・時間

2号棟1階 第1会議室

3月4日（土） 15:00～16:30（講演後のため前後する可能性があります。）

2. ポスターの掲示と撤去について

ポスターの貼付け：当日（3月4日〔土〕）の10:30～12:30の間に掲示してください。

事務局で専用の両面テープを準備しておりますのでそちらをご使用ください。

ポスターの撤去：当日（3月4日〔土〕）の16:30（閉会后）に撤去してください。

※閉会前のポスター撤去はご遠慮ください。

3. ポスターの大きさ

サイズ：縦90cm × 横120cm以内

※ポスターのサイズは昨年度と同様です。

※縦の長さにつきましては、90cmを少し超えても構いません。

ただし、ポスターボードの縦サイズが90cmですので、それを考慮して作成してください。

4. 発表形式：ポスター

15:00～15:45（討論1）

「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」

15:45～16:30（討論2）

「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」

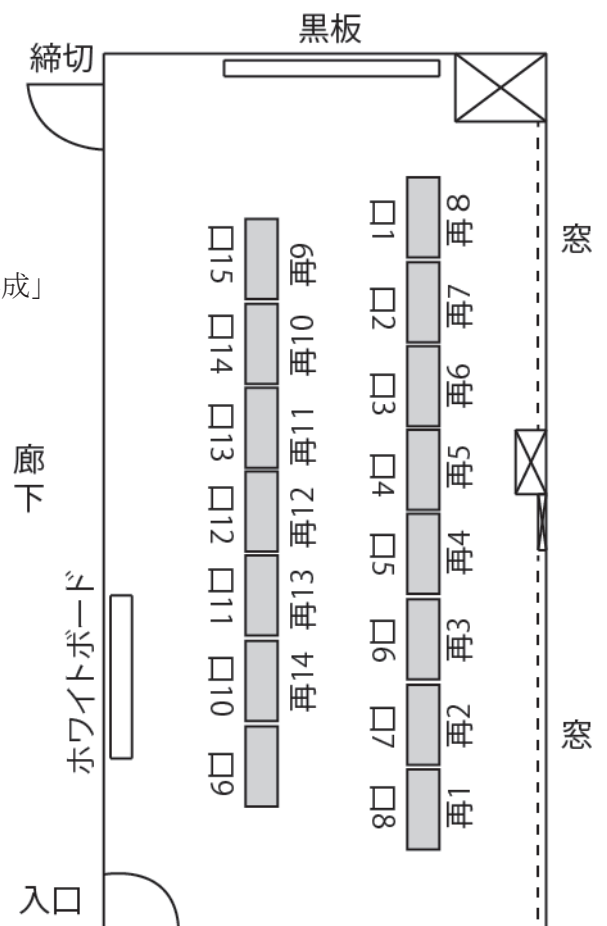
発表者はポスターの前で研究内容を説明してください。

活発なご討論をお願い致します。

5. ポスター貼付け位置

各演題の貼付位置は右図のようになっております。

（「再」再生医療、「口」口腔機能）



特別講演目次

1. 幹細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた
疾患・創薬の革新的研究

慶應義塾大学医学部長
岡野 栄之 先生

2. Serendipity を求めて

九州大学大学院
歯学研究院長・歯学府長・歯学部長
口腔細胞工学分野 教授
平田 雅人 先生

幹細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた 疾患・創薬の革新的研究

慶應義塾大学医学部長

岡野 栄之 先生

成体由来の体細胞に少数の転写因子の遺伝子を導入するだけで、多能性をもつ人工多能性幹細胞 (=iPS 細胞) を作成することが可能となり、再生医療研究や疾患研究において大きな期待を集めている。私達は、マウスおよびヒト iPS 細胞由来の神経前駆細胞をマウスおよびサルの脊髄損傷モデルへ移植することにより、適切な iPS 細胞株を用いることにより、長期間に渡り腫瘍原性なく、機能回復を誘導することに成功した。今後 CiRA から提供予定の臨床グレードのヒト iPS 細胞ストックを用いて、腫瘍原性を始めとした安全性の検証を含め、どのように臨床の現場へ応用していくかの道筋をお話する。

一方 iPS 細胞技術のもう一つの応用例として疾患モデル研究があげられる。一方、ヒトの精神・神経疾患の研究が困難である理由として、①疾患モデルマウスが必ずしもヒトの病態を反映しない、②ゲノムでの遺伝子変異と表現型の因果関係を証明することが難しいことがある、③剖検脳の解析だけでは、疾患の onset において in vivo で何が起きているかを知ることが困難である、④疾患感受性細胞 (脳の細胞) への accessibility が低い、④病態の中核を構成する神経回路が、同定されていない事が多いなどの事が挙げられる。我々は、これらの点を克服するために、iPS 細胞技術を用いた解決を試みている。これ迄我々は、40 以上の精神・神経疾患患者より iPS 細胞を樹立し、病態を解析している。これらは、①小児神経疾患、②感覚器疾患、③精神疾患、④晩発性の神経変性疾患に分類出来る。本日は、ALS、アルツハイマー病、パーキンソン病などを中心に病態解析、創薬研究の成果について概説したい。

略 歴

【勤務先】

慶應義塾大学医学部 生理学教室
〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35
TEL: 03-5363-3747 FAX: 03-3357-5445
e-mail: hidokano@a2.keio.jp



【略 歴】

昭和 34 年 1 月 26 日 生まれ
昭和 52 年 4 月 慶應義塾大学医学部入学
昭和 58 年 3 月 慶應義塾大学医学部卒業
昭和 58 年 4 月 慶應義塾大学医学部生理学教室（塚田裕三教授）助手
昭和 60 年 8 月 大阪大学蛋白質研究所（御子柴克彦教授）助手
平成元年 10 月 米国ジョンス・ホプキンス大学医学部生物化学教室
（クレイグ・モンテル博士）に留学
平成 3 年 10 月 大阪大学蛋白質研究所（御子柴克彦教授）助手
平成 4 年 4 月 東京大学医科学研究所化学研究部（御子柴克彦教授）助手
平成 6 年 9 月 筑波大学基礎医学系分子神経生物学教授
平成 9 年 4 月 大阪大学医学部神経機能解剖学研究部教授
（平成 11 年 4 月より大学院重点化に伴い大阪大学大学院医学系研究科教授）
平成 13 年 4 月 慶應義塾大学医学部生理学教室教授（～現在に至る）
平成 19 年 10 月 慶應義塾大学大学院医学研究科委員長
平成 20 年 オーストラリア・Queensland 大学客員教授（～現在に至る）
平成 27 年 4 月 慶應義塾大学医学部長

【主な研究費】

平成 15 年 8 月 21 世紀型 COE プログラム「幹細胞医学と免疫学の基礎-臨床一体型拠点」（医学系、慶應義塾大学）拠点リーダー
平成 20 年 7 月 グローバル COE プログラム「幹細胞医学のための教育研究拠点」（医学系、慶應義塾大学）拠点リーダー
平成 22 年 3 月 内閣府・最先端研究開発支援プログラム(FIRST プログラム)「心を生み出す神経基盤の遺伝学的解析の戦略的展開」・中心研究者
（～平成 26 年 3 月まで）
平成 25 年 4 月 JST・再生医療実現拠点ネットワークプログラム（拠点 A）「iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脊髄損傷・脳梗塞の再生医療」・拠点長
平成 26 年 6 月 文部科学省・革新的技術による脳機能ネットワーク全容解明プロジェクト（中核機関・理化学研究所）・代表研究者

【資格・学位】

昭和 58 年 7 月 医師免許（昭和 58 年 5 月医師国家試験合格）

昭和 63 年 7 月 慶應義塾大学より医学博士

【主たる研究領域】

分子神経生物学、発生生物学、再生医学

【受賞歴】

昭和 63 年 慶應義塾大学医学部同窓会・三四会より、三四会賞受賞

平成 7 年 加藤淑裕記念事業団より、加藤淑裕賞受賞

平成 10 年 慶應義塾大学医学部より、北里賞受賞

平成 13 年 ブレインサイエンス振興財団より、塚原仲晃賞受賞

平成 16 年 東京テクノフォーラム 21 より、ゴールドメダル賞受賞

平成 16 年 イタリア・Catania 大学より、Distinguished Scientists Award 受賞

平成 16 年 日本医師会より、日本医師会医学賞受賞

平成 18 年 文部科学大臣表彰・科学技術賞受賞

平成 19 年 Stem Cells 誌より、Lead Reviewer Award 受賞

平成 20 年 井上科学振興財団より、井上学術賞

平成 21 年 紫綬褒章受章「神経科学」

平成 23 年 日本再生医療学会より、Johnson & Johnson Innovation Award 受賞

平成 25 年 Stem Cell Innovator Award 受賞 (GeneExpression Systems & Apasani Research Conference USA より)

平成 26 年 第 51 回ベルツ賞 (1 等賞) 受賞

平成 28 年 The Association for the Study of Neurons and Diseases (A.N.D.)より、Molecular Brain Award 受賞

【主たる所属学会と活動状況】

2007 年 第 28 回 日本炎症・再生医学会 会長

2008 年 第 31 回 日本神経科学大会 大会長

【現在の役職】

日本神経科学学会 副会長 (パネル理事)

日本炎症・再生医学会 第 9 期理事

日本炎症・再生医学会 評議員

American Society for Neural Therapy and Repair (ASNTR Fellow)

一般社団法人国際個別化医療学会 理事

日本再生医療学会 理事 代議員

日本生理学会 理事

国際幹細胞学会 ISSCR 理事

日本神経化学会 理事

日本末梢神経学会 理事

Serendipity を求めて

九州大学大学院
歯学研究院長・歯学府長・歯学部長
口腔細胞工学分野 教授
平田 雅人 先生

Serendipity とは偶然に大発見をする資質や発見した物を意味します。日々の研究活動の中で偶然にやってくる様ですが、これを受け入れるためには準備した智慧や心が必要です。これからの若い人には広い智慧と心を養って欲しいと思っています。

私がそうして来たということではなく、約 40 年のこれまでの小さなサイエンティスト人生を終えるに当たり、振り返って反省し若い方へのメッセージとしたいと思います。

私はイノシトール 1,4,5-三リン酸 (IP3) を認識するタンパク質に関する研究から、新規の IP3 結合性タンパク質を見出しました。構造的特徴から PRIP (phospholipase C-related, but catalytically inactive protein) と名付けて機能解析を目指し、タンパク質分子としての解析を通して、細胞内や動物個体での役割について研究してきました。

PRIP 分子のノックアウトマウスが高い骨密度 (高オステオカルシン血清)、高インスリン血清、やせ体型を呈することから、オステオカルシンを介する糖質・脂質代謝に関する研究へとシフトしました。

これらの研究の成果の一端を紹介させていただきます。

略 歴

【所 属】

九州大学大学院
歯学研究院長・歯学府長・歯学部長
口腔細胞工学分野 教授

【学 歴】

昭和51年 3月31日 (1976) 九州大学歯学部 卒業
昭和51年 4月 1日 (1976) 九州大学大学院歯学研究科 入学
昭和51年 3月31日 (1980) 同上 修了

【職 歴】

昭和55年 4月 1日 (1980) 九州大学医学部助手 (臨床薬理学教室)
昭和56年 3月16日 (1981) 九州大学歯学部助手 (生化学教室)
昭和59年 1月 1日 (1984) 同上 講師
昭和63年 4月 1日 (1988) 同上 助教授
平成 8年 8月16日 (1996) 同上 教授
平成12年 4月 1日 (2000) 九州大学大学院歯学研究院教授
(機構改革による名称変更)
平成22年 10月 1日 (2010) 九州大学評議員 (平成24年3月31日まで)
平成27年 4月 1日 (2015) 九州大学大学院歯学研究院長・歯学府長・歯学部長

【所属学会】

歯科基礎医学会 (理事・評議員・監事などを歴任)
日本薬理学会 (評議員)
日本生化学会 (理事・評議員を歴任)

【非常勤講師】

大学非常勤講師多数

【受 賞】

第2回歯科基礎医学会ライオン学術賞 (平成14年10月)

【公 職】

日本学術会議、厚生労働省、日本学術振興会などの各種委員を歴任

ポスター発表演題目次

次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成

演題番号 再1

脂肪組織由来再生細胞とアテロコラーゲンスポンジを応用した膝関節半月板治療法の開発

○糸瀬昌克^{1,2}、須澤徹夫¹、稲垣克記³、代田達夫²、上條竜太郎¹

昭和大学¹歯学部口腔生化学講座、²歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門

³医学部整形外科学講座

演題番号 再2

唾液腺の再生過程における脂肪幹細胞の役割

○安原理佳、田中準一、入江太朗、福島美和子、河野葉子、美島健二

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 再3

高イオン強度溶液を用いたエナメル質の結晶構造改質

○田中玲奈、柴田 陽、周 君、宮崎 隆

昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門

演題番号 再4

iPS細胞を用いた5-HT2A遺伝子多型をもつ睡眠時ブラキシズム疾患モデルの確立

○米今一晃¹、中井健人¹、帆足有理恵¹、松本貴志¹、吉田裕哉¹、田中準一²、安部友佳¹、美島健二²、馬場一美¹

昭和大学歯学部¹歯科補綴学講座、²口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

演題番号 再5

遺伝子改変メダカを用いた生体内破骨前駆細胞の解析

○茶谷昌宏^{1,2}、青野一志²、畔津佑季¹、工藤 明²、高見正道¹

¹昭和大学歯学部歯科薬理学講座、²東京工業大学大学院生命理工学院

演題番号 再6

セロトニンはNMDA受容体に作用し咬筋運動ニューロンの興奮性を増大する

○壇辻昌典^{1,2}、中村史朗¹、望月文子¹、中山希世美¹、清本聖文¹、尾関雅彦²、井上富雄¹
昭和大学歯学部¹口腔生理学講座、²インプラント歯科学講座

演題番号 再7

デンチャープラーク細菌叢の網羅的解析と全身疾患との関連の評価

○塚原明弘¹、久志本那奈¹、福西美弥¹、池谷賢二¹、森崎弘史²、岩佐文則¹、馬場一美¹
昭和大学歯学部¹歯科補綴学講座、²口腔微生物学講座

演題番号 再8

鼻甲介の神経堤由来細胞による骨形成誘導の基礎研究

吉田 寛^{1,2}、○須澤徹夫¹、高橋正皓²、小野美樹²、高見正道³、榎 宏太郎²、
上條竜太郎¹
昭和大学歯学部¹口腔生化学講座、²歯科矯正学講座、³歯科薬理学講座

演題番号 再9

microRNAをターゲットとした歯周組織再生における治療基盤の確立

○吉村健太郎¹、山田 篤¹、須澤徹夫¹、宮本洋一¹、鈴木 大¹、宇山理紗¹、山本松男²、
上條竜太郎¹
昭和大学歯学部¹口腔生化学講座、²歯周病学講座

演題番号 再10

発達期脳神経における全身麻酔薬による細胞死誘導の検討

○今野 歩¹、西村晶子¹、中村史朗²、望月文子²、山田 篤³、上條竜太郎³、井上富雄²、
飯島毅彦¹
昭和大学歯学部¹全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門、²口腔生理学講座
³口腔生化学講座

演題番号 再11

ヘリオキサンチン誘導体の破骨細胞分化過程に及ぼす抑制効果

○犬伏正和¹、岩城 太¹、天野 均¹、大庭伸介²、大浦 清¹
¹大阪歯科大学歯学部薬理学講座
²東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング

演題番号 再12

歯根形態形成に關与する遺伝子の探索

○疋田 悠¹、山口徹太郎¹、中脇貴俊¹、富田大介¹、Mohamed Adel¹、木村亮介²、
槇 宏太郎¹

¹昭和大学歯学部歯科矯正学講座、²琉球大学大学院医学研究科人体解剖学講座

演題番号 再13

リン酸カルシウム骨補填材のマウス骨細胞様細胞株に与える影響

○蔡 優広^{1,2}、塩飽由香利^{1,3}、穴田貴久¹、土屋香織¹、宮本洋一⁴、上條竜太郎⁴、
高橋 哲²、鈴木 治¹

東北大学大学院歯学研究科¹顎口腔機能創建学分野、²顎顔面・口腔外科学分野

³歯学イノベーションリエゾンセンター、⁴昭和大学歯学部口腔生化学講座

演題番号 再14

新規再生組織「インプラント型再生軟骨」の確立

○高戸 毅

東京大学医学部附属病院 顎口腔外科・歯科矯正歯科

口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成

演題番号 口1

唾液腺発生過程における転写因子の機能解析

○田中準一¹、大庭伸介²、馬淵 洋³、安原理佳¹、入江太朗¹、福島美和子¹、
河野葉子¹、美島健二¹

¹昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門

²東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻

³東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科分子生命情報解析学分野

演題番号 口2

窒素含有型ビスホスホネートは、G-CSF 産生刺激を介して腹腔内に新規造血構造の形成を誘導する

○大塚裕忠、柳澤伸彰、野中直子、中島 功、中村雅典

昭和大学歯学部口腔解剖学講座

演題番号 口3

低分子 RNA による細菌病原性関連因子の発現制御

大田千明²、○森崎弘史¹、有本隆文¹、深町はるか¹、片岡嗣雄¹、鈴木規元²、
増田宜子³、宮崎 隆²、桑田啓貴¹

昭和大学歯学部¹口腔微生物学講座、²歯科保存学講座歯内治療学部門

³明海大学歯学部薬医学研究室

演題番号 口4

ラット三叉神経運動核背側領域に存在する Phox2b 陽性ニューロンの生理学的・形態学的特性

○那小屋公太^{1,2}、中村史朗¹、池田啓子³、鬼丸 洋⁴、吉田 篤⁵、中山希世美¹、
望月文子¹、清本聖文¹、佐藤文彦⁵、川上 潔⁶、高橋浩二²、井上富雄¹

昭和大学歯学部¹口腔生理学講座、²口腔リハビリテーション医学部門

³兵庫医科大学医学部生物学、⁴昭和大学医学部生理学生体調節機能学部門

⁵大阪大学歯学部口腔解剖学第二、⁶自治医科大学医学部細胞生物研究部

演題番号 口5

口腔粘膜の神経堤由来細胞は新規一酸化窒素代謝産物 8-nitro-cGMP を産生する

○金子児太郎^{1,2}、須澤徹夫¹、宮本洋一¹、近津大地²、上條竜太郎¹

¹昭和大学歯学部口腔生化学講座、²東京医科大学医学部口腔外科学講座

演題番号 口6

骨吸収抑制作用を有する抗 RANKL 抗体を妊娠マウスに投与した時に認められる骨格等の異常について

○坂井信裕¹、岡松伸明^{1,2}、根岸・古賀貴子¹、唐川亜希子¹、稲垣克記²、木内祐二³、小口勝司³、高見正道¹

昭和大学¹歯学部歯科薬理学講座、²医学部整形外科学講座

³医学部薬理学講座医科薬理学部門

演題番号 口7

造血幹細胞移植に伴う口腔粘膜障害に関与する口腔内細菌叢の変化

○弘中祥司¹、刑部 月¹、内海明美¹、齋藤文護²、中牧 剛²

昭和大学¹歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門

²医学部内科学講座血液内科学部門

演題番号 口8

昭和大学病院におけるがん口腔支持療法の基盤構築と前向き観察研究

佐々木康綱

昭和大学医学部内科学講座腫瘍内科学部門

演題番号 口9

55 歳以上の造血器悪性腫瘍患者に対するブスルファンを用いた骨髄破壊的移植 ～移植後早期感染症を中心に～

○齋藤文護、中牧 剛

昭和大学医学部内科学講座血液内科部門

演題番号 口10

患者立脚型評価を用いたインプラント治療介入効果に作用する因子の解明

○武川佳世、樋口大輔、松本貴志、原 真央子、横山紗和子、楠本友里子、馬場一美

昭和大学歯学部歯科補綴学講座

演題番号 口11

マウスピース型矯正装置におけるアタッチメントの効果：三次元有限要素法による解析

○後藤真理子、柳澤若菜、榎 宏太郎

昭和大学歯学部歯科矯正学講座

演題番号 口12

**嚥下前に発話された母音の湿性度の聴覚的評価による嚥下障害の予測
—頭頸部腫瘍患者を対象として—**

○高橋浩二、大沼光司、伊原良明、横山 薫、湯浅 研、野末真司

昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門

演題番号 口13

臓器形成における性ホルモンの役割 —唾液腺性差と Runx1 の制御機構—

小野 瞳¹、Sarper Safiye Esra²、山城 隆²、阪井丘芳¹

¹大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室

²大阪大学大学院歯学研究科顎顔面口腔矯正学教室

演題番号 口14

口腔ケア用ジェルの客観的物性評価

○守谷恵未¹、角 保徳²

国立長寿医療研究センター¹先端診療部歯科口腔外科、²歯科口腔先進医療開発センター

演題番号 口15

骨吸収抑制薬を非休薬下で抜歯した患者における顎骨壊死の発症

○岸本裕充、首藤敦史、高岡一樹、野口一馬

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座

from NAGASAKI が第3回総会を「チームアプローチ」のテーマで開催

明日の臨床に活かせるトピックについて各団体の垣根を越えて情報交換

さる3月22日(日)、日本歯科大学九段ホールにて、from NAGASAKI(主宰：大多良俊光氏・東京都開業)の第3回総会が「チームアプローチ」をテーマで開催された。

インプラント補綴、歯科のヘルスケアマネジメント、審美修復、CAD/CAMなど、多岐にわたる明日の臨床に活かせるトピックについて各団体の垣根を越えて情報交換することを目的とした若手主体のスタディグループであるfrom NAGASAKI。本総会でも、多岐にわたるトピックについて、蓮見愛氏(千葉県・歯科衛生士)、中野忠彦氏(東京都開業)、千早洋嗣氏(東京都開業)、沼澤秀之氏(東京都開業)、藤波淳氏(神奈川県開業)ら15名の演者が登壇した。

なかでも注目を集めた「the direct bond restoration」と題した八木洋二郎氏(東京都勤務)の講演では、ドロップコーンテクニックを紹介。ドロップコーンテク



ニックとは、歯質の欠損部位に咬頭、辺縁隆線、隆線の順に、フロアブルレジンを少しずつ直接盛っていく技法である。非吸水性のボンディング材「G ボンドプラス」を用いることで、歯質とコンポジットレジンの境界線につく褐線をめだたなくし、さらにフロアブルレジンをを用いることで、隙間なく充填できるので気泡が入らないため、審美的で堅牢な修復が行えるという。非適応症は、歯肉縁下深いところ、防湿が難しい部位で、歯質の欠損の大きさは影響がないと思われると述べた。

また、「歯肉縁下マージン——その理論

と実際」と題した千早氏の講演では、歯肉縁下マージンでクラウンを設計するとき、自浄性を引きだす形態と表面性状を考慮した技法を提案。クラウンの表面性状は、クラウンと歯肉が上皮付着する面をセラミックスでとくに滑沢に、結合組織と接する部分もジルコニアで滑沢にし、歯肉縁上部の面は自然な表面性状を与える。そうすることで、歯肉縁下マージンであっても、上皮付着エリアであれば、付着が得られて歯周組織への侵襲がない補綴処置が可能で、低侵襲で審美的な修復の結果が得られると述べた。

昭和大学歯科病院で私立大学戦略的研究基盤形成支援事業平成26年度合同シンポジウム開催

2題の特別講演と3つのプロジェクトの合計54研究テーマの研究結果が発表される

宮本洋一(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

昭和大学歯学部では、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、平成22年度から始まり今回完成年度を迎える「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点の形成—アンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生—」(代表：宮崎隆歯学研究科長)と平成24年度から開始された「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」(代表：上條竜太郎教授)、平成26年度から新たに開始された「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の3つの5か年計画の研究プロジェクトが進められている。これら3プロジェクトの平成26年度合同シンポジウムが、3月28日(土)、東京・大田区の同大歯科病院で開催された。

宮崎歯学研究科長によるシンポジウム開会の挨拶に続き、九州大学大学院歯学研究



科口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野教授で日本学術会議歯学委員会委員長である古谷野潔先生による「日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望」および東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻の工藤明教授による「メダカを用いた骨代謝機構の解明；国



際宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常」の2題の特別講演が開催された。その後、各プロジェクトに所属する昭和大学内外の研究分担者による研究成果報告会に移った。3つのプロジェクトの合計54研究テーマの研究結果がポスター発表された。

昭和大学歯学部 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成 26 年度シンポジウム

宮本洋一 Yoichi Miyamoto

昭和大学歯学部口腔生化学講座

3月28日、昭和大学歯学部を中心にいずれも5カ年計画で進めている3件の文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、「デンタルイノベーション」を目指した集学的研究拠点の形成—アンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生—(代表:宮崎隆歯学研究科長)、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」(代表:上條竜太郎教授)および「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」(代表:美島健二教授)の平成26年度合同シンポジウムが、昭和大学歯科病院(東京都大田区)にて開催された。

「デンタルイノベーション」を目指した集学的研究拠点の形成は、顎口腔におけるエイジングのメカニズム解明とアンチエイジングの推進を目指して平成22年に発足したプロジェクトである。昭和大学歯学部各講座、国立長寿医療研究センター歯科口腔先端医療開発センター、埼玉医科大学生理学教室、東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻の研究者で構成され、今回が最終年度の研究報告会となる。

平成24年度に開始された「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」は、昭和大学歯学部のほか、東北大学大学院歯学研究科顎口腔機能創建学分野、東京大学医学部附属病院顎口腔外科・歯科矯正科、大阪歯科大学薬理学講座の研究者が、顎口腔領域に特化した臨床普及可能な次世代型再生医療の基盤構築を目指すもので、今回は3年目の中間報告の年にあたる。

平成26年度に採択された「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」は、昭和大学歯学部のほか、同大医学部内科学講座、大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室、国立長寿医療研究センター歯科口腔先端医療開発センター、兵庫医科大学歯科口腔外科学講座の研究者で構成され、粘膜、唾液、歯、神経などの口腔環境の恒常性維持・破綻機序を解析し、そこで得られるエビデンスに基づいて、嚥下、顎骨壊死、補綴、矯正、口腔ケアなどを対象にした革新的な医療技術の開発を目指している。

今回の合同シンポジウムでは、第23期日本学術会議歯学委員会委員長である九州大学大学院歯学研究院口腔

機能修復学講座の古谷野 潔教授による「日本学術会議歯学委員会の活動と今後の歯科医学の展望」、東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻の工藤 明教授による「メダカを用いた骨代謝機構の解明;国際宇宙ステーションにおける無重力下での歯と骨の異常」の2題の特別講演が開催された。古谷野氏は、中長期アクションプランの策定など日本学術会議の活動を紹介した。また、工藤氏は、国際宇宙ステーションの実験棟「きぼう」で実施されたトランスジェニックメダカを用いた実験で得られた、咽頭歯骨の破骨細胞および骨芽細胞への重力の影響について解説した。

特別講演に引き続き、各プロジェクトの研究分担者による研究成果報告会が開催された。「デンタルイノベーション」を目指した集学的研究拠点の形成」の24課題、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」の15課題、「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の15課題の進捗状況がポスター発表され、熱心な討論と情報交換が行われた。



図1 左から宮崎研究科長、古谷野教授、工藤教授

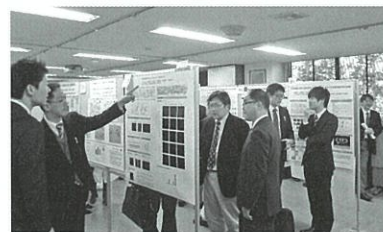


図2 ポスター会場

■ 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 ■ 昭和大学歯学部 平成 27 年度シンポジウム

中村史朗 Shiro Nakamura

昭和大学歯学部口腔生理学講座

3月12日、昭和大学歯学部が5カ年計画で進めている「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」(代表:上條竜太郎 教授)および「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」(代表:美島健二 教授)の2研究プロジェクトの平成27年度合同シンポジウムが、昭和大学歯科病院(東京都大田区)にて開催された。

これらの研究プロジェクトは、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として文部科学省より支援を受けて進められているものである。

平成24年度に開始された「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」プロジェクトは、昭和大学歯学部のほか、東北大学大学院歯学研究科顎口腔機能創建学分野、東京大学医学部付属病院顎口腔外科・歯科矯正科、大阪歯科大学薬理学講座などさまざまな分野の研究者が、顎口腔領域に特化した臨床応用可能な次世代型再生医療の基盤構築を目指したものである。

平成26年度に開始された「口腔機

能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」プロジェクトでは、昭和大学歯学部のほか、同大医学部腫瘍内科学講座、大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室、国立長寿医療研究センター歯科口腔先端医療開発センター、兵庫医科大学歯科口腔外科学講座など、基礎と臨床の多くの研究者が集結している。粘膜、唾液、歯、神経などの口腔環境の恒常性維持・破綻機序を解析し、得られた結果に基づいて、嚥下、顎骨壊死、補綴、矯正、口腔ケアなどを対象にした高度で革新的な医療技術の開発を進めている。

シンポジウムの開催は、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」プロジェクトが今回で4回目、「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」プロジェクトが今回で2回目となる。

宮崎 隆 歯学研究科長によるシンポジウム開会の挨拶に続き、東北大学大学院医学研究科発生発達神経科学分野の大隅典子 教授による「神経幹

胞としての神経堤細胞の魅力」、東京大学医学研究所炎症免疫学分野の清野 宏 教授による「粘膜マルチエコシステムによる共生と排除」の2題の特別講演が行われた。大隅氏は、多彩な役割を果たす神経堤細胞の起源や発生過程について自身の研究成果を交えながら解説した。また、清野氏は、消化管粘膜がもつ3つの生物学的エコシステム、すなわち微生物群、上皮細胞-間葉系細胞群、そして免疫担当細胞群の間の相互・協調作用から、免疫粘膜機構を利用した新しいワクチン開発の取り組みまで、幅広い研究内容を紹介した。

引き続き行われた、各プロジェクトの研究分担者による研究成果報告会では、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」の15課題、「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の15課題のこれまでの研究成果がポスター発表され、活発な議論と意見交換が行われた。



図1 宮崎歯学研究科長



図2 大隅教授



図3 清野教授

第25回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会開催される

『『周術期管理』—有病者歯科医療を支えるもの—』を大会テーマに



さる3月5日(土)、6日(日)の両日、東京・タワーホール船堀において、第25回(一社)日本有病者歯科医療学会総会・学術大会(渋谷鑑大会長:日大松戸教授)が開催された。『『周術期管理』—有病者歯科医療を支えるもの—』を大会テーマに据え、2日間で約700名が参集した。主な演題・演者は以下のとおり。

・日本有病者歯科医療学会・日本歯科麻酔学会合同シンポジウム「有病者歯科医療

のなかで静脈内鎮静法をいかに活用するか」(宮脇卓也氏:岡山大、瀬戸美夏氏:福岡大、縣秀栄氏:NHO 橋木医療センター)

・教育講演「肝臓病治療の最前線」(中村仁美氏、高山忠利氏:ともに日大医学部)

・日本歯科医学会会長講演「学会、存在の耐えられない軽さ、そしてこれからの存在意義」(住友雅人氏:日本歯科医学会会長)

・学術教育研修会「術後回復促進策を理解する—エビデンスに基づいた周術期管理における工夫のパッケージング ERAS—」(谷口英嘉氏:保健福祉大、笹尾真美氏:鶴見大)

・日本有病者歯科医療学会・日本歯科薬物療法学会合同シンポジウム「外来処方の勘どころ—効果的処方、相互作用について—」(金子明真氏:東海大、佐野公人氏:日歯大、鈴木勉氏:星薬科大)

・歯科衛生士セッション「有病者歯科医療を支える歯科衛生士の役割—歯科衛生士による全身管理・栄養管理—」(古川由美子氏:熊本機能病院訪問歯科連携センター、安田源子氏:地域食支援グループハッピーリース、安達恵利子氏:上志津中央歯科)

・基調講演「より早期からの包括的虚弱予防戦略—『オール・フレイル』から再考する—」(飯島勝矢氏:東大高齢社会総合研究機構)

・特別講演・市民公開講座「貝原益軒の「養生訓」と現代の養生」(酒井シヅ子氏:順天堂大)

演者には、医師・歯科医師だけでなく、歯科衛生士や管理栄養士も含まれており、有病者歯科医療の発展に向けて多職種が求められていることが再確認された。

昭和大学歯学部文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
平成27年度シンポジウム開催される

2つの大型研究プロジェクトがそれぞれ5か年計画で進行

中村史朗(昭和大学歯学部口腔生理学講座)



昭和大学歯学部では、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、平成24年度から「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」(研究代表者:上條竜太郎教授)、平成26年度から「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形

成」(研究代表者:美島健二教授)の2つの大型研究プロジェクトがそれぞれ5か年計画で進められている。これら2プロジェクトの平成27年度合同シンポジウムが、3月12日(土)、東京・昭和大学歯科病院にて開催された。

シンポジウムでは、宮崎隆歯学研究科長によるシンポジウム開会の挨拶に続き、東北大学大学院医学研究科発生発達神経科学分野の大隈典子教授による「神経幹細胞としての神経堤細胞の魅力」、東京大学医科学研究所炎症免疫学分野の清野宏教授による「粘膜マルチエコシステムによる共生と排除」の2題の特別講演が開催された。

引き続き、各プロジェクトに所属する昭和大学内外の研究分担者による研究成果報告会が行われた。「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」プロジェクトから15課題、「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」プロジェクトから15課題の研究結果・進捗状況がポスター発表され、参加者による活発な議論と情報交換が行われた。

厚労省人事 歯科保健課長に田口円裕氏、歯科医療管理官に小椋正之氏が就任

このほど厚生労働省で人事異動があり、医政局歯科保健課長であった高山佳則氏が3月31日付で辞職。その後任に保険局歯科医療管理官であった田口円裕氏が4月1日付で就任。また、田口氏の後任の歯科医療管理官には保険局医療課課長補佐の小椋正之氏が同じく4月1日付で就任した。田口・小椋両氏の略歴は以下に示すとおりである。

田口氏は平成元年に長崎大学歯学部を卒業後、同大歯学部・文部教官助手（予防歯科学講座）を務め、平成6年に厚生省（当時）に入省し医療指導監査官。その後、山形県環境保健部・健康福祉部歯科保健専門員、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター審査官、厚生省歯科保健医療調整官、埼玉県健康福



4月6日開催の社会保障審議会医療部に臨む田口円裕歯科保健課長。



4月13日開催の中医協総会に臨む小椋正之歯科医療管理官。

祉部健康づくり支援課副参事、社会保険診療報酬支払基金歯科専門役、厚生労働省保険局歯科医療管理官などを経て、現職に就任した。

また、小椋氏は平成6年に長崎大学歯学部を卒業後、国立公衆衛生院専門課程修了。岡山大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）を経て、平成10年4月に厚生省に入省。その後、

富山県厚生部健康課、厚生労働省医政局医事課試験免許室、健康局総務課地域保健室、医政局歯科保健課・老健局老人保健課、近畿厚生局医事課長、厚労省医政局歯科保健課課長補佐、同課歯科口腔保健推進室長併任、保険局医療課課長補佐などを経て、現職に就任した。

昭和大学（歯）が文科省支援事業の平成27年度シンポジウムを開催

昭和大学歯学部では文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、①「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」（代表：上條竜太郎教授）、②「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」（代表：美島健二教授）の2つの大規模研究プロジェクトが、それぞれ5カ年計画で進められている。①は平成24年度、②は平成26年度に開始されたが、これら2つのプロジェクトの平成27年度合同シンポジウムが3月12日（土）、昭和大学歯科病院（東京都大田区）において開催された。

宮崎 隆歯学研究科長によるシンポジウム開会の挨拶に続き、東北大学大学院医学研究科発生発達神経科学分野の大隅典子教授による「神経

シンポジウムのポスター発表より、学内外の研究者が多数参加し、計30課題の研究結果・進捗状況のポスター発表に対して、活発な議論と有意義な意見交換が行われた。



幹細胞としての神経堤細胞の魅力」、東京大学医科学研究所炎症免疫学分野の清野 宏教授による「粘膜マルチエコシステムによる共生と排除」の2題の特別講演が有意義に行われた。

引き続き、①②の各プロジェクトに所属する昭和大学内外の研究分担者による研究成果報告会に移った。①のプロジェクトから15課題（「脂

肪組織由来再生細胞による手術室内で完結できる半月板治療の基礎研究」ほか）、②のプロジェクトからも15課題（「Sox9を介したマウス唾液腺組織幹細胞の機能解析」ほか）の研究結果・進捗状況がポスター発表され、参加者による活発な議論と意見交換が行われるなど、次年度における研究の進化が期待される場となった。